(一五〇六)　我輩ハ十八世紀ノ半ハ以來英吉利ニ於テ此問題ノ湧沸ニ種々ノ資格ヲ以テ關連シタル著明ナル二箇ノ名ヲ見ル、ホウハールド　ブラクストーン　バンターム　ノ三氏則チ是ナリ

ホウハールドハ此事業ニ關シ三者中ノ特別家ニシテ此事業ニ其身ヲ委ネ數回ノ旅行ヲ爲シテ歐羅巴及ヒ土耳基ノ獄舍、病院避病所ヲ歷視シ遂ニ此巡回ノ一中セルソンニ於テ傳染病ヲ感シ榮名ヲ博シテ鬼籍ニ入リタリ、須カラク氏カ筆ヲ執リタル記錄ニ就テ當時即チ十八世紀ニ於テ歐州ノ最モ開明シタル諸國ノ獄舍ト呼ヶ者ハ如何ナル物ナリシカ又實ニ悲哀ス可キ放棄ト實ニ忍ヒサル苛酷トノ改正カ此當時ニアリテハ刑法上ノ問題トセスシテ止タル情ニ係ル問題トシテ如何カ提出セラレタリシカヲ見ル可シ(一)

(一)　ジョン、ホワードハ千七百二十七年ニ生レテ千七百九十年ニ死セリ」　氏カ自ラ巡視シタル獄舍、病院及ヒ避病所ノ有樣ニ關スル著書ハ千七百七十年ト千七百八十年ト千七百八十四年ト千七百八十九年トニ於テ公布セラレタリ、中ニ就テ最初ノ部分ハ千七百八十八年佛良西語ニ飜譯セラレ左ノ題號ヲ以テ公布セラレタリ《獄舍、病院及ヒ之ヲ執行スル建造物ノ有樣》ト

ブラクストーンハ大英國法律書、註釋ヲ與ヘ混亂ヲ變シテ整正ト爲シ暗昧ヲ以テ明晰ト爲セリ、氏カ此註釋ハ英吉利ニ於テモ外國ニ於テモ今日尙ホ之レヲ學フ者ノ爲メニ避クヘラサル經典ナリ人或ハ之ヲ增加シ又ハ挿注ヲ正誤シ又ハ之ヲ訂正スト雖モ毫モ之ヲ變スルヿヲ得ス(一)

(一)　ウヰリヤーム、ブラクストーンハ千七百二十三年ニ生レ千七百八十年ニ死セリ

ベンタームハ十八世紀ノ末ヨリ其法律ト哲學トノ博識ヲ以テ名ヲ得テ特ニパノプチックト名ツクル考案ニ因リ刑法學ヲ以テ著ハレタリ、パノプチツク考案ハ獄舍ノ建築ト規則トニ關スル方法ノ一種ニシテ氏之ヲ以テ始メハ英吉利ノ國會ニ後チニハ佛良西ノ立法議院ニ提出シテ人若シ氏ヲシテ其方法ヲ以テ獄舍ヲ建設セシメハ自ラ業ヲ起シ自ラ指揮ヲ爲サント供出シタリキ(一)

(一)　ゼレミー、ベンタームハ千七百四十四年ニ出レ千八百三十二年ニ死セリ」　デユモン氏ハ其ベンタームハ文集大全ノ中ニベンタームニ因テ記事ノ体裁ヲ以テ書セラレ千七百九十一年ニ於テ我立法議會ノ刑法改正ニ關スル附托委員ニ寄セラレタル一箇ノ拔粹書ヲ載セタリ、此拔粹ノ題號ハ左ノ如シ《監獄署及ヒ特ニ獄舍ヲ建築スルニ關スル新

主義ノ記事、最モ節儉ニ囚徒ヲ監禁スルニ關シ且同時ニ其善良ノ行狀ヲ監督スルト放免ノ後チニ對シ其必要品ニ應スルトノ新方法ヲ以テ囚徒ノ心ノ改良ヲ效スニ關シ起案セラレタル建設法)又ベンタームハ此記事ト共ニ附托委員ニ寄セタル書中ニ於テ曰(宜シク予ヲシテ此雛形ニ從テ一獄舍ヲ建築セシメヨ予自ラ牢番トナル可シ、諸君ハ此記事ニ於テ此牢番ハ給與ヲ欲セス從テ人民ヲシテ毫モ費サシメサルヲ見ル可シ)ト」パノプチックノ名ヲ此案ニ係ル獄舍ニ與ヘタルハ一語ヲ以テ方法ノ本然ノ利益ヲ說明スルカ爲メナリ即チ一目瞭ヲ以テ總テ獄舍ニ於テ經過スル所ノ者ヲ見ルヿヲ得ルノ能力ヲ有スルノ意ヲ示サンカ爲メナリ

(一五〇七)千七百七十六年及ヒ千七百九十四年ニ於テ獄舍ノ造築ニ關スル英吉利國會ノ第一ノ法律ノ制定セラレタルハ則チジョン、ホワードノ發議ト此三人若クハ其黨ヨリ出テタル考案ト周旋トニ因テナリトス(前數一五〇五挿注第一參看)、又其前既ニ千七百七十四年ニ於テホワードハ下院ノ發議案席ニ於テソノ自ラ拾集シタル事實ト報告トヲ陳述シ繼テ其方案ヲ提出シタリキ、英吉利ニ於テ獄舍ノ改良ニ關シ生シ來リタル擧動ノ本源ヲ尋ヌレハ右ノ鼓舞推動ニアリ爾來各人ノ新タナル盡力ト諸會社ト立法上ノ所爲ト實際ノ建設トニ因リ今日マテ此擧動ノ連續シタルモノハ皆ナコノ推動ニ因ル

(一五〇八) 此ニ一事ノ奇ナルアリ、我輩佛蘭西ニ於テハ單ナル輕罪ノ刑罰ニ該テラレタル獄舍ト監禁トノミヲ懲治(コレクシヨン)ノ獄舍及ヒ懲治(コレクシヨネール)ノ禁錮ト呼フ、是レ矯正スルノ目的ト希望トヲ有シ得ルハ此下等ノ犯罪事件ニ係ルトキニ過キスシテ其重罪事件ニ於テハ只タ痛苦セシメ責罰(ペーヌ、アフリクチーブ)スルニ止マラサルヲ得スト想像スルノ致ス所ナリ、然ルニ英吉利ニ於テハ反對ニ悔罪(ペニタンシエー)ノ名ハ舊時ヨリシテ重罪(英語フェロニー)ニ對スル拘禁ノ建造物ヲ指示スル爲メニ使用セラレ輕罪(英語ミスデミーナアス)ニ對スル下等ノ監禁ニ使用セラル、建造物(前數六八七挿法參看)ハ他ノ名稱(英語ブリドウェールス)ヲ取リテ懲治ノ懸慮ノ外ニアルナリ、故ニ右二ツノ思考ハ全ク各々反對ノ意義ニアリトス、偖テ英吉利ノペニタンシエーノ此特別ノ使用ハ我佛艮西ニ於テ監獄方法ノ問題ニ關シ爾來提出セラレタル或ル議論上ニ摸擬ノ精神ヨリシテ多少影響ヲ及ホサヽルニアラサリシナリ、然レ𪜈我輩ハ斷乎トシテ總テ刑ハ一時ニ責罰ト懲治ノ性質ヲ具セサル可ラス監獄制度ノ改良ハ輕罪ニ對スル監禁ト重罪ニ對スル監禁トニ之ヲ施サヽル可ラサルヿヲ持シテ疑ハサルナリ(前數一三三八、一三四〇、一四九五參看)

(一五〇九) 右ノ鼓舞推動ハ英吉利ヨリ亞米利加ニ及ヒタリ、亞米利和ハ其獨立ノ戰爭ヨリ始メテ出テ此點ニ關シ其舊本國ノ後チニ在ルヿヲ得サリキ、特ニ此鼓舞ハ前ニ所謂ル三

人ヨリ尙ホ顯著ナル名ヲ被ムル人ニ因テ亞米利和ニ入リタリ、即チ其龍動ノ居住ト其交際ト ニ因リテ此鼓舞ノ生シ來リタルト次第ニ勢力ヲ得タルトヲ目擊シ千七百八十五年ニ於テ最終ニ合衆國ニ歸リタル後チ獄舍ノ改良ニ關スルヒラテルビーノ會社ヲ開基シタル所ノフランクリンニ因テ此國ニ入リタリ(一)、此ニ於テハ此問題ハ他ノ尙ホ高尙ニシテ尙ホ廣大ナル問題ニ連結シテ現ハレ來リタリ即チペンシルバニー州ニ係ル千七百七十六年ノ憲法カ死刑ヲ適用スル或ル場合ニ於テ刑ヲ減縮スルヿ、及ヒ一般ニ刑ヲ犯罪ニ相當セシムルヿ且ツ死刑ニ該ラサル犯罪ノ刑トシテ勞務ノ法ヲ以テ獄舍ヲ構造スルヿヲ特命シテ一般ニ爲スコトヲ命シタル所ノ刑法ノ改正ノ問題ニ連リテ現ハレ來リタリ(此憲法ノ第二章第三十八條第三十九條ヲ參看ス可シ)、又千七百八十六年ヨリ千七百九十四年ニ至ルマテノ間ニ於テ立法上ノ種々ノ所爲カ繼續シテ來リタリ布達ニ因テ此改正ニ先ンシテ着手セラレタリ且ツ此着手ノ中ニハ經驗ノ爲メニ過キサル者モアリタリキ(二)、此所爲ノ最終ノ者ハ千七百九十四年ノ所爲ニシテギウ、ヨーム、ペンニ因テ開基セラレタル建設ノ舊來ノ慣習ニ復歸シテ第一等ノ殺人ノ罪ニ(謀殺、詐僞殺、毒殺、放火)對スルヲ除クノ外死刑ヲ廢止セリ、是等ノ罪ニ續キ來ル所ノ最モ重大ナル犯罪ニ對シテハ死刑ニ換フルニ或ル期限間ノ幾閉監禁(ソリタリー、コンフィインメント)ヲ以テシタリキ、又同時ニ內部ノ整頓ト勞務ト懲罰トニ關スル善良ナル制度カウヴル ナット、ストリートノヒラデルヒーノ獄ニ採用セラレ且ツ此ニ三十箇ノ小房カ設置セラレテ然ク裁判ニ因テ宣告セラレタル幽閉監禁ト內部ノ懲罰ノ處分ニ因テ適用セラル可キ幽閉監禁トノ執行ノ爲メニ誤テラレタリ、ペンシルバニーニ於テ大ニ勢力ヲ振リクエッカー(譯者曰クエッカーハ宗敎ノ一派ニシテ米國ト阿蘭陀トニ最モ多シ)ノ會社ト精神トカ大ニ此新入ヲ幇助シタリ、爾來右ニ類似スル規摸ニ從フカ若クハ次第ニ變更セラレタル異ナリタル規摸ニ從テ亞米利加ノ他ノ諸州ト又更ラニペンシルバニー州トニ於テ刑法ノ改正ト懲治監獄ノ創設トノ生シ來リ今日ニ至リタルハ皆ナ其紀元ヲ右ノ新入ニ取ルモノナリ

(一) ベンジャミン、フランクリンハ千七百六年ニ出生シテ千七百九十年死去シタリ

(二) 千七百八十六年ノ法、千七百九十年四月ノ法、千七百九十一年九月ノ法、千七百九十四年四月ノ法ヲ云フ

(一五一〇) 此鼓動ノ佛良西ニ入リ來リタルニ就テハ我輩其踪跡ニ追隨シテ之ヲ見ルヿヲ得ヘシ、初メニハ先ツ英吉利ヨリ入リ來リタリ即チホワードトペンタームトノ思想ノ勢力ニ因リテ我佛良西ニ入リタリ、ホワードハ千百七十五年ヨリ千七百八十七年ニ至ルマテノ間繼續シテ三四佛良西ニ旅行シタリ且ツ其獄舍ニ關スル著書ハ既ニ千七百八十八年ヨリ

佛良西語ニ飜譯セラレタリキ、又ベンタームハ巴里ニ於テ恰モ我輩命ノ擴張ヲ目擊シ特ニ此ニブリツソート深カ結納シタリキ且ツ其第一ノ得意ハ其著書哲學書庫ノ十卷ノ中ニ於テ全諸國ノ刑法ノ改正ニシテ氏此改正ヲ一記事ニ節約シテ其パノプチツク獄舍ノ考案ト共ニ我立法議會ノ附托委員ニ寄セ尙ホ此獄舍ノ企業人及ヒ支配人タラント自供シタリキ(前數一五〇六ト其第三插注トヲ參看ス可シ)、又英吉利國會ニ因テ千七百七十六年ニ先ツ元則ヽシテ制定セラレ千七百九十年ニ至テグロセスターノ獄舍ニ於テ實行ニ附セラレタル所ノ幽閉監禁(英語ソリタリー、コンファインメント)ハ我佛蘭西ニ於テ有名ナル報告書ノ中ニ死刑ヲ全廢シテ之ニ換フルニゼーヌノ幽閉監禁ヲ以テセント發議シタル我憲法議院ノ附托委員ノ事業上ニ其勢力ヲ及ホサヽルニアラサリシハ予カ信シテ疑ハサル所ナリ(前數一四六及ヒ一五〇四參看)」我輩ハ次キニ此鼓動カ當時我佛良西ノ注意ト愛惜ノ物件タリシ亞米利和合衆國ヨリ我國ニ入リ來ルヲ見ル即チ千七百九十五年ヨリ千七百九十七年ニ至ルノ間ニ於テヒラデルヒーヨリ來リタル書類ニ因テ入リタリ而シテ其第一ハフランクリンノ良友ニシテ且ツ貴賓タリシラ、ロシユフーコール、リアンクール侯ニ因テ著ハサレタル者ニシテ多クノ著書ノ中ニ就テ最モ感動ヲ起シ當時最モ我佛良西人ニ勢力ヲ及ホシタリキ(一)、偖テ此多クノ著書ニ因レハ此時季ヨリシテヒラデルヒーノ獄舍ヲ訪問スルヿハ漸次ニ流行ヲ始メ此獄舍ハ當時ニアリテハ其後合衆國ニ於テ使用シタル方法ヨリ見レハ甚タ遠サカリタル不完全ナル試業ニ過キサリシニモ拘ハラス一般ノ名ヲ以テ既ニ改正ニ關スル摸範ト見做サル、ニ至リシヿヲ見ル可キナリ、千八百十四年ニ於テ我內務卿(アベー、ド、モンテスキユー)カ九月九日ノ布達ニ因リ試驗ノ爲メノ一獄舍ノ創造ヲ命セシムルニ當リ取リタリシ所ノ摸範ハ則チ右ノ摸範ナリキ但シ此獄舍創造ノ案ハ僅カニ數日ノ後チ起リタル百日ノ間政變(譯者曰那破禮翁第一世再ヒ帝位ニ復シタル時ヲ云フ)ノ爲メニ終ニ消滅ニ歸シタリ(二)、又千八百十九年ニ於テハ皇太子自ラ會長トナリテ獄舍ノ改良ニ係ル一會社ヲ設置セラレタリキ、示來佛良西ニ於テ獄舍ノ制度ニ關シ著ハサレタル雜誌書類ニ就テ其多クハ今此ニ予カ目下ニ在ルモ其數ニ至テハ之ヲ枚擧スルニ遑アラサルナリ

(一) ラ、ロシエフーコール、リアンクールハ千七百四十七年ニ生レ千八百二十八年ニ死セリ、氏カ著書ノ表題ハ左ノ如シ、千七百九十年巴里ニ於テ發行(乞丐ニ對スル處分及ヒ刑罰トシテ又法津上ノ刑トシテ考ヘラレタル殖民地發遣ニ就テフランクリン君ニ呈スル管見記略)又千七百九十六年巴里ニ於テ發行一歐州人ニ因テ論セラレタルヒラデルヒーノ監獄)此書ハ以來千八百年、千八百一年、千八百十九年ニ再板ニ附セラレタリ」又ロベル、シヤン、チユルヌビユールニ因テ著ハサレタル書ノ表題ハ左ノ如シ(ヒ

ラデルヒー監獄巡視又ハ此獄舍ノ種々ノ支配區域ノ善良ナル支配ノ實記、ペンシルバニーノ刑法改正ノ繼續シタル歷史ヲ發見シ得ヘキ書、死刑ノ政事ニ適セサルコト不正ナルコト關スル意見)此書ハ巴里醫學校教官醫學士プチー、ラデールニ因テ英吉利語ヨリ佛良西語ニ飜譯セラレ且ツ獄舍ノ圖ヲ增加セラレテ千八百年巴里ニ於テ發行セラレタリ」著述者チユルヌビユールハクエッカー(宗教ノ一派ナリ)ノ宗派ニ屬スル人ニシテ千七百九十七年ヒラデルヒーニ於テ其書ヲ公布シタリ、而シテ飜譯者プチー、ラデールモ亦其飜譯ニ與ヘタル序ニ因レハ千七百九七十年同クヒラデルヒーニ於テ之ヲ爲セリ

(二) 下ノ書ヲ參看ス可シ(千八百十四年九月九日ノ國王ノ命令ニ因テ設置セラレタル試驗ノ爲メノ獄舍、規則ノ草按)千八百十四年巴里發行

(一五一一) 然リ而シテガンノ獄舍ニ於テハ數年間其組織ヲ敗壞セシカハ後其舊時ノ地位ニ復シタレドモ遂ニ人ノ注意ヲ引キ起ス能ハサルニ至リ、グロセストルノ監獄ハ其舊時ノ觀ヲ失ヒテ唯單純ノ監禁獄舍(英語ブリドウェール)ト變ゼリト雖モ此間ニ於テ立法官及ヒ政府ハ小房獄舍ノ搆造ノ方法ニ從ヒ英吉利ニ於テハ千八百十五年ヨリ千八百二十二年ニ至ルノ間ニ於テミルバンクノ中央監獄(英語ゼネラル、ペニテンシアリー)ヲ開設シ瑞西ニ於テハ千八百二十二年ヨリ千八百二十五年ニ至ルノ間ニ於テジユネーブノ獄、千八百二十二年ヨリ千八百二十九年ニ至ルノ間ニ於テローザンヌノ獄、其後千八百三十年ニ於テベルヌノ獄ヲ開設セリ此等ノ監獄ハ其規則上ノ細目ニ至リテハ各稍異ナリタル所アレドモ皆晝間囚徒ヲシテ共同ニ勞務ヲ取ラシメ運動ヲ爲サシメ且ツ或ル交通ヲ許ス所ノ夜間ノ小房監禁ノ方法ナリキ(一)

(一) 人若シ此時代ニ於ケル此獄舍及ヒ他ノ獄舍ノ大半トガンノ有樣ヲ知ラント欲セハ左ノ書ヲ參考スルヲ可トス(千八百廿八年ジユネーブニ於テ再板フランシス、キユナンガーム及ヒビユクストン著、瑞西ノ獄及ヒ歐羅巴大陸ノ或ル一二ノ獄ニ關スル略記)

又同時ニ北亞米利和合衆國ニ於テハヒラデルヒーノワルナット、ストリートノ獄例ニ倣ヒ刑法改正ノ附屬トシ一二ノ聯邦ニ於テ小房制度ニ依レル多數ノ獄舍ヲ造築セリ其後務メテ法良ヲ摸索シ經驗ヲ行ドモ常ニ善良ノ結果ヲ得難ク終ニヒラデルヒーニ於テハ亞米利和第一監獄名聲ヲ博セシ所ノワルナットノ獄ヲ不完ナリトシテ放棄セシガ千八百十九年ヨリ千八百二十三年ニ至ルノ間ニハニユーヨルク國ノチービユルヌノ獄ニ於テ千八百二十一年ヨリ千八百二十九年ニ至ルノ間ニハペンシルバニー國ヒラデルヒーノセリー、イールノ獄ニ於テ二種ノ監禁及監獄制度ヲ制定セリ、爾來此二制度ハ將邦中ニ於テ他ノ州國ノ獄舍ノ摸

範トナリ遂ニ大西洋ヲ横過シ我歐州大陸ノ議論ヲ動カシ人ヲシテ其設計ニ着手セシムルニ至レリ

(一五一二) 佛良西ニ於テ合衆國ノ此建設ニ深ク注意セシ時ニ當リテハ輿論ハ常ニ既ニ嘗テ取リタル傾向ヲ繼續シテ止マサリシナリ、又後日我無形理學ヲ及ヒ政事學大學校ノ通信員ニ撰擧セラレタル有名ノ學者リビングストン君ガルヰシヤーヌノ立法官ニ呈出シタル刑法及ヒ監獄則ノ草按幷ヒニ報告書ト佛良西ニ於テ氏ノ著書ノ大半ヲ印行シタルコト氏カ巴里ニ寓居セラレタルコトカ舊時ヨリ此種ノ問題ニ掛慮シ關與シタル所ノ識者ノ精神ヲシテ亞米利和ノ此問題ニ關スル文書ヲ講究スルニ傾カシムルニ與カリテ力アリタリキ(一)、而シテ爾來ペニタンシエーペニタンシエールノ語ハ流行トナリ是マテ佛良西ニ於テ獄舍ノアメリヲラシヨン(改良)又ハレヲフルム(改正)ト呼ヒタリシ所ノ者ハ以來ペニタンシエール制度又ハ方法ト呼フニ至リタリキ(二)

(一) リビングストン氏ハ千七百六十四年ニ生レテ千八百三十六年ニ死セリ氏カ著述ノ全部ハ千八百二十八年合衆國和聖東府ニ於テ發行セラレタリ」又巴里ニ於テハタエヤンジエー氏千八百二十五年ヨリ其刑法草按ニ關スル報告書ノ飜譯ヲ公布セリ、又千八百二十八年ニ於テシヤルヽリユカ氏ハ右ノ飜譯ニ加フルニ左ノ註記ニ擧クル所ノ著書ノ第一卷ニ於テ監獄則ノ飜譯ヲ以テシタリ

(二) 千八百二十八年ヨリ千八百三十年ニ至ルノ間巴里ニ於テ發行セルシヤルルヽリユカ氏ノ著書(歐羅巴及ヒ合衆國監獄方法)又千八百三十一年巴里發行同氏著(カヒテーヌ、パシール、アール合衆國旅行記拔粹亞米利和監獄ノ内部ノ方法)ヲ參看ス可シ

(一五一三) 又幾許モナクシテ官命ヲ帶ビテ北米合衆國ニ渡航シ現場ニ於テ親シク事實ヲ講究シ且ツ各管理ニ固有ノ文書ヲ拾集スル事大ニ行ハタリ即チ佛良西ニ於テハ千八百三十一年ニゼ、ド、ボウモン及ヒア、ド、トクビール二氏千八百三十九年ニデメッツ及ヒア、ブルーエド二氏ノ旅行、英吉利ニ於テハ千八百三十三年ニウエー、クラウェフォール氏ノ旅行、又普魯士ニ於テハ千八百三十六年ニドクトール、ジユリユス氏ノ旅行是ナリ、而シテ此旅行ハ各、此取調事件ノ歷史中ニ入レル著述書又ハ報告書ヲ携ヘ來レリ(一)」歐羅巴ノ獄舍モ亦遺忘セラレサリキ即チ各政府ハ官吏ヲ派出シテ互ニ獄制ニ關スル各建造物ヲ巡視セシメタリ、是ヨリシテ又此問題ノ比較講究ニ必要ナル數多ノ新報告書カ現出シ來レリ、(二)又此官命ノ派遣ノ外ニ於テ全歐州諸邦ノ國語ヲ以テ現ハレ來リタル所ノ書卷、雜誌、草按、圖式等ニ至リテハ數ヘ擧クルニ遑アラサナリ、我輩ハ只タ我國ノ著書中ニ就テベランゼー、シヤル、、リユカ、エーリス、レヲン、フチーセー、モロー、クリストーフ諸氏ノ著書幷ヒニクリス

トーフ氏ガ監獄ニ係ル筆戰ヲ載スル爲メニ發兌セル評閲誌ヲ指シ示スニ止マル可キナリ

(三)

(一) 千八百三十三年巴里府印刷ゼ、ド、ボーモン及ヒア、ド、トクビール両氏共著(合衆國監獄方法及ヒ佛良西ニ於テ其適用)此書ハ屢々改板ニ附セラレ又多ク外國語ニ飜譯セラレタリ」 千八百三十七年巴里發行ドクトル、ジユリユス著(千八百三十六年ノ亞米利和ノ監獄方法)」又千八百三十七年巴里府印刷デメツツ氏及ヒ政府ノ建築掛ゼ、アベルブルーエー氏共著(合衆國ノ監獄ニ關スル報告)ヲ參看ス可シ

(二) 千八百三十八年巴里府印刷、内務卿ノ命令ヲ以テ佛良西獄舍ノ大監督官モロー、クリストーフ氏ニ因テ佛良西語ニ飜譯セラレタル(大英國獄舍ノ現時ノ位置及ヒ改正バル、マンノ命ニ因テ公布セラレタル官報ノ拔粹書)」 千八百三十九年巴里印行同氏著(英吉利、蘇吉蘭、阿蘭陀、白耳義及西典ノ獄舍ニ關スル報告)」 千八百三十九年巴里印行、前ノ判事ルマツクル氏著(日耳曼南方ノ監獄ニ關スル報告)」 千八百三十九年巴里府發行、エド、セルフベール氏著(以太利ノ獄、懲治樞、懲役場ニ關スル報告)ヲ參看ス可シ

(三) 千八百三十七年巴里印刷、學士院會員、大審院判事ベランゼー氏著(佛良西全國ニペニタンシエール方法ヲ一般ニスルニ適當ノ方法)此書ハ後チ屢々再刷ニ附セラレタリ」 千八百三十六年及千八百三十八年巴里發行、學士院會員、獄舍大監督シヤル、、リユカ氏著(獄舍ノ改正及ヒ監禁ノ理論)」 千八百三十七年巴里印行、巴里控訴裁判所判事エーリー氏著(獄舍方法及ヒ其基礎ノ條件)」 千八百三十八年巴里發行、レチン、、フヲーセー氏著(獄舍ノ改正)」 千八百三十八年巴里府印行、佛良西獄舍大監督モロー、クリストーフ氏著(處罰方法ノ理論)及ヒ各人監禁元則ニ從ヒ佛良西ニ於テ獄舍ノ改正)」 千八百四十年以來巴里發行、モロー、クリストーフ氏著(佛良西幷ヒニ外國ニ於テ獄舍ノ改正ニ關シ公布セラレタル種々ノ書類ト官ノ文書トヨリ撰拔シタル監獄ニ係ル筆戰)」 等是ナリ

(二五一四) 歐羅巴ノ諸國ノ大半ハ此時ニ當リ實行スベキ良法ヲ以テ此ノ改正定按ノ執行セリ、小房制度ノ獄舍ハ或ハ單ニ夜間ノ離隔ニ從ヒ或ハ不斷ノ別離ニ從テ諸國ニ於テ建築セラレタリ、只タ不幸ニシテ斯クノ如キ建築ハ時間ト巨大ナル費用ト一種ノ熟練トヲ要スルガ故ニ地界廣大ニシテ人口ノ多數ナル邦國ニ係ル片ハ一鞭ヲ加フルカ如ク一命令一法律ヲ以テ全般ノ改舊就新ヲ實行スルハ決シテ能ハサルノコトナリタリ從テ常ニ移轉間ノ時期ノ生スルヲ免レズ此時期間ハ總テソ造築ノ完了ニ因リテ同一樣ニ至ルマテハ同一ノ國ニ於

テ場所ニ從テ種々ノ種類ノ獄舍アリテ從テ同一ノ犯罪ニ對シ同時ニ異ナリタル刑ノ存スルヲ見ルニ至レリ

千八百三十年ノ政府ノ精神ニ因レハ獄舍ニ關スル一般ノ法律ヲ以テ之カ執行ニ必要ナル時間及ヒ移轉中ノ處辨ヲ除クノ外ハ我佛良西全國ニ一時ニ改舊就新ヲ命シテ之ヲ實行スルノ目的ナリキ、又其方法ハ幽閉ノ方法ニアラスシテ獄舍內外ノ善良ニシテ且ツ勸善的交通ヲ與フル囚徒間不斷離隔ノ方法ナリキ(前數一四五四參看)、此法律ノ定案(千八百四十年ヨリ千八百四十八年ニ至ルノ間)屢々立法議院ニ提出セラレ議事案ニ附セラレ千八百四十年ヨリ千八百四十三年ニ至ルノ會期中ニ於テハ(トクビール氏ノ二回ノ報告ノ物件トナリ且ツ千八百四十四年五月十八日下院ノ議場ニ於テ甚タ長キ議論ヲ經タル後チ可決セラレ、又意見ヲ拾集スル爲メ大審院、控訴裁判所、及ヒ府知事縣令ニ通報セラレ(一)(千八百四十六年ノ會期ニ於テハ)上院ニ於テベラン、セー氏ノ報告ノ物件トナリテ、既ニ次會期ニ於テ論辨セラレントスル時ニ當リ千八百四十八年二月ノ革命アリテ此政府ハ終ニ顚覆セラレ此定案モ消滅ニ歸シタリ

(一) 千八百四十八年巴里印刷(獄舍ニ關スル法律ノ定案、大審院及ヒ控訴裁判所ノ意見)又千八百四十八年巴里印行(府縣令諸氏ノ意見)ヲ參看ス可シ

同時世ニ當リ敢テ法律ヲ待ツコトナク單ニ行政上ノ處分ヲ以テ既ニ巴里ト他ノ地方トハ少房制度ノ或ル獄舍ヲ建築シタリキ、是ヨリシテ刑ノ此變更ハ尙ホ專ハラ議論中ニアリテ法官及ヒ法學家ノ爲メニハ此變更ヲ刑法ニ入ル可キヤ又如何ナル体裁ヲ以テ之ヲ入ル可キヤヲ知ルハ刑法上甚タ重大ナル問題タリシニモ拘ハラス、實際ヨリ見レハ或ル場所ニ於テハ刑ノ執行ノ方法ナリトシテ曾テ此刑ニ處セラレサリシ者ニ之ヲ科スルニ至リタリ、勿論府縣獄舍ノ用法ニ從ヒ巴里ニ於テ幼年囚徒ニ對スルロケツトノ獄舍ヲ除クノ外ハ(前數一四八五挿注參看)此處分ハ甚タ期限ノ短カキ監禁(多クモ一ケ年)カ若クハ防禦ノ監禁(輕罪被告又ハ重罪被告人)ニ非サレハ然ク之ヲ科セサリシナリ、然リ而シテ其此ノ如キヲ致シタルモノハ現ニ獄舍ヲ造築スルノ要用アリシト、府縣會ニ因テ可決セラレタル資本ノ使用ノ機ニ會シタルト先ツ、一部分ヲ實行シテ經驗スルノ要用アリシトカ中央政府ノ確信幷ヒニ輿論ノ爲メニ助ケラレテ遂ニ法律ニ先ンシテ着手セシムルニ至リタルモノナリ

最モ讃美ス可キ新設ニシテ鐵鎖又ハ巡邏シテ被告人若クハ被刑者ヲ露示スルニ至ル如キ又鉤臺ヲ以テ之ヲ運送スル如キ傳來ノ卑陋ナル慣習ヲ消滅セシムルニ至リタル者ハ則チ小房馬車ノ新設ナリ、此制ニ依レハ被刑者ハ相互ヒニ離隔セラレ又護送人ヲ除クノ外ハ何人ニモ見ラル、コトナク又何人ヲモ見ルコトナクシテ傳遞又ハ鐵道ニ因リ送致ノ場所ニ運送セラル

、モノトス、此新設發議者ハ監獄署ニシテ其執行ハ企業者ギヨー氏ニ因テ始メラレタリ、之カ實用ハ千八百三十七年ニ於テ徒刑ノ被刑者ノ運送ニ始マリテ(千八百三十六年九月九日ノ布達)爾來種〻ノ階級ノ囚徒ノ運送ニ擴マリタリ、而シテ今日ニ至リテハ之ヲ以テ運送スル囚徒ノ數極メテ大ナリ(千八百七十年ノ監獄統計表第九丁)(一)且ツ此方法ハ遂ニ外國ニマテ廣マルニ至リタリ、這ハ是レ離隔監禁ノ方法ノ實行ニ關シテハ運送上ニ避ク可ラサル方法ナリトス(前數一四五三參看)

(一) 此統計表ハ千八百七十年ニ於テ汽車又ハ小房運送ノ用ニ供セラル、馬車ニ因テ實行セラレタル旅行ノ數ハ百八十三回ニシテ其里數ハ鐵道七十八萬九千三百二十四「キロメートル」常道六万五千四百七十三「キロメートル」ニ至リ其爲メニ用ヒラレタル日數ハ二十四時ヲ以テ一日トシテ三千四百八十二日ヲ費シタルヿヲ證明ス

又同時世ノ經過中ニ行政上ノ所爲ノ外ニ恩惠ノ精神カ巴里及ヒ其他ノ多クノ大都會幷ヒニ全國ノ諸方ニ獄舍種〻ノ會社又ハ種〻ノ建設ノ体裁ヲ以テ種〻ノ形狀ヲ具シテ生シ來リタリ、是レ次第ニ精妙ニ至ル所ノ監獄方法ノ補遺ノ設立物ノ爲メニ甚タ有用ナル萠芽ナリ

(一五一五) 千八百四十八年九月フランクフォール、シユール、ル、メンニ於テ開設セラレタル監獄議會及ヒ千八百四十七年九月ブリユクセールニ於テ開會セラレタル監獄議會ハ政府關與セサル所ニシテ官設的ノ性質ヲ有セサリシト雖モ其集會ト其事業トハ當時歐州ニ於テ此問題ニ關スル一般ノ注意ハ如可ナル者ナリシカヲ証スルニ足ルモノトス、元來種〻ノ時世ニ於テ企テラレタル歴史又ハ學問ニ關スル議會ノ組織ト結果トハ常ニ之カ爲メニ爲サル、所ノ報告ニ應シタルヿ少ナシト雖モ此議會ハ殊ニ超群ノ者タリ、疑ヒモナク此議會ニハ監獄問題ノ動議ニ關スル最モ有名ナル人物數輩ヲ欠キタリキ然レモ又多少ノ名望家ト嚴格ナル人物ト實際家トカ唯歐羅巴ノ諸國ヨリ來リタルノミナラス尚ホ亞米利和ノ諸國ヨリモ來リテ此ニ集會シタリキ、此集會ノ第一ノ利益ハ殆ント査問上ノ利益トモ言フ可キ者ニシテ最モ此事務ニ鞅掌スル人ニ因テ爲サレタル其國々ニ於テノ改正ノ有樣ニ關スル陳述ヲ聞クト之カ爲メニ諸方ヨリ通送セラレタル書類ノ集合トニアリ、又第二ノ利益ハ則チ辯論ト議決トノ利益ナリトス、此議會ノ事業ハ諸國ノ監獄方法ヲ一ニスルノ精神ヨリ出タルニ因リ常ニ同一ノ議會ニシテ議決ス可キ論題ノ盡クルマテハ各會期ヲ立テ集合シ各會ハ又必ス前會ニ繼テ論議ス可キノ精神ナリキ、故ニ前會ニ於テ議決シタル事件ハ再ヒ之ヲ提出スルヲ許サス議論ノ順序ハ前閉會ノ際ニ盡サヽリシ點ニ再ヒ論ヲ起スヲ以テ順序ト爲シ然ク監獄方法ノ全般ト總テノ細目トヲ經過シ了ルノ方法ニアリシナリ、佛良西國語ハ舊時ヨリ常ニ萬國ニ集會シ用ヒラル、ノ榮譽ヲ有スルカ如ク此會ニ於テモ亦論議ニ關シ調書ニ關シ議決

ノ文ニ關シテ用フヘキ語トシテ擇ハルヽノ榮譽ヲ有シタリキ偖テ此議會ノ結果ヲ尋スレハ右ノ二會ニ於テ既ニ監獄方法ノ一般ノ元則及ヒ其適用ニ關スル點幷ヒニ獄舍ノ造築及ヒ其役員ニ關スル點ヲ議決シタリキ其他ノ事務ハ千八百四十八年九月一日ヨリ西典若クハ阿蘭陀ニ於テ開會セラル可キ第三ノ會期ニ於テ議決セラル可キ約束ナリキ(一)然レモ爾來事變沸騰シテ千八百七十二年ニ至ルマテ此種ノ大會大議論ヲ開ク能ハサルニ至ラシメタリ、千八百七十二年ニ於テハ亞米利和政府ノ發議ニ因リ七月三日龍動ニ於テ新タニ監獄議會ヲ開キタリ然レモ歐州大陸ノ議員ノ熟練セサル英吉利語ヲ用ヒタルニ因ルカ或ハ着實ニ會議ノ豫備ヲ爲サヽリシニ因ルカ或ハ又辨論者ヲシテ其思想ヲ陳述セシムル爲メニ僅カニ十分時間ヲ與ヘルニ過キサルヨリシテ辨論時間ノ欠乏シタルニ因ルカ此集會ハ終ニ一モ確實ナル結果ヲ得サリキ、此議會ノ附托委員ハ其事業ヲ左ノ甚タ平凡ナル結局ヲ附シテ說約セリ(勞務、敎育、宗敎、這ハ是レ監獄官署ノ須カラク依賴ス可キ三箇ノ勢力ナリ)ト、然レモ此議會ノ論議ヨリシテ監獄改良ノ目的上人心ノ現時ノ傾向ニ係ル緊要ナル告知ヲ得ルヿヲ得タリ

(一) 千八百四十七年巴里印行(フランフヂール、シユール、ル、メン監獄議會ノ辨論)又千八百四十七年巴里印行(ブリユクセール監獄議會ノ辨論)ヲ參看ス可シ

我輩ハ茲ニ此議會ニ集合シタル人物間ニ一般ニ行ハレタル意見ノ發表トシテ採用セラレタル議決ノ文章ヲ証據物件トシテ左ニ掲載スベシ

千八百四十六年九月二十八日、二十九日及ヒ三十日ノ開會ニ於テフランクフヲールノ監獄議會ニ因テ裁可セラレタル

議決

第一條　重罪及ヒ輕罪被告人ニ對シテハ其相互間ナルト他囚徒間ナルトヲ問ハズ皆如何ナル交通ヲモ爲シ得サルベキ方法ヲ以テ別離シタル又ハ一個人ノ監禁ヲ適用セサル可ラス但拘留セラレタル者ノ請求ニ因リ豫審ヲ任セラレタル法官カ法律ノ限界中ニ於テ之ニ或ル關係ヲ許スヲ至當ナリト判シタル場合ニ於テハ此限ニ在ラス

第二條　一個人ノ監禁ハ犯罪ト處刑ノ性質トニ因リ又囚徒ノ人物ト種類トニ因リテ要スベキ加重又ハ減輕ノ方法ヲ以テ之ニ伴ハシメ一般ニ被刑者ニ對シテ適用セラル可シ但ツ各囚徒ヲシテ利益アル一箇ノ勞務ヲ執ラシメ、各日大氣中ニ運動スルヲ得セシメ、宗敎道德及ヒ學問上ノ敎學ノ利益ト宗旨ノ儀式トニ與カラシメ、且ツ規則ニ因テ許可セラレ得ル所ノ他ノ訪問ノ外ニ於テ規則ヲ以テ其宗旨ノ僧侶ノ訪問、長官、醫官及ヒ監督又ハ保庇ノ會社ノ委員ハ訪問ヲ受ケシムルノ方法ヲ以テ此監禁ヲ適用ス可キナリ

第三條　前條ノ議決ハ短キ期限ノ監禁ニモ之ヲ適用ス

第四條　一個人ノ監禁ハ同ク長キ期限ノ拘禁ニモ適用セラル可シ但シ別則ノ保持ニ抵觸セサル漸進ノ總テノ減輕ト之ヲ配合シテ適用ス可シ

第五條　囚徒ノ身体又ハ精神上ノ疾病アルニ當リテハ官署ハ此囚徒ニ必要ナル適當制度ニ服セシムルヲ得ヘク又繼續シテ附添フ所ノ人ヲ附スルヿヲモ得ヘシ但シ此場合ニ於テモ此囚徒ヲシテ他ノ囚徒ト集合セシムルヿヲ得ス

第六條　小房獄ハ各囚徒ヲシテ其宗旨ノ僧官カ宗教ノ儀式ヲ行フヲ見及ヒ聽カシメ又僧官ヨリ見セシメテ以テ此儀式ニ與カルヿヲ得セシムルノ方法ヲ以テ築造セラル可シ但シ之カ爲メニ囚徒相互ノ離隔ノ元則ニ害ヲ及ホスニ至ラサルヿヲ要ス

第七條　普通ノ監禁ノ刑ニ換フルニ一個人ノ監禁ノ刑ヲ以テシタル以上ハ其直接ノ結果トシテ現在ノ刑法ニ因テ定メラレタルカ如キ拘禁ノ期限ヲ減縮セサル可ラス

第八條　刑法ヲ改正スルヿ法律ヲ以テ獄舍ノ監督及ヒ監察ノ附托員ヲ組織スルヿ幷ヒニ釋放セラレタル被刑者ニ對シ保庇ノ方法ヲ設立スルヿハ監獄改良ニ關シ避ク可ラサル補裨物トシテ思考セラレサル可ラス

注意○議決第一條ヨリ第三條ニ至ルマテ又第五條ヨリ第八條ニ至ルマテハ總同一致若クハ殆ント總同一致シテ議決セラレタリ又第四條ハ甚タ大ナル過半數ヲ以テ議決セラレタリキ（此第四條ノ議決ハ今日既ニ甚タ大ニ駁議ヲ受ク）

○

千八百四十七年九月二十日、二十一日、二十二日及ヒ二十日ブリユクセールノ監獄議會ニ因テ裁可セラレタル

議決

第一條　幼年被刑者ニ對シテハ懲治教育ノ特別ノ獄舍ヲ具フ可シ」此獄舍ニ於テ囚徒ヲシテ受ケシムル所ノ制度ハ最モ嚴ナル點ノ少ナキ條件ヲ以テ該ツル所ノ一個人監禁ノ方法ト幼年者ヲ農事殖民場ニ置クヿ又ハ修業ノ爲メ之ヲ農業人工業人若クハ製造人ノ家ニ差遣スルヿト保庇ノ會社ノ關與トヲ酌量シテ之ヲ定ム可シ

第二條　小房獄舍ノ築造ニ於テ注目ス可キ至緊要ノ條件ハ則チ左ノ如シ

第一　建築地　總テ小房制度ノ獄舍ノ建築ノ爲メニ擇ハル、地所ハ高燥ニシテ能ク大氣ヲ通シ善良ナル飲料水ヲ十分ニ有シ且ツ可及的分離シタル地位ニ在ル可キヿハ避ク可ラサルノヿナリトス」刑ノ執行ノ爲メノ獄舍ニ係ル者ハ其建築地ハ國ノ中央ニアラサル可ラス是レ國ノ諸方ヨリ來ル囚徒ノ運送ヲ容易ニスル爲メナリ、又此獄舍ハ都

會ヲ接近シタル鄉地ニ在ルヲ適當トス即チ監督ノ附托委員ノ構成ニ關シ又ハ訪問者及ヒ庇保者ノ會社又ハ委員ノ設置ニ關シ又ハ拘禁ノ費用ヲ減省シ同時ニ被釋放者ノ爲メニ生活ノ方法ヲ預備シ得ル所ノ勞務ノ組織ニ關シテ必要ナル元素ヲ與フルニ足ル所ノ都會ニ接近シタル鄉地ニ在ルヲ適當トス」 拘留及ヒ裁判所附屬ノ獄舍ニ係ル片ハ若シ之ヲ能クセハ裁判所ニ接近シタル場所ニアラサル可ラス且ツ如何ナル場合ニ於ケルモ近傍ノ家屋ト離隔セラレサル可ラス是レ有害ナル又ハ危險ナル外部トノ總テノ交通ヲ絶ツカ爲メナリ」 獄舍ニ該テラル、地所ノ廣狹ハ家屋及ヒ之ニ附屬セサル可ラサル運動場ノ廣狹ニ相當スルヿヲ要ス、又此地所ハ增築ノ要用アル片ハ此增築ヲ爲ス爲メニ又特ニ囚徒ノ人口ノ增加シタル場合ニ於テ小房制度家屋ヲ增築スル爲メニ充分ナル坪數ヲ有スルヲ適當トス可シ」 又小房制度ノ家屋及ヒ運動場ハ大陽ノ光線ヲ受クル爲メニ且ツ雨ト北風ヲ障屏スル爲メニ最モ便利ナル位置ニアラサル可ラス

第二 使用法 囚徒ノ數 獄舍ハ其使用ニ從ヒ或ル點ニ關シ其內部ノ排置ヲ定メサル可ラス」 刑ノ執行ノ爲メノ獄舍ニ係ル片ハ男女ノ區別ヲ立テ同性ノ囚徒ニ非サレハ同獄ニ置カサルヿヲ要ス且ツ孰レノ場合ニ於テモ囚徒ノ數ノ最高點ヲ五百名ニ限ルヲ要ス但シ監獄議會ニ於テハ尙ホ大ニ少ナキ數ヲ以テ被刑者ノ心ノ改良ニ關シ最モ適當ナル數ト認メタリ」 防禦ノ爲メノ獄舍ニ係ル片ハ區域ヲ異ニシテ囚徒ノ大凡ソノ階級ニ該ルヲ得ヘシ且ツ何レノ場合ニ於ケルモ男子ト婦女トニ對シ區域ヲ異ニセサル可ラス又其供給監督モ之ヲ全ク區別セサル可ラス」 獄舍ノ使用法ハ如何カアルニモセヨ小房ノ數ハ通常ノ囚徒ノ數ヨリ多少多キヲ適當トス是レ囚徒ノ數急ニ增加シタル際ニ當リ不便ヲ來ササルカ爲メナリ、又防禦ノ爲メノ獄舍ニ於テハ不意ニ囚徒ノ數ノ增加スル場合ニ對スル爲メ場所ヲ豫備シ置クヲ要ス

第三 家屋ノ一般ノ配置 家屋ハ種ヽノ供給ヲ便ニシ此供給ノ間ニ混雜ヲ生セシメサルノ方法ヲ以テ配置セラレサル可ラス、此目的ヲ達スル爲メニ純粹ノ獄舍ト官署及ヒ官吏ノ係所ニ該テラル、附屬ノ場所トヲ離スルヲ避ク可ラサルヿナリトス、外部トノ交通ハ之ヲシテ內部ノ整頓影響ヲ及ホサシメサルノ方法ヲ以テ保持セラレサル可ラス、此目的ヲ達スル爲ニ使人又ハ用達人等ヲシテ決シテ囚徒ト接近スルヲ得セシム可ラス、事務ノ各課ハ其重モナル點ニ關シテハ一般ノ指揮ニ附屬シ之カ鼓動ヲ受クト雖モ殆ト獨立ノ姿ヲ以テ其事務ヲ扱ハサル可ラス」 家屋ノ樓ノ數ハ可及的最下ノ屋ト共ニ三層ヨリ多カル可ラス」 獄舍ノ特ニ囚徒ニ宛テラル、部分ハ左ノ方法ヲ以テ配置セラレサル可ラス (イ)晝間夜間トモ囚徒ヲ全ク離隔シ得ルヿ (ロ)囚徒ヲシテ

大氣中ニ運動ヲ爲スノ方法ヲ得セシムルヿ　(ハ)囚徒ヲシテ適當ニ勞力ヲ爲シ教學ヲ受ケ離居ノ規則ヲ害スルヿナク祭儀ト宗旨ノ施行ニ與カルヿヲ得ルノ地位ニアラシムルヿ　(二)監督分配ヲ容易ニシ囚徒トノ交通ヲ多クシ簡便ニスルヿ是ナリ

第四　中央觀望樓　獄舍ノ種々ノ部分ハ監督ヲ行フ中央ノ一點ニ連合セサル可ラス、此中央ノ點ヨリシテ監獄ノ長官ハ場所ヲ變スルヿナク總テノ必要ナル用務ヲ監督スルヲ得ヘシ」如何ナル妨害モ此監督ノ施行ヲ妨ケ得サル爲メニ獄舍ノ內部ノ分配即チ通路段階等ノ配置ニ關シ又建築ノ材料ニ關シ常ニ此監督ノ必要ニ注目スルヲ要ス

第五　小房ノ內部ノ配置ト編列トニ於テ左ノ條件ニ注目ス可シ　(イ)囚從カ房內ニ於テ運動ヲ爲シ得、一職業ヲ行ヒ得、且ツ其健康ヲ保護スルニ必要ナル距離ト空氣トヲ有シ得ル爲メニ小房ハ充分ニ大ナラサル可ラス　(ロ)小房ハ適當ナル方法ヲ以テ明カニセラレ風氣ヲ通シ且ツ溫メラレサル可ラス　(ハ)其構造ハ此ニ閉鎖セラルヽ所ノ囚徒間ノ總テノ交通ヲ絕ツノ方法ヲ以テ爲サレサル可ラス　(二)小房ハ一箇ノ臥榻一箇ノ大盆又ハ水出シ口ヲ以テ据付ケラレタル洗面盆、両便ノ場所其他囚徒ニ必要ナル器具ヲ具備セサル可ラス、又囚徒ヲシテ不意ノ事件ノ起リタル場合又ハ疾病其他總テ獄吏ノ現在ヲ要スル場合ニ於テ之ニ報知スルノ方法ヲ有セシメサル可ラス　(ホ)小房ハ之ヲ容易ニシテ且ツ囚徒ヨリ知ラレ得サル監督ニ從ハシメサル可ラス

第六　新入者ノ爲メ懲罰ノ爲メ養病所ノ爲メ其他特別ノ職業ノ爲メ等ノ一種ノ小房、特ニ刑ノ執行ノ爲メノ獄監ニ於テハ養病所、懲罰、特別ノ職業、新入者等ニ宛ツル所ノ一種ノ小房ノ或ル數ヲ具フルヿヲ要ス」通常ノ小房ニ於テ適當ニ養療シ得サル所ノ疾病者ニ特ニ宛テラレタル養病ノ小房ハ通常ノ者ヨリ寬闊ニシテ且ツ晝夜共總テノ時ニ於テ病者ノ供給ヲ便ニスルノ方法ヲ以テ配置セラレサル可ラス、懲罰ノ小房ハ通常ノ者ヨリ嚴ナラサル可ラス且ツ之ヲ暗黑ニスルノ要アル時ニ當リ之ヲ爲スヿヲ得ルノ方法ヲ以テ配置セラレサル可ラス」或ル職業ノ施行ニ宛テラルヽ小房ノ廣狹ハ之カ使用ノ性質ニ通スルモノトス、之ヲ配置スルノ場所ハ下樓又ハ地脚ニ於テスルヲ適當トス、其數ハ獄舍ニ於テ施行セラルヽ職業ノ種類ニ從ハサル可ラス」最終ニハ囚徒ノ到來ノ屢〻ナル所ノ獄舍ニ於テハ要用ニ從ヒ且ツ記簿所ニ接近シテ小房ノ或ル數ヲ定メ置クノ必要ナリ此小房ハ新入者ヲシテ醫師ノ診按ヲ經テ通常ノ房ニ入ルマテノ間居ラシムル所ニシテ通常ノ者ヨリ狹カル可シ、又此小房ハ拘留又ハ防禦ノ爲メニ獄舍ニ於テハ一時通過ノ囚徒ニ使用セラルヽヲ得ヘシ

第七　煖氣ヲ與フルヿ風ヲ通スルヿ　小房ニ風ヲ通シ及ヒ煖氣ヲ與フル爲メニ用フル

所ノ方法ハ如何カアルコモセヨ必ス左ノ効果アラサル可ラス（イ）各小房ニ清氣ノ充分ナル分量ヲ與ヘ其度ヲ隨意ニ上下シ得ルヿ（ロ）接續シタル小房ニ置カル、囚徒間ノ交通ヲ容易ニ至ラシムルヿナク且ツ注意シテ音響ノ傳交ヲ妨ケテ以テ風氣ヲ通シ煖氣ヲ與フルヿ

第八　散歩所　散歩所ハ囚徒ヲシテ相互ヒニ交通スルヲ得セシムルヿナクシテ移動シ大氣ヲ吸ヒ大陽ヲ受クルノ利益ヲ得セシムルノ方法ヲ以テ配置セラレサル可ラス、又其監督ハ容易ニシテ且ツ繼續スル方法ヲ以テ施行セラルヽモ監督人ノ數ノ甚タ多キ使用ヲ要セサルヿヲ要ス」「散歩所ノ設置ニ關シテハ勞務ノ此ノ如キ又彼レカ如キ種類ヲ採用スルニ從ヒ出ル所ノ要求ニ照シ之ヲ設置スルヲ要ス、故ニ或ル場合ニ於テハ散歩所ハ或ル職業ノ施行ニ適當セサル可ラス又或ル他ノ場合ニ於テハ耕農ヲ職トスル囚徒ノ使用ノ爲メ之ヲ田園ト爲スヿヲ得ヘシ」　散歩所ノ數ハ獄舍ノ人口ノ數ニ相當シ且ツ種〻ノ施行要求特ニ勞務ノ方法ノ要求ニ從テ定メラレサル可ラス

第九　禮拜所ハ各囚徒ヲシテ僧官カ宗旨ノ儀式ヲ行フヲ見及聽カシメ又僧官ヨリ見セシメテ宗旨ノ施行ニ與カラシムルノ方法ヲ以テ配置セラレサル可ラス但シ之カ爲メニ囚徒相互ヒノ離隔ノ元則ニ害ヲ及ホスニ至ラサルヿヲ要ス（フクンクフヂール監獄議會ノ第六議決ノ再記）

第十　應接所　囚徒中其親屬又ハ朋友ノ訪問ヲ其小房ノ内部ニ受クルヿヲ許サレサル者ノ爲メニ小房應接所ノ或ル數ヲ具ヘ置クヿヲ要ス

第十一　家理的ノ供給、官署、役員ノ住所　採用スル所ノ經營圖式ハ如何カアルニモセヨ前指示シ來リタル所ノ外ニ各小房制度ノ獄舍ハ左ノ場所ヲ有セサル可ラス　人口ノ數ニ相當シテ離隔シタル洗身盤ヲ具フル一浴室　厨廚一箇所及ヒ其附屬所　一製麵包所及ヒ之カ要用アル庫ハ一箇ノ洗衣所　飲食物、消費物、衣服ノ具、寢具及ヒ獄舍ノ使用法ニ從ヒ職業ノ原質物及ヒ製造物件ヲ入ルヽ爲メノ倉庫ノ或ル數　簿記所一ケ所及ヒ監督又ハ保庇ノ委員等ノ爲メニ集會ノ室一ケ所　獄舍内ニ常ニ居ラサル可ラサル官吏又ハ雇人ノ爲メノ住所　是ナリ

第十二　閉鎖、防衛　獄舍ニ宛テラルヽ地所ハ逃走ヲ妨ケ及ヒ建造物ノ内部ヲ見ルヿヲ絶ツ爲メニ充分ナル高大ノ閉鎖ノ墻壁ヲ以テ回繞セラレサル可ラス」　周圍ノ墻壁ノ外部ニ於テハ獄舍ヲ近傍ノ住所ヨリ孤立セシメ且ツ巡回監視ヲ便ニスル爲メ可及的土地ノ或ル距離ヲ存セシムルヲ要ス」純粹ノ獄舍ノ家屋ハ之ヲ周圍ノ墻壁ニ密接セシム可ラス、此墻壁ト家屋ノ間ニ可ナリ廣キ距離ヲ存セシムルヲ要ス

第十三　一般ニ係ル處置　經濟　前列擧シ來リタル所ノ規則ハ幾何クカ緊要ナル防禦ノ爲メ又ハ刑ノ執行ノ爲メノ獄舍ニ非サレハ完全ニ之ヲ適用スルニ非ス、然レ𪜈晝間夜間一個人離隔ニ關スル條件、宗旨ノ施行、健康、衛生、監督ニ關スル條件ニ注意スルニ至テハ總テノ獄舍ニ於テ避ケ難キノ弊ナリトス」　築造人ハ獄舍ノ供給ノ種々ノ課ヲ簡便ニシ安排スルヿニ大ニ意ヲ留メサル可ラス、此供給ハ役員ノ寇トニ少ナキ數ヲ以テ混雜ヲモ生セス疲勞スルヿモナク流通シ滿足セラレサル可ラス、建築ハ敢テ美麗ヲ失フヿナクシテ簡單ニ重壓ナラスシテ堅固ナルヿヲ要ス、材料ノ使用ニ於テハ總テ大災ヲ來シ易キ者ヲ避ケサル可ラス、建築ノ基礎ハ獄舍ヲ一階高クスルヿヲ要スルトキニ當リ之ヲ能クスルノ方法ヲ以テ築カルヽヿヲ要ス但シ之カ爲メニ堅固ヲ害スルニ至ラシム可ラス

第三條　小房獄舍ノ內部ノ供給ヲ役員ノ二ツノ種類ノ間ニ分配スルヿハ避ク可ラサルノヿナリトス、二ツノ種類トハ無形的ノ事務ヲ司サトル役員ト有形的ノ事務ヲ司サトル役員ト是ナリ」　此無形的ノ事務ノ役員ヲ組織スルニ當リ教學ト事業ニ熟心ナルトノ希望ス可キ條件ヲ與フル宗教ニ新タニ入リタル徒弟ヲ此事務ニ用フルハ甚タ利益アリトス」　此目的ヲ達スル爲メニ政府ハ宗教ノ會同及ヒ此目的ノ爲メニ設置セラルヽ保庇ノ會社ヲシテ囚徒ノ心ノ改良ノ事業ニ關與セシムルヿヲ得ヘシ」　生活上ノ普通ノ總テノ要用ニ關スル小房ノ供給ハ特ニ檢査シタル有形事務ノ役員ヲシテ之ヲ爲サシメサル可ラス、被刑者ノ道德ト宗教ニ關スル交通ハ規則ヲ以テ常ニ無形事務ノ役員ヲシテ之ヲ爲サシム可シ又此役員ハ同時ニ寬温ニシテ且ツ勤善ナル監督ヲ行フヿニ任セラル可シ、懲罰ノ方法ハ之ヲ必要ト判シタルトキハ獨リ有形事務役員ヲシテ之ヲ行ハシム可シ決シテ無形事務ノ役員ヲシテ之ヲ行ハシム可ラス」　獄舍ノ指揮長官ハ總テノ役員ニ對シテ同一ノ威權ヲ有スルヿヲ要ス」　婦女囚徒ノ特別ナル監督ハ總テノ場合ニ於テ其性ノ人ニ任セサル可ラス

注意○議決第一條及ヒ第二條ハ一箇ノ回避ヲ除クノ外總同一致ヲ以テ決セラレタリ、第三條ハ殆ント總同一致ヲ以テ決セラレ止タ二員ノ之ニ反對シテ起立シタル者アリタリ

○

次回ノ會期ニ於テ議セラル可キ件ハ左ノ如シ　第一　役員ノ組織ノ續キ　第二　檢査、監督及ヒ巡視　第三　身体ニ對スル取扱　第四　勞務　第五　教育及ヒ教學　第六　賞罰規則（懲罰及ヒ賞譽）　第七　保庇　第八　農事殖民場　第九　刑法上ニ及ホス監

○

右ノ議決ニ於テ見ルカ如キ建築ノ方法ハ爲メニ要求スルノ點極メテ多キモ拘ハラス之ニ充分ナル滿足ヲ與ヘ得ルニ適當ナル經營圖ノ生シ來リタルハ一ニシテ足ラサリキ、ベランゼー氏ハ(其府縣獄舍ニ關スル報告書中ニ)我國佛良西ニ於テ各國ニ對スル全經費ヲ三千五百「フランク」ニ評價ス、是レ五百人ノ囚徒ヲ入ル、一獄舍之ヲ換言スレハ晝間夜間ノ監禁ノ小房ノ數五百ニ至ルノ一獄舍ヲ建築スル爲メニ百七十五万「フランク」ノ建築費用ヲ要スルモノトス、又同氏ハ現時議論ノ單一ノ事件タル府縣獄舍ノ改良ノ爲メ要スル所ノ費用ヲ六十七「シリヨン」(六七、〇〇〇、〇〇〇「フランク」)ニ評定セリ、」防衛ノ爲メノ留置場又ハ中央監獄署ニ閉鎖スル所ノ囚徒ノ全數ハ府縣獄舍ノ閉鎖スル所ノ囚徒ノ數ニ達セス、然ラハ則チ完全ノ事業ヲ爲スモ其經費百五十「シリヨン」(一五〇、〇〇〇、〇〇〇「フランク」)ヲ要セサル可シ、而シテ此金額ハ佛良西ノ會計上ノ權力ヲ以テ此ノ如キ目的ヲ達スル爲メニハ毫モ過度ノモノト云フ可ラサルナリ、尙ホ且亞米利和ニ於テ實行シテ大ニ其功アリタルカ如ク獄舍ノ築造ニ被刑者ヲ使用スルトキハ大ニ其費用ヲ減スルニ至ルアルヲヤ

(一五一六)　千八百四十八年ノ革命ノ後幾何クモナクシテ、滿足ヲ與フル方法ヲ以テ其原因ノ極メ難キ反動力ノ一種類カ佛良西ニ於テ小房監禁ノ制度ニ抵抗シツノ當時權柄アル一般ノ思想ノ中ニ生シ來リタリ、而シテ此一般ノ思想ニ於テハ輕罪及ヒ重罪ニ對スル責罰ニ關スル思考ニ至ルマテモ殖民地ニ傾向スルニ至レリ、勿論此當時ニアリテハ他ノ甚タ多キ事務ノ全歐州ノ精神ヲ奪フアリテ之カ爲メニ監獄改良カ起シ來リタル喧聲ハ一箇ノ他ノ喧聲ノ前ニ沈默スルニ至リシナリ」然レ𪜈此問府縣獄舍ニ關シテ既ニ着手セラレ若クハ定案中ニアリタル小房制度ノ獄舍ノ建築ハ地方官ニ因テ完了セラレ若クハ繼續セラレタリ、既ニ千八百五十二年ニ於テハ此獄舍ニ就テ總計四千八百五十人ノ囚徒ヲ入ル可キ四十七ノ獄舍ノ既ニ實行セラル、ノ者(一)十七ノ建築中ニ係ル者及ヒ六箇ノ起案中ニアル者ヲ算セリ、然レ𪜈他ノ縣ノ弊害極メテ多ク若クハ不充分ナル獄舍ニ關シテハ小房監禁ノ方法カ受ケ得ヘキ運命ノ不確實ナリシニ由リテ必要ナル事業緊急ナル改革ニ至ルマテモ中止セラレタリキ、而シテ果シテ千八百五十三年八月十七日ノ日付ヲ以テ監獄ノ問題ニ關シテハ固ヨリ爭フ可ラサルノ管轄權ヲ有スル所ノ內務卿ハ廻文ヲ以テ縣令ニ左ノ件ヲ布達シタリ(改府ハ區域ヲ立テ囚徒ヲ別離スルノ方法ヲ取リ小房監禁ノ制度ヲ放棄ス)ト

(一)　現時ハ此小房制度ノ構造ニ係ル獄舍五十二箇ニシテ其三十五ハ一部分小房ノモ

ノナリ

我行改官ニ因テ然ク布達セラレ實行ニ置カレタル官ノ此放棄ハ囚徒間不斷ノ離隔ニ從フ小房監禁ノ方法ノ實行上ノ發達ヲ甚タ重大ニ打擊シタリ、是ヨリシテ佛良西ノミニ就テ論スレハ此點ニ於テ既ニ終期ニ到着セントシタル立法上ノ事業ハ不確定ノ時限ニ送リ去ラレタルノミナラス尚ホ此方法ノ爲メニ不幸ナル他ノ一結果ノ生シ來リタルアリ、即チ內務卿ノ廻文以來數多ノ建築カ佛良西全國中ニ新タニ完了セラレ且ツ起手セラレ新タナル圖面ニ從ヒ數萬金ヲ使用シタリ(後數一五三八參看)這ハ是レ有形上ノ事件ニ係ル思考ニ過キスト雖モ然レモ又學問カ刑ノ問題ノ終局ニ關スル眞理ノ一箇ノ解釋ナリトシテ信シテ止マサル所ノモノニ終ニ復セントスルノ日ニ對シ困難ノ增加ヲ預作スルヨリシテ有形上將來ニ大ニ影響ヲ及ホス所ノモノナリトス」又佛良西國外ニ在テハ我國ニ於テ與フル所ノ例ノ常ニ能ク衆心ノ決定ヲ促カスニ足ル鼓舞ノ利益ヲ右ノ監禁方法ヨリ奪フヨリシテ此放棄ハ中止ノ點ヲ成スヿヲ掩蔽スルヿヲ得サルヘシ、特ニ千八百四十年ヨリ千八百四十六年ニ至ル間ノ法律ノ草按カ配置セシ適用ノ如キ然ク廣大ナル適用ヨリシテ生シ來ル可キ票例ノ鼓動ノ利益ヲ此監獄方法ヨリ奪フタルヲヤ(一)、然レモ眞理ハ常ニ眞理ナリ、此監獄方法ニ關スル思想ハ既ニ我國ニ於テ寵ヲ失ヒ且ツ流行セサルヨリシテ此思想ノ周圍ニ生シ來リタル沈默ニ拘ハラス刑ノ條件其物ノ講究ニ基礎ヲ取リタル廣闊ナル確信ハ常ニ確乎トシテ存在セリ、我行政官ニ因テ爲サレタル放棄ノ此布告ハ大ニ人ヲ驚愕セサルニ非サリキ且ツ或ル不服ノ申告ヲ來サヽルニ非サリキ、此不服ノ申告中ノ首頭ニセーヌ縣ノ委員會ノ申告ヲ置カサル可ラス乃チ此會ノ會長デラングル氏此申告ヲ左ノ語ニ說約シテ曰ク(我輩ハ此ニ明カニ小房ノ制度ヲ以テ囚徒ノ心理上ニ幸福ナル勢力ヲ及ホシ得ル所ノ單獨ノ方法ナリト見做スヿヲ繼續シテ止マサル可キヿヲ明言セサル可ラサルナリ)ト又近時易簀セラレタル悲哀ス可キベランゼー氏ノ堅守不拔ヲモ擧ケサル可ラス、即チ心理學政事學大學士院ニ於テ爲シタル其朗讀ト刑法及ヒ刑法ノ改良ニ關スル其讃美ス可キ力學ノ著述トニ因リ舊時ヨリシテ執リテ動カサル所ノ思想ノ進步ヲ飽マテモ追求シテ止マサル氏カ堅守不拔ヲモ此ニ擧ケサル可ラサルナリ(二)

(一) 然レモ千八百七十一年ニ於テ獄舍大監督マルチノー、ベルトラニー、スカリアー氏ニ因テフロランスニ開基セラレタル監獄評閱(譯者曰雜誌ノ名ナリ)ヲ擧ケ示サヽルヘカラス、開基者ハ此ニ唯リ刑ノ執行ニ關スル者ノミヲ論スルヲ欲セス尚ホ特ニ氏ノ言フ所ニ從ヘハ刑法ノ將來ノ運命ノ存スル所ノ講學ニ勉力セントスル欲セリ即チ總テノ點ヨリ論シタル犯者其物ノ講究是ナリ、氏ハ之カ爲メニ人性學其他ノ學問ヨリシテ被刑者

一般ニ見ハス所ノ智識ト意志トノ現像上ニ說明ヲ與ヘ得ル所ノ者ヲ引用セリ」又フロランスノ小房制度監禁ノ獄ハ南方ノ人氏ニ對シテハ此制度ヲ施ス能ハスト假言スル一說ヲ反駁スルニ足ルヿヲ注目セサルヘカラス

(二) 千八百五十五年巴里府印行學士院會員大審院長ベランゼー氏著(刑ノ責罰其改良及ヒ其結果)ヲ參看ス可シ、氏ノ令息ベランゼー氏ハ今日新設ノ監獄委員會ノ勉力家ノ一人ニシテ本會ヨリ提出シタル府縣獄ニ關スル報告書ニ就テハ氏則チ其機關タリキ其然リ然ルカ故ニ帝政々府ノ墮落スル以前ヨリシテ一般識者ノ意見ハ既ニ此思想ニ復スルヿヲ始メタリ、又千八百六十九年ニ於テ被釋放者ノ保庇ニ關スル問題ヲ取調フル爲メニ其十月六日ヲ以テ設立セラレタル委員會ハ物ノ自然ヨリシテ獄舍ノ制度ヲモ取調フルヿニ誘カル、ニ至リタリ

又最終ニ至テハ最終ノ革命ハ日一日ヨリ緊急トナリタル改正ヲ着實ニ企ツルノ必要ヲ感セシメタリ、國會議院ハド、ヲーソンビール氏ノ發議ニ因リ千八百七十二年三月二十五日ヲ以テ獄舍ノ制度ニ關スル審査ヲ爲ス爲メニ代議士十九人ノ委員會ヲ命シ又此委員會ハ自ラ議院外ニ於テ更ニ會員十九人ヲ選擧シテ己レニ附屬セシメタリ此委員會ハ今日熱心シテ佛良西及外國ニ於テ取調ニ必要ナル總テノ文書類ヲ集合スルヿニ勉强ス、我輩ハ不日ニ審査委員會ニ因テ大審院ニ寄セラレタル間ニ千八百七十三年二月二十四日ヲ以テ同院カ爲シタル答案ヲ擧クルノ機會ヲ有ス可シ、又我輩ハ既ニコド、ヲーソンビール及ヒベランゼー兩氏ニ因テ公布セラレタル善美ノ報告書ヲ掲載シタリキ、我輩ハ復タ之ヲ擧クルノ機會ヲ有スルナル可シ

(一五一七) 他ノ諸國ニ關シテハ、其國々ニ既ニ存在スル者ト千八百四十八年我國ニ於テ生シタル反動以來其國々ニ於テ爲サレ又ハ豫備セラレタル者トニ就テ考フレハ、小房制度ハ假令ヒ大ニ緩慢ナルニモセヨ其進步ヲ繼續セリ、我輩ハ學問上ノ意見及ヒ事業ニ就テハ數多ノ人名ヲ擧クルヲ得ヘシ、然レ𪜈我輩ハ最モ堅守不拔ニシテ最モ活潑ナル意見ノ表明中ニ就テ止タ左ノ人名ノ最モ正當ニ信用ヲ受ケ得ヘキ者ノミヲ擧ク可シ、即チ日耳曼ニ於テハミデルマイエル氏バレントラツプ氏シヤルヽ、レーデル氏(一)嗹馬國ニ於テハダビド氏、白耳義ニ於テハデュクペシナー氏ハウス氏(二)ノ意見ノ表明是ナリ、又實際ノ建設上ニ就テ論スレハ此方法ハ歐州ニ於テ多少廣大ナル實驗上ノ適用ヲ受クルヿヲ繼續セリ、乃チ千八百四十八年以前ニ於テ此方法ヲ以テ組織セラレタル數多ノ建造物ハ依然トシテ保持セラレ其他ハ爾來增加セラレタリ、我輩ハ此方法ノ實施中ニ就テ次第ニ廣大ナル發達ヲ期スヘキ者ヲ左ニ擧ク可シ、即チ日耳曼ニ於テハ普魯西(三)及ヒグラン、ヂユツシェー、ド、

バードノ實施又シユエードノルベージコ及ヒ嗹馬國ノ實施又以太利ニ於テハトスカーヌノ實施幷ヒニ阿蘭陀ノ實施是ナリ、我輩ハ又左ニ英吉利ニ於テ採用セラレタル方法、白耳義ノ法律及ヒ葡萄牙ノ草按ニ就テ一二言スル所アル可キナリ

（一）氏ハハイデルベルヒ大學ノ刑法教官ニシテ刑ニ因テ追求ス可キ犯人ノ心ノ改良ノ目的ニ關シ又之カ爲メ刑ヲ組織スルノ方法ニ關シ及ヒ刑法中ニ施ス可キ必要ノ變更ニ關シテ數多ノ著書又ハ記事ヲ須行セリ（千八百五十六年、千八百五十七年、千八百六十年ニ於テ）

（二）白耳義新刑法ノ起案委員會ノ報告者タリシリエージユノ教官ニツペル氏ハ此委員會ノ事務ニ關シ甚タ大ナル部分ヲ取リテ最モ活發ニ關與セラレタリ

（三）普魯西ノ政府ハ始メ其大獄舍ノ一二中ニ獄舍制度ノ方法ヲ採用シ次キニ一時緩慢ヲ來シタル際ニ於テ全ク之ヲ放棄シ復タ千八百五十六年以來大ニ決定ノ之カ實驗ヲ取リタリ、又之ト同一ナル擧動カ同時ニ於テ日耳曼諸國、トスカーヌ、嗹馬國、シユエードニ及ヒ阿蘭陀ニ生シ來リタリ、千八百七十年ノ北日耳曼ノ刑法ハ其第二十二條ニ於テ晝間夜間ノ小房監禁ノ元則ヲ採用シタリ然レ𪜈被刑者ノ承諾アルニ非サレハ其期限ヲシテ三年ニ超過セシムルコトヲ得サルヿヲ加ヘタリ、今日ハアリテハ果シテ龍勳ノ監獄議會ニ因テ表明セラレタル傾向ニ從ヘハ此時白耳義ノ獄舍大監督ストバン氏ハ大ニ憤發シテ小房制度ノ方法ノ完全ノ施行ヲ主張シタルニモ拘ハラス此方法ハ短キ期限ノ監禁ニ制限セラレタルカ如シ」以太利亞刑法草按ニ從ヘハ（第十三條）エルガストロノ刑ニ處セラレタル者ハ十年間完全ノ離居ニ服セラレ次キニ其行狀ノ之ヲ許スニ足ル片ハ沈默ノ義務ヲ以テ晝間他囚ト共ニ勞務ニ就クヿヲ允許セラル、ノヿヲ得

英吉利ニ於テハ嘗テ重罪（英語フェロニー）ニ對シテ島地發遣ノ一刑アラデハ有セサリシナリ而シテ當時此刑ノ期限ノ最短期ハ七年ニテアリタリキ、然ルニ其殖民地ノ充滿シタルト殖民カ發遣ニ對シ不服ヲ鳴ラシタルト此刑ノ恐赫力ノ薄キトニ因リ之カ使用ノ場合ヲ減省シ、且ツ之カ責罰ノ性質ヲ强クセサルヲ得サルニ至リタリ、此ニ於テ千八百五十三年八月二十日ノ法ヲ以テ未タ最終ニ達セサル可キ種〻ノ種類ノ試驗ノ後ヲ嶋地發遣ハ代フルニ中間ノ一方法ヲ以テシタリ、此方法ニ因レハ徒刑（セルビテュード、ペナール）ト名ツクル所ノ刑ノ一種カ甚タ多數ナル場合ニ於テ且ツ殆シト判官ノ隨意ノ決定ニ任シテ嶋地發遣ノ位置ヲ取リ又嶋地發遣ノ最短期ハ十四年ニ定メラルルニ至リタリ、千八百五十七年六月二十六日ノ第二ノ法ハ其目的右ノ改正ヲ完全スルニアリタリ、此二ツノ種類ノ刑即チ徒刑及ヒ嶋地發遣ハ孰レモ不斷離隔ノ小房監禁ノ定マリタル期限（九箇月）ヲ以テ始マリテ次キニ被刑者

ノ勞務ヲ適當ニ組織シ得ル或ル場所(一)ニ於テ他ノ囚徒ト共ニ勞務ヲ取ラシムヘキ裁判官ニ因テ定メラレタル期限ノ來ル方法ニシテ被刑者ヲシテ種〻変リタル艱難ヲ經過セシムルノ刑ナリキ、而シテ此被刑者ヲシテ一處ニアリテ爲サシムル强迫勞務ハ嶋地發遣ニ處セラレタル者ニ對シテハ其行狀ニ因リ且ツ出帆ニ關係スル他ノ都合ニ從ヒ發遣セラル可キ位置ニアリト判セラル、迄ハ之ヲ繼續シテ而シテ之ヲ發遣スルニ當テハ殖民地ニ於テ自己ノ欲スル所ニ隨ヒ身ヲ處シ勞務ヲ爲スヿヲ允准スル所ノ許可證票ヲ附與スルノ方法ナリキ(二)、然レ𪜈嶋地發遣ニ抵抗スル英吉利殖民地ノ請求ト此刑ノ効果ノ薄弱ナルトガ千八百六十四年ニ於テ之ヲ英吉利刑法ヨリ脫却セシメタリ、但シ此癈止ニ拘ハラス被刑者ノ運送ハ千八百六十七年マテ止マサリシナリ、爾來英吉利ニ於テハ重罪ノ責罰ニ關シ徒刑ノ一刑存スルノミトス、而シテ此刑ハ最短期五年ニ定メラレ直チニ下等犯罪ノ最重ノ刑即チ二年ノ監禁ノ上ニアリ、又千八百六十四年ノ法ハ常ニ刑ノ二箇ノ期點即チ小房監禁ノ期ト普通ニ勞務ヲ取ラシムルノ期トヲ保存シテ尙ホ之ニ加フルニ阿爾蘭方法ト呼ハレタル方法ヲ以テシタリ、這ハ即チ常ニ取消シ得ヘキ証標ヲ用ヒテ以テ施ス假釋放ナリトス而シテ之ヲ阿爾蘭方法ト呼フモノハ阿爾蘭ニ於テカピテーヌ、クロフトンノ支配ヲ以テ之ヲ施シテ大ニ功ヲ奏セシカ故ナリ、此方法ノ實施ノ始メニ於テハ釋放ハ甚タ容易ニ宣告セラレ被釋者ハ總テ監督ヲ受ケサリシニ由リテ英吉利ニ於テ大ニ怨訴ヲ來シタリキ然レ𪜈千八百六十九年及ヒ千八百七十一年ノ法ハ被釋放者ヲ我監視ニ類スル處分ニ服セシメテ此定規ノ弊害ヲ止マシメタリ而メ此定規ハ終ニ果シテ善良ノ効果ヲ生シ千八百六十九年ヨリ千八百七十一年ニ至ルノ間徒刑ノ處刑ノ數ヲ二千五百八十七ヨリ千零十八ニ減縮セシメタリ、此刑ノ始メテ成ス所ノ一個人監禁ハミルバンノ獄舍ニ於テ之ヲ受ケシム此獄舍ハ小房ノ數七百ヲ有スレ𪜈囚徒ノ人口ノ數ハ是ヨリ大ニ多シ或ハ又蘇吉蘭ノペルトノ獄舍ニ於テ或ハ特ニパントンビールノ獄舍ニ於テ之ヲ受ケシム此パントンビールノ獄舍ハ英吉利ノ他ノ獄舍ノ摸範トナルヘキ小房制度ノ獄ニシテ千八百四十二年十二月ヨリ實行ニ附セラレ現時ハ大ニ增築セラレテ千零二十六ノ小房ヲ含蓄ス、其他ノ監禁即チ防禦又ハ第二等ノ犯罪ニ對シテ宣告セラレタル下級ノ刑ノ監禁ニ關シテハ概ネ小房制度ノ方法ヲ以テ獄舍ヲ建築シ又ハ建築ヲ繼續ス然レ𪜈此獄舍ハ千八百六十五年ノ法カ最モ明瞭ナル不同等ヲ消滅セシメタルコモ拘ハラス一同ノ制度ニ服スルニ至ルヿ甚タ遠シトス

(一) ポルトランドニポルドスムートニ及ヒチヤタームニ於テ役ニ就カシム而シテ此勞役ヨリ生スル所ノ利益ハ被刑者衣食住ノ費用ヲ超過スト云フ

(二) リボー氏ハ既ニ引用シタル千八百七十三年二月十五日發行ノルビユー、デー、ド

ー、モンド（雜誌ノ名稱ナリ）ニ於テ英吉利ノ監獄方法カ受ケタル近時ノ變更ヲ陳述セリ

我輩ハ茲ニ然ク種々ノ處分ヲ混合シテ且ツ不符合ナル英吉利ノ右ノ方法モ又其他ノ國ニ於テ屢々相反背スル性質ヲ有スル者ヲ刑中ニ混淆シテ以テ爲ス試驗ニ於タルニ至善ノ方法ニ應スルノ地位ニアラス即チ學問上ヨリ勸諭スル所ノ全ク合一ニシテ且ツ威力アリテ責罰ノ點ニ於テモ犯人ノ心ノ改良ノ點ニ於テモ充分ニ効果ヲ生スル所ノ至善ノ方法ニ應スルノ地位ニアラサルヿヲ明言スルノ要用ナカル可シ從テ右等ノ方法ヲ以テ善良ノ結果ヲ待ツヿノ甚タ誤マレルヿヲ明言スルノ要用ナカル可キナリ、然レ𪜈亞米利加、奥地哩亞、及ヒ西典ニ於テハ阿爾蘭ノ方法ニ傾向スルカ如シ但シ此方法ハ之ヲ要スルニ我國ニ於テ今日尚ホ現存スル所ノ同一ニ監禁スル然ク瑕瑾多キ方法ニ比スレハ甚タ大ニ改良シタル者ナリトス（一五一八）我輩ハ是ヨリ歐羅巴ノ近代ノ此改正ノ擧ニ於テ本源ヨリ我々ヲ害シ終ニ必然其不善ノ果實ヲ來シタリシ所ノ根本ノ瑕瑾ヲ見ントス此擧ハ當初其大ナル點ヲ現ハサスシテ其小ナル點ヲ以テ現ハレ來リタリ即チ獄舍ノ改良（レフヨルム、デー、プリゾン）ト云フ名義ヲ以テ現ハレ來リタリ、此名稱ハ千八百七十二年ニ組織セラレタル審査委員會（數一八七二參看）ノ稱呼ニモ用ヒラレテ終ニ何レノ場合ニモ刑ノ改良（レフヨルム、ペナール）ト云フ名アルニ至ラサリシナリ、而シテ實際上ノ施行ハ概ネ一時ニ數多ノ事件ヲ抱擁スルヿヲ忌ミ且ツ其進歩ヲ爲スニ從テ次第ニ一般ニ及ホスヿヲ欲スルカ故ニ人實際ニアリテ處分スル所通常此ノ如キモノトス

此改正カ右ノ狹隘ナル外形ヲ帶ヒタルハ重モニ我國佛良西ニ於テトナリス、レスタウラシヨンノ政府（譯者曰レストタラシヨンハ一般ニ復古ノ意ナリ然レ𪜈這ハ那破禮翁第一世ノ政府ニ繼キタル王統ノ政府ヲ云フ）ノ下ニアリテ其起首ニ於テハ單ニ行政上ノ處分トシテ一箇ノ問題トナリテ而シテ爾來シウィエーノ政府（譯者曰右レスタウラシヨンノ政府ニ繼キタル路易十八世ノ政府ヲ云フ）ノ下ニ於テハ立法上ノ處分トシテ着手セラレタリト雖𪜈我刑法ノ正文ニハ毫モ手ヲ觸ルル所ナク常ニ內務卿ニ因テ豫備セラレ起案セラレ且ツ國會議院ニ提出セラレタリ故ニ此改正ニ我處罰方法ノ完全ノ改良ニ係カラスシテ止タ執行上ノ事務ニ係ルニ過キサルカ如ク、從テ人左ノ如ク（刑法中ニハ其如何ナル物タルニ關セス單タ刑名ヲ置ク可シ其他ハ如何ナル事ヲモ執行上ノ法律ヲ以テ之ヲ爲ス可シ）ト言フヿヲ得ルト思考セシカ如クナリキ、因テ以テ此改正ノ進路如何ンヲ看ルニ足ル可キナリ」疑モナク中央行政官ト此行政官ニ因テ獄舍ノ保持ノ爲メ及ヒ支配ノ爲メニ用ヒラル、官吏トヨリ來ル所ノ此關涉ハ人物ト事件トノ實際ノ經驗ノミ獨リ與ヘ得ル所ノ責重ナル光明ヲ此問題ノ

中ニ誘キ入レタリ而シテ此光明ヲ得ルニ非サレハ法學家ノ全智識モ亦其功用大ィニ少ナカル可キナリ、然レ𪜈之カ爲メニ刑ノ點、裁判上ノ點ハ遠ク不問ニ附セラル、ノ結果ヲ生スルニ至リシナリ、此問題ノ深裡ニ存スル所ニシテ假令ヒ人之ヲ認メス又實際ニ於テ之ヲ認メタルヿヲ明言スルヿヲ欲セサルニモセヨ常ニ必然現ハレ來ラサルヿヲ得サル所ノ大眼目ハ其實全般ノ處罰方法ノ改良是ナリ故ニ大眼目ハ此方法ニ關シテ刑法ヲ改正スルニ在リ、偖テ此ノ如キ事業ハ司法卿ノ發議ト指揮ヲ要求スルヿニ此刑法ヲ完全ニ改正スルニ在リ、偖テ此ノ如キ事業ハ司法卿ノ發議ト指揮ヲ要求スルヿ

(一)即チ其勉力上ニ於テハ刑法學家ノ外ニ尙ホ行政官ノ光明ト實驗トニ因テ補助セラル、ノ司法卿ノ發議ト指揮トヲ要スルヿハ人之ヲ否ミスルヿヲ得サル可シ、千八百四十年ヨリ千八百四十六年ニ至ルノ間ニ起リタル法律ノ草按ハ立法官ノ前ニ來リタル辨論ニ因リ又之カ報告者タリシ若クハ此辨論ニ關與シタリシ所ノ法官ト法學家トニ因リ又之カ爲メニ質問ヲ受ケタル我大審院ト我控訴裁判所トノ答案意見ニ因リテ自ラ此改正ノ事業ヲメ立法上ノ事業ト爲スニ接近セシメタリ而メ假令ヒ偶然ニシテ且ツ關接ノ方法タルニ過キサルニモセヨ自ラ全般ノ刑法ノ改正ニ誘キシニ至リシナリ(二)然ルニ爾來湧沸シタル事變ハ復タ此問題ヲ單ニ行政ノ事業ニ誘キテ而シテ一個人監禁ノ制度ノ放棄ノ來リタルハ則チ此行政上ノ事業ヨリナリトス」 勿論既ニ此放棄以前ヨリシテカエアンヌニ被刑者殖民地ヲ開基シ徒刑ニ處セラレタル者ヲ此ニ發遣スルヿヲ始メクリキ這ハ千八百五十二年三月二十七日ノ命令ノ執行ニシテ後チ千八百五十四年五月三十日ノ法ニ因テ立法上ヨリ認メラレタル開設ナリトス、嗚呼這モ亦常ニ是レ我刑法ノ關係ニ於テハ前ニ迹ヘタル所ト同一ノ處方ニシテ即チ刑法ニ一ノ刑名アリテ執行上ノ法ニ於テハ全ク他物ヲ行フモノナリ、而シテ此發遣ノ制度ハ之ヲ嘗テ徒刑ヲ執行スル爲メノ方法タリシ彼ノ徒刑場(バーニョ)ノ制度ニ比スレハ疑モナク大ニ卓越スルモノトス然リト雖𪜈此卓越ヲ根據トシ之ヲ鳴ラシテ以テ何人ト雖𪜈此發遣ハ問題ヲ全ク氷解スルニ足ルト云ハント欲スル者ナカル可シ即チ一箇ノ爭フ可ラサル理由ノアリテ存スレハナリ即チ此發遣ハ被刑者ノ極メテ少ナキ數ヲ罰スルニ過キスシテ且ツ此小數スラ書ク之ヲ罰スルニ非ス時ニ既ニ矯正ス可ラサル者ニシテ最モ危險ナル者ニ及ハサルヿ遠ケレハナリ(三)我輩ハ學問上ヨリシテ嶋地發遣ハ純理ノ處罰方法中ニ尙ホ大イニ有用ナル地位ヲ占ム可キヿハ既ニ說明セラレテ明確ナリト思考スルニ因リ(前數一四九三及ヒ次數參看)從テ又我輩ハ右ノ發遣ヲ以テ佛良西ノ其廣大ナル所有殖民地ノ一ヲ開拓スルヨリシテ數年ノ後チ我佛良西ニ來リ得ヘキ遠キ利益ヲ與フルノ外ニ於テ尙ホ純理ノ處罰方法ノ將來ニ向ヒ事實上ニ大歩ヲ進メタル者ナリト認ム可シ、然レ𪜈到底之ヲ以テ我刑罰ノ基本ナリト見做スヿヲ得サルベキナリ」 又被刑者ノ群衆ニシテ其數中ニハ徒刑ニ處

セラレタル者ノ數ノ如キハ僅カニ些少ナル一部分ニ過キサル可キ即チ佛良西ノ我獄舍カ間斷ナク驅リ收メテハ又社會ニ放ツ所ノ此次第ニ生シ來ル衆兇人ニ對シテハ我行政官ハ自ラ採用セサル可ラスト信シタル所ノ中間ノ處分方法ヲ取リテ以テ我輩カ我成文法ヲ講スルニ當テ知ラシメント欲スル所ノ巨大ナル改良(後數一五三一及ヒ次數參看)ニ着手シ日一日ヨリ多ク此改良ヲ實行スルニ至リ得タルハ爭フ可ラサルノ一ナリトス然リト雖モ行政上ノ細目ハ其與ヘタル所ノ結果ハ幾何ノ緊要ナルニモセヨ其根本ヨリシテ弊害アル方法ニ就テ何事ヲカ能ク爲スヿヲ得ンヤ、我輩ハ此方法ノ得失ヲ現ハス爲メニ再犯ノ數ノ甚タシキヲ示スニ過キサルヘキナリ(前數一二三七參看)又行政官ノ注慮、伎能及ヒ此行政官ニ因テ誘キ入レラル、所ノ改良大ナレハ則チ大ナルニ從テ論局ハ愈、此クノ如キ結果ニ導ク所ノ處罰方法其物ニ抵抗シテ强固トナルニ非ヤ

(一) 大審院ハ審査委員會ニ因テ寄セラレタル質問ニ對スル其答案ノ中ニ於テ(數一五一九第二號ヲ參看ス可シ)獄舍ハ須カラク中央政權ノ監督ノ下ニ置カル可ク獄舍ノ一般ノ支配ハ須カラノ內務卿ヨリ司法卿ニ移サル可シト云フ希望ヲ載セタリ、又ド、ヲーソンビール氏ハ其報告書ノ中ニ於テ現今ノ地位ヨリ來ス所ノ管轄抵觸ヲ明ニ示セリ

(二) 監獄改良案ニ係ル大審院ノ近時ノ意見ノ中ニ左ノ文ヲ見ル(我刑法ハ重罪及ヒ輕罪ヲ其輕重ト其性質トニ從テ班次セリ、此班次ハ生理的及ヒ人心上ノ商量ヨリ出タル高尙ノ事業ナリトス、而シテ然ク班次セラレタル事實ヲ目前ニ取リテ以テ我刑法ハ其重量ト嚴烈トカ犯人ノ背德ト罪ノ大小ニ從テ進ム所ノ刑ヲ定メタリ、是ヨリシテ刑ノ左ノ等級生ス曰ク死刑、無期徒刑、流刑、有期徒刑、懲役、禁獄、禁錮ト而シテ這ハ事實順序ニ照シ且ツ爲メニ之ニ通シテ測定セラレタルモノトス　今監獄方法ヲ定ムルニ關シテハ或ハ刑法ニ監獄方法ヲ附屬セシメサル可ラス然ルトキハ之カ爲メニ例ヘハ小房制度ノ如キ一箇ノ方法ノ刑ノ一樣中ニアリテ我刑法ノ諸刑盡ク其完全ノ執行ヲ有シ得ヘキ的ノ種〻ノ異樣ヲ立ツルノ困難ナル事業ヲ爲サ、ル可ラス、或ハ又監獄方法ニ刑法ヲ附屬セシメサル可ラス然ルトキハ我刑法ノ改正ニ看手セサル可ラス、故ニ何レノ場合ニ於テモ採用セラレタル監獄制度ノ稱乎ト全ク抵觸スル所ノ我刑法ノ刑ノ稱乎ト消滅セシムル爲メニ我刑法改正ニ附スルハ避ケ難キノ一ナリトス)

(三) 大凡ソノ數ヲ以テ算スレハ懲役若クハ禁錮一年以上ニ處セラル、者ハ一年間一万人ニシテ且ツ此計算ニ懲治禁錮ニ處セラル、一年以下ノ者モ盡ク加ヘ算スレハ一年間九萬九千人餘ニ至リテ而シテ徒刑ニ處セラル、者ハ一年間九百人ニ過キス

(一五一九) 其然リ、然リト雖モ亞米利和ニ於テハ監獄ノ問題ハ十八世紀ノ末季ヨリシテ

刑法ノ改良ノ問題ニ連結セラレタリ(前數一五〇九參看)又千八百四十六年及ヒ千八百四十七年ノ監獄議會ハ刑法ノ此改正ヲ以テ監獄改良ノ附屬トシテ其一般ノ議決中ノ一箇ノ案件ト爲シ其次回ノ會期ニ於テ之ヲ論辯セント擬シタリキ(前數一五一五押注議決第八條及ヒ次回會期議案ヲ參看ス可シ)此時季以來刑法ニ關スル學問上ノ事業ト或ル國々ニ於テ看手シ新タニ公布シタル敬布ノ法ヲ集合シテ一大盛典ト爲スノ事業ト又歐羅巴全州ニ一般風ヲ成シ交通スル要書類ノ交換ノ慣習ニ因リラ比較ノ規矩上ニ來リタル甚タ大ナル發達トノ三者カ此件ニ關スル目的ヲシテ一層廣濶ニ且一層精細ナラシムルニ至リタリ故ニ今日ニアリテハ龍動ノ監獄議會ノ不成功ニモ拘ハラス且ツ此不成功ハ特別ノ理由ヲ以テ之ヲ說明シ得ヘキニ因リ(前數一五一五參看)尙ホ議論中ニ係ル或ル數點ヲ除クノ外ハ刑法ノ學問即チ其解明ヲ法理ニ基ツク所ニシテ眞ニ學問ト命セラレ得ル所ノ學問ハ刑ノ善良ノ法典中ニ遵奉ス可キ一般ノ規則ニ關シテハ確定セラレタリト云フモ敢テ過言ニアラサルヘキナリ、諸國ニ於テ最モ威權ヲ有スル此學問ノ機關即チ立法官ハ此學問ノ元則ヲ成文ト爲スニ至テハ孰レモ同一ノ意義ヲ以テ之ヲ成文ニ擧クルニ至レリ、故ニ道德上法理上同一ノ鼓動ノ下ニ棲息スル諸國ノ間ニ於テ將來ニ對スル精神ノ豫見シ得ル所ノ一大成典ヲ以テ刑法ヲ一樣ニスルヿハ場所ニ因テ異ナラサルヲ得サル甚タ緊要ナラサル細說上ノ羞異ヲ除クノ外ハ學者ノ著述ト特ニ最近時代ノ立法上ノ正文トニ因リ其將來ノ材料ニ關シテハ人ノ思考スル所ヨリハ寧ロ既ニ大ニ豫備セラレタリト云フヲ得ヘキナリ、偖テ輿論及ヒ立法官ノ方向既ニ此ノ如クナルニ因リ人ノ監獄改良ト呼ヒタル所ノ者ハ今日漸ク其眞實ノ地位ヲ取ラントスルニ傾向セリ、乃チ監獄改良ハ其附屬ノ部分ノ名義ヲ以テ刑法ノ改正ヲ含蓄スルヨリハ更ラニ尙ホ廣濶ナル此刑法ノ改正中ニ含蓄セラル、者ニシテ其一部分ニ過キス抑モ此一部ハ固ヨリ緊要ハ即チ緊要ナリト雖モ部分ハ常ニ全部ニ附屬スルカ如ク之ヲ要スルニ監獄改良ハ刑法改正ノ一部分ニ過キサルヿヲ發見スルヿヲ始メタリ、果シテ然ルヤハ監獄改良ハ全刑法ト一般ニ調和シ全般ニ及フノ目的ヲ以テ基始セラレ組織セラレサル可ラサルナリ、然シテ最モ近時ノ刑法ノ一二ハ稍〻々此意義ニ近キ者ナキニ非サレモ我輩ハ未タ全ク此意義ヲ以テ公布セラレ實行中ニ係ル者ヲ有セサルナリ然レモ我輩カ白耳義ノ新刑法及葡萄牙ノ刑法草按ヲ擧クヘキハ則チ茲ニ於テナリトス

千八百六十七年六月十八日ヲ以テ頒布セラレタル白耳義新刑法ハ其實是迄此王國ニ現存シ且ツ既ニ特別法ヲ以テ數多ノ點ヲ改良シタル千八百十年ノ佛良西刑法ノ改正ニ過キス、其改正ノ區域ニ於テハ甚タ廣シト雖モ我刑法ノ規摸ト其全般ノ方法ト其刑ノ數多ニレテ且ツ有弊ナル稱呼ニ至ルマテ尙ホ之ヲ存在セシメタリ、而シテ此案ノ最モ數多ニシテ且ツ爭フ

可ラサル改良ヲ來シタルハ重モニ箇條ノ配置ト細目トニアリトス、我輩ハ此改正按ハ一箇ノ新事業トシテ處分ト言辭トヲ一ニシ學問上勸諭スル所ノ刑ノ一樣ナル基礎ニ基キ一貫シテ以テ成レリト云フヿヲ得サルヘキナリ、此改正案第四十二條ニ因レハ(徒刑、禁獄懲役及ヒ禁錮ニ處セラレタル者ハ離居ノ制度ニ服セシメラレタリ)而シテ同條ハ又然ク受ケシムル所ノ刑ノ期限ヲ半分ニ減縮セント擬シタリキ我輩ヲ以テ之ヲ見レハ蓋シ此制合ハ少シク多キニ過キタリト云フ可シ、故ニ此案ニ從ヘハ囚徒間不新離隔ノ小房監禁ノ元則ハ止タ獄舍ノ總テノ建築カ此制度ニ照シテ完了セラルヽヲ待ツ爲メノ移轉ノ時間ヲ除クノ外ハ白耳義ノ一般ノ法律トナルヿニ確定セラレタリ、然レ𪜈此箇條ハ最終ニ至リテ終ニ塗抹セラレ千八百七十年三月四日制定ノ特別法ニ因テ代ハラレタリ此法ノ制定スル所ハ則チ左ノ如シ

(徒刑、禁獄(一)懲役及ヒ禁錮ニ處セラレタル者ハ獄舍ノ地位ノ之ヲ許ス犬ケ離居ノ制度ニ服セシメラル可シ、此場合ニ於テ重罪及ヒ輕罪裁判所ニ因テ宣告セラレタル刑ノ期限ハ左ノ割合ヲ以テ減省セラル可シ　第一年ニアリテハ十二分ノ三ヲ減ス可シ　第二第三第四及ヒ第五年ハ十二分ノ四　第六第七第八及ヒ第九年ハ十二分ノ五第十第十二及ヒ十二年ハ十二分ノ六　第十三及ヒ第十四年ハ十二分ノ七　第十五及ヒ第十六年ハ十二分ノ八　第十七第十八第十九及ヒ第二十年ハ十二分ノ九ヲ減ス可シ　減省ハ刑ノ日數ニ照シテ算セラル可シ但シ刑ノ第一月ニハ減省ヲ用ヒス又全一日ニ滿サル日數ノ剩餘ニ對シテハ減省セサル可シ　年ハ一部分ヲ以テ宣告セラレタル刑ニ關スル減省ハ此刑ノ屬スル年ニ對シテ定メラレタル割合ニ從テ之ヲ算ス可シ　被刑者カ繼續シテ離居ノ制度ニ服セラレタル片モ間斷シテ服セラレタル片モ減省ハ同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲シ此制度ヲ受ケタル年ノミニ照シテ之ヲ算ス可シ　無期徒刑ニ處セラレタル者及ヒ無期禁獄ニ處セラレタル者ハ始メノ十年間ニ非サレハ之ヲ離居ノ制度ニ服スルヲ得ス)不幸ニシテ白耳義ニ於テ疑ヒモナク會計上止ムヲ得サルヨリシテ實際ハ尚ホ大ニ法律ニ後レ同居ノ監禁ハ數多ノ獄舍ニ尚ホ存ス而シテ再犯人ノ數ニ至テハ百分ノ七十八ニ至ルト云フ」

(一)　白耳義ハ刑事ノ殖民地ヲ有セサルニ因リ無期禁獄ヲ以テ我流刑ニ換ヘリ

葡萄牙國刑法草按ハ新思想ニ尚ホ大ニ進入シタルモノトス、此草按ハ近ク千八百五十二年十二月十日頒布ノ刑法ニ代ルモノタリト雖𪜈活發ニ近世ノ學問上ノ擧動中ニ入リテ遠ク右ノ刑法ト別離シ總テ順序ヲ以テ相連絡スル所ノ全般ヲ抱括スル方法ニ則トリ一貫ノ論理ヲ遵奉シテ以テ組織セラレタリ、既ニ千八百三十五年ニ於テ葡萄牙國會(コルテー)ノ議決ハ王命ト共ニ內國外國ノ學識者ニ徵シ競爭ノ方法ヲ以テ其善良ナリト判セラレタル者ニハ巨額ノ賞金ヲ附與スルヿヲ約シテ大ニ民法刑法ノ法律按ヲ募集シタリキ(二)今回ハ尚ホ一層

實着ノ方法ニシテ特ニ利益ニ關セサルニ因リ一層貴重ナル方法ヲ以テ學者ノ意見ヲ徵シタリ即チ政府ハ超草委員ノ組合ヲ機關トシテ諸國ニ於テ最モ著名ナル或ル刑法學者ニ依頼シ其草按ニ對スル意見ヲ徵集シタリ、而シテ此意見ハ彼此ノ點ニ就テ各學者ノ得意トスル所ト持論トニ從ヒ或ハ助言トナリ或ハ注意トシテ諸方ヨリ集マリ來リタリキ、然レ𪜈此委員組合ノ負擔タル事業其物ニ關シテハ辞ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ然ク徵集シタル要書ニシテ各〻異樣ニ且ツ時トシテハ疑ヒモナク矛循スル所ノ者ヲ取捨シテ其長所ヲ得ルニ關シテハ之ニ任スルニ足ル所ノ人物ヲ要セシナリ即チ深ク刑法ノ學問ヲ愛シテ其意見ノ何レヨリ來ルヲ論セス取ル可キハ之ヲ取リ且ツ歐州近時ノ進歩ヲ充分ニ熟知シタル自ラ刑法ノ學問ト實際トニ於テ蘊奥ヲ窮メシ人物ヲ要セシナリ、然ルニ幸ニ葡萄牙國ノ爲メニ此人物ヲ得タリシコトヲ賀スルコトヲ得ヘシ、此ニ人若シ此草按ノ起首ニ掲載セラレタル報告書中ニ於テ委員組合カ採用シタル實ニ數多ナル材料ト此組合ヲシテ決定セシメタル所ノ理由トノ指明ヲ讀マハ我時代ノ歐州ノ刑法ニ關スル諸説中ニ於テ最モ一般ニ信用ヲ得タル且ツ最モ正サニ次第ニ進歩スル所ノ理論ハ此事業ノ中ニ相混和シ法律ノ正文トシテ節約セラレ來リタリト云フコトヲ得ヘキナリ(二)、今止タ刑ノ方法ノ組織ノミニ就テ論スルニ我輩カ前ヨリ陳述シ來リタル所ノ純理ノ元則カ最モ滿足セラレタルハ我輩ノ知ル所ニ因レハ則チ此草按ニ於テナリトス」、乃チ不斷離隔ノ小房監禁ハ此草按ノ刑ノ基本ナリタリ、葡萄牙政府ハ此元則ヲ採用スルノ前ニ於テ歐羅巴ノ獄舍ヲ巡視セシメ且ツ報告書ヲ徵シテ自ラ明カニスルコトヲ力メタリキ(三)又罰金ハ日ノ幾何ク又ハ年ノ幾何ク又ハ月ノ幾何ク二從テ算スルノ方法ヲ取リテ基本タル刑ノ扶助ヲ成シ權利ノ失墜ハ其狹隘ナル使用ニ減縮セラレタリ又釋放ノ時ニ對スル補遺ノ設置ハ少ナクモ此點ニ關シ今日マテ提出セラレ若クハ實驗セラレタル思想ノ之ヲ爲スコトヲ許スニ從テ此按ニ之ヲ採用シタリ、葡萄牙ノ殖民地ニ發遣スルコトハ既ニデクレードノ名稱ヲ以テ使用ニ係ル所ニシテ此按ニ於テモ亦重罪ノ刑トシテ其地位ヲ保存ス然レ𪜈離隔小房監禁ノ或ル期限ヲ輕過セシメタル後ニ非ラサレハ發遣スルコトヲ得サルノ方法タリ、刑ノ等級ハ寔トニ能ク配置セラレ其期限ハ刑ノ階級ノ各度ニ從ヒ嚴烈ノ點ト一致シテ進退ス、又最終ニハ小房制度ヲ採用シタルヨリシテ來リタル刑ノ期限ノ減縮ハ人若シ刑法ノ特別ノ部分ヲ見ルトキハ或ル重罪ハ此ニ甚タ寛ニ罰セラルヽカ如ク見ユルヨリシテ此方法ニ就テ總テ希望シ得ル所ノ者ヲ盡ク知ラサル者ハ恐ラクハ此ニ充分ナル責罰ノ主旨存セストト思考スルニ至ルカ如キノ點ニアリトス

(一) 千八百二十五年四月二十五日ノ王命ニ載セラレタル賞金ハ左ノ如シ、民事ノ編纂即チ民法及ヒ訴訟法ニ就テハ第一賞金十萬「フランク」(譯者曰一「フランク」ハ我貨

幣二十錢ニ略々適スルヲ以テ十萬「フランク」ハ我貨幣二萬圓內外ナリトス）第二賞金五萬「フランク」ナリ」又刑事ノ編纂即チ刑法及ヒ治罪法ニ對シテハ第一賞金五萬「フランク」第二賞金二萬五千「フランク」ナリ

（二）編纂委員組合ハアントニヲ、ド、アゼベド會長メロ、カルバロ、ジヨゼー、アントニナレヱフーラー、リマ幷ヒニ書記及ヒ報告者ル、ドリトール、レビー、マリヤー、ジヨルダヲ諸民ヲ以テ組織セラレタリ

我輩ハボンヌヒール、ド、マルサンジー氏ニ因テ千八百六十四年リスボンヌニ於テ發兌セラレタル草按ノ第三板ノ交附ヲ得タリ

學問上大ニレビー、マリヤー、ジヨルダヲ氏カ鬼籍ニ入ラレタルヲ悲哀ス可シ、氏ハ既ニ報告者ノ地位ヲ以テ此事業ニ最モ活發ニ盡力セラレ且ツ組合ノ會長ニ命セラレタリキ」氏ハ嘗テナルトラン氏ノ門生タリキ

（三）千八百五十七年リスボンヌ發兌（千八百五十七年四月二十日スーザー、アゼベド氏ニ因テ司法卿ニ差出シタル歐羅巴ノ監獄ニ關スル報告書）ヲ參看ス可シ、第二報告書ハ千八百五十八年十月二十日ニ於テ提出セラレタリ（千八百五十九年リスボンヌ發兌但葡萄牙語ナリ」）又此二箇ノ報告書ノ外ニ千八百六十年コインブル發兌アイルス、ド、クーベラー氏著述（葡萄牙監獄改良）ヲ參看ス可シ

之ヲ要スルニ元則ノ學問ト事實ノ觀察トニ因リ我輩ハ囚徒間不斷離隔ノ小房監禁ヲ採用シ且ツ必然之ニ附屬セサル可ラサル所ノ補遺ノ定期ヲ以テ自由ヲ剝奪スルニ係ル刑ノ善良ノ排置ヲ爲スヿハ社會ノ安寧ノ爲メニ日一日ヨリ緊急トナリタリ刑法ノ改新ノ條件其物ヲ構成スルヿヲ確信シテ疑ハサル可シ、而シテ事變ノ大ニ湧沸シタルヨリシテ來リタル中止ノ時ニ拘ハラス我輩ハ歐羅巴ニ於テ此改新ノ萠芽ノ次第ニ擴張シ發達スルヲ見ルナリ

○補錄

（一五一九第二四）我輩ハ今此一章ヲ終ルニ當リテハ審査委員組合ニ因テ寄セラレタル問題ニ對スル其答案中ニ於テ千八百七十三年二月十四日大審院ニ因テ裁可セラレタル議決ノ節略ヲ擧ケテ之ヲ終ルヨリ好キハ非サル可キナリ

右ノ問題ノ第一ノ部分ニ對スル所ノ希望ニシテ即チ我輩カ前ニ擧ケタル（前數一五一八第二項挿注第一第二參看）所ノ獄舍ノ大指揮ヲ司法卿ニ移轉スルト刑法ニ從テ刑ノ制度ヲ改正スルトノ希望ヲ揭ケタル後チ大審院ハ左ノ意見ヲ吐露シタリ

（第二點　問題ノ第二ノ部分ノ保庇ト監督トニ關スル點ニ就テハ左ニ」

（第一條　被釋放者ヲ扶助スル爲メノ保庇ノ設置ハ總テノ監獄制度ニ又特別ニ我獄舍ノ現

今ノ制度ニ合用セラルヽヲ得ヘシ

(第二條　保庇ノ事業ハ奬勵セラレ又回顧セラレサル可ラス

(第三條　保庇ノ成立ヲ堅固ニシ及ヒ之カ進歩ヲ擴張スルノ職分ハ可及的之ヲ私シノ着手又特ニ人民ニ因テ開設セラレタル會社ニ委任セサル可ラス

(第四條　保庇ノ行爲ハ刑ノ期限間監督ノ委員組合ニ因テ豫メ安排セラルヽヲ要ス又此組合ニハ新タニ其管轄スル所ノ職務ヲ增加シ且ツ舊來ノ規則ノ之ニ與ヘタル所ノ勢力ヲ總テ獄舍ノ支配ノ無形的ノ事務ニ關スル者ト共ニ盛大ニ爲スヿヲ適當トス

(第五條　保庇ノ會社ノ規則ニ因テ規定セラレタル義務ニ服スル被刑者又特ニ其所有財ノ一部分ヲ會社ノ看守ニ任スルヿニ服スル所ノ被刑者ハ官署ト保庇ノ會社トノ間ニ定メラレタル約束ニ照シ一時之ヲシテ監視ヲ免カレシム可シ

(第三點　刑法改正ノ表題ノ下ニ置カレタル問題ノ第三ノ部分ニ關スル所ノ者ニ就テハ左ニ

(第一條　重罪被告人及ヒ輕罪被告人ニハ晝間及ヒ夜間ノ幽閉ヲ適用セサル可ラス

(第二第　府縣ノ獄舍ハ總テ晝間夜間共ニ純粹ノ離居ノ制度ニ從ハサル可ラス、此制度ハ然ク總テノ處刑ニ即チ短カキ期限ノ禁錮ニモ適用セラル可シ

(第三條　禁錮ノ刑ハ懲役ニ處セラレタル者ニ宛テラル、所ノ獄舍ニ於テ之ヲ受ケシム可ラス乃チ特別ノ建造物又ハ少ナクモ別離セラレタル區域ニ於テ之ヲ受ケシム可シ

(第四條　拘禁又ハ矯心ノ總テノ建造物ニ於テハ被刑者カ其刑ノ始初ノ數月間經過スル所ノ小房ノ區域ヲ定ムルヲ適當トス

(第五條　被刑者其全刑ヲ小房ノ區域中ニ於テ受クルノ希望ヲ吐露シ且ツ規則上ノ總テノ條件ヲ滿足スル所ノ者ニハ刑ノ期限カ如何アルニモセヨ之ヲ許可ス可シ(一)

(第六條　夜間囚徒ノ幽閉ハ禁獄ノ總テノ獄舍ニ於テ遵守セサル可ラサル規則タルヲ要ス

(第七條　如何ナル獄舍ニ於テモ再犯者ハ決シテ初メテ處刑ヲ受ケタル者ト同居セシム可ラス

(第八條　コルスニ於テ建設セラレタル者ニ同一ナル新タナル農事監獄場ヲ創設スルヲ良トス

(第九條　拘禁及ヒ矯正ノ總テノ建造物ニ於テハ惡ノ感染ノ豫防及ヒ矯正ノ場所ノ一區域ヲ具備スルヲ要ス

(第十條　勞務ヨリ生スル利益ニ關シ囚徒ノ取ル可キ部分ヲ次第ニ增加スルヿハ被刑者ノ改悛ニ充分ナル勢力ヲ有スルモノトス

（第十一條　監視ノ保存セラル可キハ極メテ必要ノ一ナリトス之カ適用ハ裁判官ノ自由ノ斟酌ニ任スルヲ要スト思考セス然レ𪜈監視ヲ以テ眞ノ一箇ノ刑ト定メ此資格ニ因リ特赦ノ路ヲ以テ赦免セラレ得ルヲ良トス（二）

（第十二條　司法卿ノ報告ニ因リ政府ノ長ニ因テ裁可セラル可キ條件ニ從フ特赦（グラース コンシショネール）ノ一方法ノ創定ハ希望ス可キノ一ナリトス、此制規ハ監獄官署ノ全權ニ任シタル豫備釋放ノ方法ヨリ一層確實ナルモノトス、我刑法及ヒ我監獄制度ハ此新入ノ採用ニ妨クル所ナカル可シ（三）

（第十三條　徒刑ノ執行ニ關スル千八百五十四年五月三十日制定ノ法ノ効果上ニ於テ今日マテ爲シ得タル所ノ實驗ハ未タ其成功ヲ容易ニ鑒定スル一ヲ許スノ地位ニアラストス、然ラハ則チ假リニ之ヲ保存スルヲ以テ適當トス

（第十四條　鰥地發遣ハ懲治ノ刑ニ處セラレタル者ノ或ル部類ニ之ヲ使用シ得ルカ如シ即チ乞丐人、浮浪人、追放ノ刑ヲ受ケテ歸來シタル者是ナリ、然レ𪜈是等ノ者ニ對シテ宣告セラレタル處刑ノ數ト重大ナル一トノ總計カ其犯シタル輕罪ノ中ニ就テ最モ重キ輕罪ニ該ル可キ刑ノ最長期ノ二倍ヲ少ナクモ超過スルニ至リタル一ヲ要ス、斯クノ如クニシテ短カキ期限ノ刑ニ處スルノ繁多ニ至ル爭フ可ラサル不便ヲ概ネ補フ一ヲ得ヘシ

（第十五條　最終ニハ幼年囚徒ノ懲治教育ニ關スル千八百五十一年五月五日制定ノ法律ヲ變更スルノ要ナク又是非辨別ノ年齡ニ關スル刑法第六十六條ヲ改正スルノ要ナシトス）

（一）此試驗ハ巴里府サンテーノ獄舍ニ施サレテ大ニ其功ヲ奏スルニ至リタリ

（二）此最終ノ希望ハ監視ニ關スル最モ近時ノ法ヲ以テ實行セラルヽニ至リタリ

（三）此方法ハ我輩カ流刑ヲ論スルヽニ當リ引用ス可キ千八百七十三年三月二十五日ノ法ニ因テ（第十五條）ヌーベル、カレドニーニ謫セラレタル者ニ對シテ適用セラレタリ

第七章　我成文法諸種ノ刑

（一五二〇）我佛蘭西刑法ニ於テ使用スル所ノ刑ハ大低集合シタル數多ノ種類ノ痛苦ヲ以テ其組織ヲ成ス、即チ一箇ノ全刑ヲナサンガ爲メニ相合同スル所ノ種〻ノ元素ヨリ其構成ヲ爲スモノトス、今此刑ノ有スル所ノ稱呼ニ基キテ其然ル所以ヲ精密ニ且ツ完全ニ考定セントスルノ前ニ於テ、先ツ其元素ヲ別離シ其種〻ノ形狀ニ就テ之ヲ講究スルハ極メテ緊要ノ一ナリトス、此事一タビ爲サレナバ次キニハ之ヲ集合スルノ要アルニ過キサルニ至ラン

然ルカ故ニ我輩ハ刑ノ種別、刑ノ班次ヨリ着手シテ而シテ又我輩ハ此刑ニ就キ犯罪ニ關シテ言ヒタリシ所ト同一ノ事ヲ言フ可シ（前數五九六參看）即チ此班次ハ毫モ動カス可ラサル

モノニ非ス、且ツ講究セントスル目的ノ點ニ從テ此班次ノ種〻ノ種類ヲ見ルニ至ル可シト言フ可キナリ

第一節　被刑者ノ身體、其心又ハ其權利ニ及フノ刑

被刑者ノ身體ニ及フノ刑

（一五二一）千八百十年ノ刑法中ニハ尙ホ存在セシ古刑タル夫ノ折割、又ハ黥刺ノ最終ノ遺物タル彼ノ父母ヲ弑シタル者ノ死刑ノ執行前ニ其手頸ヲ切斷スルヿ、及ヒ徒刑ニ處セラレタル者ノ右扇ニ鐵火ヲ以テ熔印スルヿ等ハ千八百三十二年ノ改正ノ法ニ因テ抹殺シ去ラレタリ、故ニ今日ニ至テハ我邦ニ於テ死刑ヒ及自由ヲ剝奪スルニ係ル諸種ノ刑ヲ除クノ外ニハモハヤ他ニ身体ニ及フノ刑ハ之ナキナリ、請フ是ヨリ之ヲ歷擧セン

（一五二二）死刑」　刑法第十二條及ヒ第十四條ハ之カ執行ヲ制規ス（一）、我輩ハ既ニ此執行ノ問題ニ關シ千七百九十一年ニ於テ如何ナル種類ノ議論カ沸騰セシカヲ知ルヲ以テ此ニ贅セス（前數一四六參看）」　死刑ノ遺骸ニ關シテハ往古ハ之ヲ絞首器械ノ叉ニ架シテ其腐爛スルニ至ルマテ曝露スルカ、若クハ法律ノ權力ヲ以テ之ヲ外科醫術ノ解剖ニ付シタリキ、然レモ既ニ千七百九十一年制定ノ刑法前ニ於テ千七百九十年ノ法ハ親屬請フ者アルトキハ死刑ノ遺骸ヲ附與ス可キ旨ヲ命シタリ、

（二）、而シテ千八百十年ノ刑法ハ此處分ヲ再出シタリ

（一）刑法第十二條（凡ソ死刑ニ處セラレタル者斬首セラル可シ）

第十四條（死刑ニ處セラレタル者ノ死屍ハ其親屬之ヲ請求スルトキ如何ナル儀式ヲモ具フルヿナク之ヲ埋葬スルノ任ヲ以テ附與セラル可シ）（此處分ハ千七百七十年一月二十一日ノ憲法議院ノ布告第四條ヨリ引カレタリ）

（二）這ハデゥテロノーム ノ處分ナリ、羅馬法律ノ處分モ一般ニ此ノ如クナリキ

死刑ノ使用ノ場合ハ千八百三十二年ノ改正ノ時ニ減少セラレタリ、然レモ謀殺罪ノ外ニ於テ尙ホ數多ノ重罪ニシテ此死刑使用ノ場合ニ入ルモノアリ（一）我輩ハ之ヲ算スルニ十二有餘ノ數ヲ用フ可ク、且ツ之ニ加フルニ未遂犯、再犯及ヒ數人共犯ニ係ル我刑法ノ處分ノ屢〻死刑ヲ來タス結果アリトス、我輩ノ確信スル所ニ因レハ今ヨリシテ我刑ノ方法ノ現時ノ組織ニ於テスラ、總テ第一等ノ殺人ノ性質ヲ有セサル所ノ罪トシ論ス可キ者ニ關シ立法上ヨリシテ死刑ヲ廢絕シ之ニ換フルニ他ノ刑ヲ以テシテ毫モ責罰ノ効果ヲ減スルヿナク、却テ之ヲ强固ニスルニ至リテ大ニ利益ヲ來タス可キヿハ疑ヲ容レサルナリ、陪審官カ死刑ノ適用ヲ恐ル、カ爲メニ事實上毫モ原諒ス可キ情狀ナキ片ニ當リテモ尙ホ被告人ノ爲メニ酌量減輕ヲ宣告スルハ則チ特ニ此ノ如キ場合ニ於テナリトス、又屢々特赦ヲ以テ死刑ノ執行ヲ

完了セシメタルモ則チ此ノ如キ場合ニ於テナリトス」我輩ハ既ニ此死刑ハ國事犯ニ關シテ如何ニシテ廢セラレ且ツ今日如何樣ニ廢絶ノ地位ニアルカ(二)又裁判官ハ死刑ヲ來タス法律ノ正文ヲ適用スルニ係ル毎ニ第一ニ法理ニ照シテ犯罪ノ國事タルカ將タ非國事タルカヲ如何ニ裁定セサル可ラサルカヲ說明シタル以テ(前數七三六參看)此ニ之ヲ贅セサルナリ

(一) 刑法第五十六條、七十五條、七十六條、七十七條、七十九條、八十條、八十一條、八十三條、八十六條、八十七條、九十一條ヨリ九十七條ニ至ル、百二十五條、二百三十三條三百二條、三百三條、三百四條、三百十六條、三百四十四條、三百六十五條、四百四十四條、四百三十五條、四百三十七條ヲ見ル可シ」又特別法中ニ就テ衛生上警察ニ關スル千八百二十二年三月三日制定ノ法第七條、九條、十條、及十一條、又鐵道警察ニ關スル千八百四十五年七月十五日制定ノ法第十六條ヲ見ル可シ

(二) 千八百四十八年二月二十八日ノ公誥

《寛仁大度ハ至高至大ノ政典ニシテ、佛蘭西人民ニ因テ行ハル、草命ハ毎回益〻進ミテ哲學ノ眞理ヲ世界ニ傳播セサル可ラサルヿヲ體認シ

《人類ノ生命ノ犯ス可ラサル巍々タル元則ヨリモ尙ホ嵩高ナル元則ハ決シテ存スルコト能ハサルニ照シ

《又假衙門ニ於テハ今我々ノ經過シツヽアル非常ノ日ニ當リ人民ノ口頭ヨリ復讐若クハ殺死ノ一叫聲ヲモ出デザルベキコトヲ自ラ誇リテ證明シタルニ照シ

《共和政府假衙門ハ

《其思考中ニ於テハ既ニ國事犯事件ニ關シ死刑ヲ廢絶シ、且此希望ヲ國會議院ノ批准ニ附ス可キヿヲ公誥スルモノナリ》

千八百四十八年十一月四日ノ憲法第五條《國事犯事件ニ關シ死刑ヲ廢止ス》

右ノ處分ト共ニ我輩カ後數千五百二十三(一五二三)注記ニ擧クル所ノ死刑ニ代ル可キ刑ヲ組織シタル千八百五十年六月六日ノ法ト千八百五十三年六月十日ノ法ノ第一ノ草按ニ來シタル修正ノ意義トヲ參看ス可シ、此修正以前ハ國事犯死刑廢止ハ一時危フカリシカ此修正ヨリシテ刑法(新編纂)第八十六條ノ或ル部分ニ含蓄スル例外、即ケ帝政政府ノ隋落ヨリシテ適用ノ止ミタル所ノ例外ヲ除クノ外此死刑ノ廢止ハ總テノ他ノ場合ニ於テ確定セラレタリ(前數七三六參看)

刑事統計表ハ近年以來死刑處斷ノ數ト其執行ノ數トノ大ニ減少シタルヿヲ我々ニ指明セリ此死刑處斷ノ最モ甚シク其數ヲ減シタルハ千八百三十一年以來ニアリ、是レ特ニ死刑使用ノ場合ヲ減縮シ且酌量減輕ノ適用ヲ重罪ニ擴メタル所ノ千八百三十二年ノ改正法ノ勢力ニ

因ルモノトス、然レモ減少ハ常ニ次第ニ多リナリテ我十年以來マテ繼續シテ止マサルナリ、我輩ハ是ヨリ其圖ヲ擧ク可シ、レストウラシヨン政府(譯者曰ク、レストウラシヨン政府ハ那破禮翁第一世ノ政府ニ繼キタル政府ニシテ復古政府トモ譯スベキカ其精細ハ前ニ出ツ)ノ千八百十六年ヨリ千八百三十年ニ至ルノ十五年間ニシテハ死刑處斷ノ全數三千七百九十九ナリキ、是レ一年ノ平均數二百五十三ニ當ルモノトス、然レモ此處斷ニ通スル所ノ執行ノ數ヲ完全ニ知リ得タルニ因リ我輩ハ千八百二十六年以來ヨリ我圖ヲ始ム可シ、蓋シ此年以來ハ完全ノ報告ヲ得タレハナリ」即チ平均ノ數左ノ如シ

	各年死刑處斷	各年同執行	執行ハ處斷ノ百分ノ
從千八百二十六年至千八百三十年	一一一	七二六	五
從千八百三十一年至千八百五十年	五一	三二六	三
從千八百五十一年至千八百六十年	五〇	二一八	五六
從千八百六十一年至千八百六十五年	二二	一五	六八

茲ニ千八百七十年ノ事變前數年(千八百六十八年及ヒ六十九年)ノ結果ノミニ就テ論スレハ右ノ最終ノ平均ヨリモ尚ホ一層下リタルヲ見ルヿヲ得可シ、即チ處斷ハ一年間十五ニシテ執行ハ止タ八ニ下ルニ至リタリ、故ニ我輩ハ五十年間ニ於テ五分ノ一ヲ增加シタル人口ニ就キ十倍餘少ナキ死刑處斷及ヒ執行ノ數ニ到着シタルモノナリ(一)誰レカ謂フ、余輩ハ未來永劫、死刑ヲ廢止シ得ルノ期アルベカラズト(二)

(一) 此統計表ノ數及ヒ以下諸種ノ刑ニ係ル統計表ノ數ニ關シテハ千八百五十年ノ統計表ニ於テ一般ノ圖(ア)及ヒ(ベ)又千八百六十年ノ表ニ於テ一般ノ圖(ア)又各年ノ特別統計表ニ於テ圖第九號ヲ見ル可シ

(二) 不幸ニシテ近時ノ事變ハ死刑適用ノ悲シム可キ再發ヲ誘キ來シタリ、千八百七十二年ノ統計表ニ因レハ死刑處斷ハ三十一ニシテ其執行ハ二十四ナリトス

(一五二三) 大陸地外ニ於テ障壁ヲ以テ回繞セル一郭內ニ閉鎖スル流刑」這ハ千八百五十年六月八日ノ法ニ因リ國事重罪ニ係ル死刑ニ代ハラシムル爲メノ刑ナリトス、故ニ凡ソ

刑法ガ死刑ナリト規定セル總テノ場合ニ於テハ裁判官ハ犯罪ヲ國事ナリト判定スルヤ、之ニ換フルニ必ス此種ノ流刑ヲ以テセサル可ラス」 被刑者ハ流地ニ於テ、嘗テ法律ノ草按ノ記載セシカ如ク、一箇ノ城壁(シタデール)ノ中ニ閉鎖セラル、ニ非ス、單ニ障壁ヲ築キタル一郭內(アンサント、フォルチフィエー)ニ閉鎖セラル、モノトス、這ハ即チ委員組合ノ報告ニ從ヘハ被刑者ヲシテ使用セシメ且ツ運動スルヿヲ得セシムル所ノ地所ヲ含蓄スル廣闊ナル一部ヲ想像シタルモノナリ、此ノ如キ郭ノ建設場所ハ法律ニ因テ定メラル可ク被刑者ハ此ニ其身体ノ看守ト抵觸セサル總テノ自由ヲ有ス可キナリ、又被刑者ヲバ強迫ノ勞務ニ服セサル可シ、然レ𪜈被刑者ニシテ自ラ之ヲ請求スル片ハ規則ニ因テ定メラレタル勞務ノ方法ヲ與ヘラル可キナリ、又被刑者其固有ノ財源ヲ以テ衣食ノ費用ニ供スル能ハサル片ハ政府ヨリ此費用ヲ給ス可シ(千八百五十年ノ法第一條及ヒ第二條)(一)

(一)千八百五十年六月八日制定流刑ニ關スル法(第一條 憲法第五條ニ因テ死刑ノ廢止セラレタル總テノ場合ニ於テ、此刑ニ換フルニ共和國大陸地外ニ於テ法律ニ因テ定メラレタル障壁ヲ築キタル一郭內ニ閉鎖スル流刑ヲ以テス、」 被刑者ハ流地ニ於テ其身体ノ監守ヲ確實ニスル必要的ト抵觸セサル總テノ自由ヲ有ス可シ」 被刑者ハ行政規則ニ因テ定メラル、警察及ヒ監視ノ制度ニ服セシメラル可シ

第二條 法律ニ揭ケラレタル刑ハ一郭內ニ閉鎖スル流刑ナル片ニ當リ酌量減輕ノ申告アリタル場合ニ於テハ裁判官ハ單純ノ流刑若クハ禁獄ノ刑ヲ適用ス可シ、但刑法第八十六條第九十六條及ヒ第九十七條ニ記載セラレタル場合ニ於テハ止タ單純ノ流刑ヲ適用ス可シ

第三條 如何ナル場合ニ於テモ流刑ノ處斷ハ民事上ノ死(モールシヴィール)ヲ來サズ、止タ剝奪公權ノミヲ來ス」 之ニ加フルニ新タニ法律ヲ以テ無期刑ノ民事上ノ結果ニ就テ制規スル所ナキ以上ハ被刑者ハ刑法第二十九條及ヒ第三十一條ニ照シ禁治產ノ地位ニ在ル可シ」 然レ𪜈一郭內ニ閉鎖スル流刑ノ場合ヲ除クノ外被刑者ハ流刑ノ地ニ於テ民事上ノ權利ノ施行ヲ有ス可シ」 又政府ノ許可ヲ經テ其財產ノ餘部又ハ幾分ヲ下附セラルヽヲ得ヘシ」 此下附ヨリ出ル効果ヲ除クノ外流刑ノ場所ニ於テ被刑者ニ因テ行ハル、約束ハ其處刑ノ日ニ所有セシ財產ニモ又相續若クハ贈與ニ因リテ被刑者ニ來リタル財產ニモ關係ヲ及ホスヿヲ得サル可シ

第四條 本法第一條ノ實施ノ爲メアルキーズ嶋ヴァイトーノ谷間ヲ以テ流刑ノ場所ト定ム

第五條 刑法第十七條ノ執行ノ爲メマルキーズノ一嶋タルスーカヒヴァー嶋ヲ以テ流

刑ノ場所ト定ム

第六條　政府ハ被刑者勞務ヲ請求スルトキニ當リ之ニ授クル所ノ勞務ノ方法ヲ定ム可シ又政府ハ被流者其固有ノ財源ヲ以テ衣食ノ費用ニ應スル能ハサル者ニハ之ヲ給與ス可シ

第七條　流刑ノ爲メニ定メラレタル場所ヲ法律ニ因テ變更シタル場合ニ於テハ被流者ハ舊流刑ノ場所ヨリ新流刑ノ場所ニ移轉セラル可シ

第八條　本法ハ其頒布以後ニ犯セル重罪ニ非サレハ之ヲ適用セサル可シ

大平洋中(東大洋)マルキーズノ群嶋ハ其數十ニシテ當テ千八百四十二年ニ於テ海軍大將デユプティートゥーアールカ始メテ占據シ其土人ヲ佛良西ノ保護權下ニ置キタル所ニシテ、乃チ國事犯流刑ノ場所ニ最モ適當ナリト判セラレタリ、且ツ此群嶋ノ一タルタユター嶋中ニ於テウハイトーノ谷ト名ケラレタル一箇ノ谷間ハ其地盤、縱横凡ソ八百「エクタール」ニシテ其自然ノ形狀恰モ城壁ヲ爲シ僅カニ防禦ノ工事ヲ加フレハ堅固ナル一郭ヲ成スカ如クナルニ因リ、乃チ此谷間ハ千八百五十年ノ法(第四條)自ラニ因リ此ニ論スル所ノ流刑ノ場所ト定メラレタリ、然レ𪜈爾來流刑ニシテ少ナクモ此ヴハイトーノ谷ニ於テスル者ハ千八百五十年六月八日制定ノ法ノ管下ニアリテハ施行セラレサリシナリ

千八百七十一年ノ暴動ニ關聯シテ宣告セラレタル數多ノ流刑處斷ハ此刑ノ適用ニ全ク新タナル緊要程度ヲ與ヘ來リタリ、千八百七十二年三月二十三日制定ノ法ハ千八百五十年ノ法ノ一部分ヲ廢止シ國事犯流刑ニ關シヌーベル、カレドニーニ於テ二ツノ場所ヲ以テ流刑ノ地ト定メタリ、即チシユコノ半嶋ヲ以テ堅固ノ一郭ニ閉鎖スル流刑ノ地トシ(一)ペン嶋及ヒマレー嶋ヲ以テ單純ノ流刑ノ地トシ定メタリ、而シテ此ヌーベル、カレドニーノ一部分ハ下方ニ於テ我輩ノ之ヲ見ルカ如ク既ニ通常ノ嶋地ニ發遣セラル、者ノ住所ニ宛テラレシナリ、又此法ハ同時ニ堅固ノ一郭ニ閉鎖スル流刑ニ關スル行政規則トヌーベル、カレドニーニ於ケル總テノ被流者ノ制度ヲ規定スルニ係ル一法トヲ禀告セリ(二)

(一)　シユコ平嶋ノ選擇ハ甚タヌーメアーノ殖民地ニ接近スルヨリシテヌーメアー知事ハ書ヲ寄セテ大ニ之ヲ駁擊シタリ然ルニ爾來屢囚徒逃走ノ兇聞アリテ此駁議ヲ至當トスルカ如シ

(二)　千八百七十二年三月二十三日制定、流刑ノ新地ヲ定ムルニ關スル法律

(第一條　千八百五十年六月八日ノ法第一條第二項幷ヒニ第三項及ヒ第四條第五條ヲ廢止ス

第二條　スーベル、カレドニーノ半嶋シユコヲ以テ障壁ヲ築キタル一郭ニ閉鎖スル流

刑ノ場所ト定ム

第三條　スーベル、カレドニーノ附屬地ペン嶋ヲ以テ又其不充分ノ場合ニ於テハマレー嶋ヲ以テ刑法第十七條ノ執行ノ爲メ單純ノ流刑ノ場所ト定ム

第四條　障壁ヲ築キタル一郭ニ閉鎖スル流刑ニ處セラレタル者ハジユコ半嶋ニ於テ其身体ノ監守ト整齊ノ保持トヲ確實ニスルノ必要的ト抵觸セサル總テノ自由ヲ有ス可シ、又此被刑者ハ本法頒布ヨリ二箇月ノ期限間ニ希達セラル可キ行政規則ニ因テ定メラル、警察ト監視ノ制度ニ服セシメラル可シ」　此規則ハ被流者カ其半數ニ從ヒ半嶋ノ全部又ハ幾分中ニ通行スルヿヲ許可セラル可キノ條件幷ヒニ此ニ農事及ヒ工事ノ勞務ヲ取ルヿ又ハ部落ヲ爲シ若クハ親屬ト共ニ此ニ假リニ居住ヲ建設スルヿヲ許可セラル可キノ條件ヲ定ム可シ

第五條　單純ノ流刑ニ處セラレタル者ハペン嶋及ヒマレー嶋ニ於テ逃走ヲ妨ケ且安寧及ヒ整齊ヲ保護スル爲メニ避ク可ラサル豫防ヲ除クノ外他ニ前限セラル、所ナキ自由ヲ有ス可シ

第六條　被刑者ノ取扱、其服從ス可キ懲戒ノ管轄、混乱及ヒ逃走ヲ豫防スル爲メノ處分、島地又ハ大陸地ニ於テ土地ノ下附、此下附ヲ許可シ且ツ取消ス事ヲ得ルノ條件、幷ヒニ最終ニハ被流者ノ親屬ノ流刑ノ地ニ行クヿヲ得ルノ權利及ヒ此親屬カ改府ノ費用ヲ以テ運送セラレ得ヘキ條件ヲ規定スル所ノ法律ノ定按ハ本法頒布ヨリ二箇月間ニ政府ニ因テ議院ニ提出セラル可シ）

一郭内ニ閉鎖ス可キ流刑ニ處セラレタル者ヲシテ受ケシム可キ警察上ノ制度及ヒ監視ノ制度幷ヒニ此被刑者ニ對シテ爲スヿヲ得ル所ノ土地ノ下附ニ關スル行政規則ハ千八百七十二年五月三十一日ヲ以テ布達セラレタリ

又（最終ニハ）ヌーベル、カレドニーニ於テスル國事犯被流者ノ取扱ハ千八百七十三年三月二十五日ノ法ニ因テ制規セラレタリ、我輩ハ被刑者ノ身分ト其法律上ノ能力トノ目的ヨリ刑ヲ講說スル片ニ當リ此法ノ重モナル處分ヲ擧ク可シ、故ニ我輩ハ此ニ止タ此法ハ其第十五條ニ於テ嘗テ大審院ニ因テ希望セラレタル（數一五一九第二號）條件ヲ以テ與フル特別赦（グラース、コンシヨネール）ノ方法ヲ始メテ適用シタルヿヲ示ス可シ、即チ知事ニ與フルニ被刑者其善良ノ行狀ニ因テ知ラルヽヿヲ得タル者ニハ流刑ニ宛テラレタル土地外ニ居住スルヿヲ許可スルヿヲ得ルノ權ヲ以テシ、且ツ此許可ハ常ニ取消スヿヲ得ヘシト明言スル所ノ方法是ナリ

（一五二四）　流刑或ハ單純ノ流刑」　此刑ハ千八百十年ノ刑法ニ因リ死刑ニ該ラサル國事

犯重罪ニ關シテ特別ニ使用セラレ且此刑法第十七條ニ於テ元則トシテ左ノ文辭ヲ以テ制規セラレタル所ノ舊刑ナリ(流刑ハ佛良西大陸地外ニ於テ政府ニ因テ定メラル、所ノ場所ニ發遣セラレ且此ニ無期居住セシメラル、モノトス)ト」然ルニ此條ノ執行ノ爲メニ定メラレ且ツ宛テラレタル所ノ場所ナキヨリシテ此刑ハ千八百五十年マテ執行セラレサリキ、實際ニ於テハ政府ノ命令ニ因リ禁獄ヲ以テ之ニ換ヘタリシナリ、且ツ千八百三十二年ノ改正法ハ立法上ヨリシテ禁獄ノ刑ヲ創定シ流刑ノ場所ノ定メラレサル時限又ハ流地ト本國ノ間ニ交通ノ絶タル總テノ時限ノ間ハ右ノ代換ヲ以テ法律上ノ所爲ト認メタリ」千八百三十五年九月ノ一法ハ尙ホ一層嚴烈ノ度ヲ加ヘ來リタリキ、即チ裁判宣告書ニ因リ大陸地外ニ於テ此禁獄ヲ受ケシムルヿヲ明カニ命シ得ルヿヲ裁判官ニ許シタリ、然レモ此嚴ナル點ハ一度モ適用セラレタルヿナキニ因リ恐赫ノ者タルニ過キスシテ且ツ千八百五十年六月八日ノ流刑ニ關スル特別ノ法ニ因リ關接ニ廢止セラレタルモノトス(一)

(一) 刑法第十七條ノ正文ハ始メ千八百三十二年ノ改正法ニ因テ變換セラレ次キニ治罪法第三百四十一條第三百四十五條第三百四十七條及ヒ第三百五十二條幷ヒニ刑法第十七條ノ改正ニ關スル千八百三十五年九月九日ノ法第二條ニ因テ再ヒ變換セラル、所トナリテ今存スル所ノ正文ハ乃チ左ノ如シ

刑法第十七條(流刑ハ王國大陸地外ニ於テ法律ニ因テ定メラル、所ノ場所ニ發遣セラレ無期此ニ居住セシメラル、モノトス」若シ被流者王國ノ地內ニ歸來スル片ハ其同一人タルノ單獨ノ證憑ヲ以テ無期徒刑ニ處セラル可シ」被流者王國ノ地內ニ入ラスト雖モ佛良西軍隊ニ因テ佔據セラル、所ノ國ニ於テ補縛セラレタル者ハ其流刑ノ場所ニ送附セラル可シ」流刑ノ地ノ定設セラレサル限リハ被刑者ハ裁判官ノ其裁判宣告書ヲ以テ明カニ之ヲ定ムルニ從ヒ或ハ王國ノ獄舍又或ハ佛良西殖民地中ノ一ニ於テ法律ニ因テ定メラル、所ノ大陸地外ニ在ル獄舍ニ於テ終身禁獄ノ刑ヲ受ク可シ」若シ本國ト刑ノ執行ノ場所トノ間ニ交通ノ絶タル片ハ假リニ佛良西ニ於テ執行セラル可シ)

千八百四十八年三月六日ノ假衙門ノ布達ハ今我輩カ引用シ來リタル所ノ千八百三十五年九月九日ノ法ノ數多ノ處分ヲ廢止シタルモ尙ホ刑法第十七條ニ關スル處分ハ之ヲ存在セシメタリ、故ニ此條中ニ於テ廢止ニ屬シタル者ハ流刑ニ關スル千八百五十年ノ新法ト抵觸スル所ノ者ニ過キサルナリ

刑法中單純ノ流刑ヲ使用スル場合ハ左ノ如シ、第八十二條、第八十四條、第八十九條、第九十條、第九十一條、第九十四條、第百二十四條、第二百三條、第二百六條、第四百六十三

條」幷ヒニ陸海軍武器及ヒ軍備ノ物品ノ所藏ニ係ル千八百三十四年五月二十四日ノ法第五條第二項

今日ニ於テハ右千八百五十年六月八日ノ法ヲ以テ單純ノ流刑ノ地ト定メタルマルキーズ群島ノ一タルメーカイヴァー嶋ハ千八百七十二年三月二十三日ノ法ヲ以テ之ヲ廢シ更ラニスーベル、カレドニーノ屬地ペン嶋又其不充分ノ場合ニ於テハマレー嶋ヲ以テ單純ノ流刑ノ地ト定メタリ(第三條)(數一五二三參看)、又此法第五條ニ因レハ被刑者ハ流地ニ於テ逃走ヲ妨ケ及ヒ平安整齊ヲ保護スル爲メニ避ク可ラサル豫防ヲ除クノ外ハ他ニ制限セラルヽ所ナキ自由ヲ有スルモノトス、其被流者ノ民事上及經濟上ノ制度ニ係ル所ノ者ニ關シテハ我輩ハ後ニ千八百七十三年三月二十五日ノ法ヲ講說スルヰニ當リ之ヲ詳ラカニス可キナリ

故ニ千八百五十年以來、單純ノ流刑ハ一郭內ニ閉鎖スル流刑ノ如ク實際ニ執行セラレ得ルモノトス、然レモ交通ノ斷絕ヨリシテ此執行ヲ爲ス能ハサルニ至リタル片ハ常ニ刑法第十七條ノ未タ廢止セラレサル處分ニ戻ラサル可ラサルナリ、此刑ハ被流者ニ對シ逃走ヲ容易ニスルニ至リ得ヘキ寬縱ヲ與フルノ理由ニ因リテ我立法者ノ見ル所ニ因レハ此刑ハ總テ補助ノ一刑ヲ設ケテ執行ヲ遁レントスル者ヲ恐赫シ因テ以テ其効果ヲ保護スルノ必要アル所ノ諸刑ノ數中ニアリトス、此ニ於テ刑法第十七條ハ被流者ニシテ佛良西ニ歸來スル者ニ無期徒刑ヲ科ス」此無期徒刑ハ歸來シタル者ノ同一人タルノ單タル證據ニ就テ宣告セラレサル可ラス、故ニ人或ハ以爲ラク此刑ヲ科スルニハ治罪法第五百十八條以下ニ因テ制規セラレタル同一人タルノ認識ニ關スル訟訴手續ヲ要シ、從テ無効ノ結果ヲ附シテ(第五百十九條)捕縛セラレタル者ノ現在ヲ要スト、是レ大ニ其理由アリトス、故ニ此補助刑ノ適用ノ爲メニ闕席裁判ヲ與ヘシムルノ目的ヲ以テ公訴ヲ起スヲ得サルヘキナリ、若シ被流者ノ捕ニ就キタルハ佛良西ニ於テニ非スシテ佛良西軍隊ノ占據スル所ノ國ニアルヰハ止タ單ニ其流刑ノ地ニ送致セラル可シ、此處分ハ常ニ刑法第十七條中廢止セラレタル部分ニアラサルナリ」之ニ加フルニ千八百七十三年三月二十五日ノ法第三條ハ刑法第二百三十七條ヨリ二百四十三條ニ至ル諸條ニ記載シタル刑ヲ以テ被流者ノ逃走及ヒ逃走ノ着手ヲ罰ス、其周圍ノ障壁ヲ毀壞スルヿナク及ヒ暴行ヲ用ヒサルモ亦同シトス、又此法ハ再犯ノ場合ト被流者數人通謀シタル逃走ノ場合トニ於テ右ノ刑ヲ二倍ニスルヿヲ許セリ

千八百七十一年前ニアリテハ障壁ヲ築キタル一郭內ニ閉鎖スル流刑ノ適用アラサリキ、此ニ單純ノ流刑ニ係ル處斷ノ圖表ヲ見ヨ

流刑處斷

從千八百十六年〜……平均一年ノ數

至千八百三十年	一	一四
從千八百三十一年 至千八百五十年	三	五
從千八百五十年 至千八百六十年	二	九
從千八百六十一年 至千八百六十五年	二	〇、四
	三	二
		八

此種ノ刑ノ現ハレ來ルハ止タ革命ニ因リテ動搖シタル時限ニ過キサルモノトス、故ニ右ノ數ヲ種〻ノ年ニ分配スレハ千八百十六年ヨリ千八百十八年ニ至ルノ數年間ハ此數百十四ニシテ千八百三十一年ヨリ千八百三十三年ニ至ルノ間ハ二十三、又千八百四十八年及ヒ千八百四十九年ノ數ハ止タ十ナリトス、(一)千八百五十三年ニハ此處斷ノ數七ニシテ千八百五十五年ニハ二十、又千八百五十七年ニハ止タ一箇ニシテ千八百六十四年ニハ二箇ニ過キサリキ、

(一) 我輩ハ此ニ千八百四十八年ヨリ施行セラル、所ノ彼ノ同法權ノ關係ナクシテ只タ行政處分ヨリ出ル嶋地發遣ヲ擧ケタルニ非サルハ固ヨリ論ヲ待タサルナリ

千八百七十一年ノ事變ハ二種ノ流刑ノ適用ヲ頻繁ナラシメンニ因リテ被刑者ノ發遣所ヲ一層大ナル流地ニ定ムルヿヲ極メテ必要トナスニ至リタリ、我輩ノ既ニ話說セシカ如クヌーベル、カレドニーノ種〻ノ場所ヲ流地ト定メタルハ即チ此目的ヨリ出ルモノトス、千八百七十三年十二月三十一日ノ計算ニ因レハ此場所ニ五千二百二十四人ノ被流者アリタリキ(一)

(一) リヨン府ノ軍法會議所ニ因テ處斷セラレ發遣セラレタル諸人ナリトス

(一五二五) 無期徒刑及有期徒刑(譯者曰徒刑ハトラウラーフェルセエノ譯ナリ其直譯ヲトラウラーフェルセエ)ハ強迫勞役トス然レモ此刑ハ我刑法ノ徒刑ニ相通シ且徒刑ト譯スルハ略〻慣習トナリタルカ如キヲ以テ此譯語ヲ存ス(一)」 此二刑ハ其被刑者ノ身体ニ及フ執行上ニ關シテハ全ク同一ナリトス、止タ其異ナル所ハ期限ト之ヨリ出ル附加ノ結果トニアルノミ」 茲ニ此刑ノ本源ヲ尋ヌレハ古ノ所謂ルガレールト呼ヒタル刑ヨリ出タルモノナリ、昔者風帆行船ノ術未タ隆盛ニ至ラサリシ時ニアリテハ政府ノ航海ノ事務ハ概ネ艪械ニ因テ進行スルガレール(船艦)ヲ以テ之ヲ爲シタリシナリ、而シテ被刑者強壯ナル者ハ屢〻極メテ小ナル罪ノ爲メニ罰セラレタル者モ王ノガレール又ブニーズ若クハジェーヌノ如キ共和國ニ於テハ共和政府ノ

ガレールニ於テ艦ヲ推スノ役ヲ執リタリ、乃チ此服役ノ種類ヨリシテ刑ニガレールノ名アリヲ被刑者ニガレリアンノ名來リタリ、且ツ此時代ニ於テハ其處刑ノ標識トシテ被刑者ヲシテ一艦ヲ肩ニセシメ之ヲ市府ノ街衢ニ巡回セシメタリシナリ、又此被刑者ヲフォルサートモ呼ヒタリキ這ハフォルセエ(强迫)セラレテ役ニ服セシガ故ナリ、又開港場若クハ武庫ノ存在スル場所ニ於テ此被刑者ヲ元トベン(以太利語バーギヨ)(バンバーニギヨハ水浴場ヲ云フ)ノ用ニ供シタル舊キ船舶内ニ閉鎖シタルヿアリシヨリシテ遂ニ此被刑者ヲシテ刑ヲ受ケシムル總テノ建造物ニバーギユノ名ヲ遺スニ至リタリ、然ルニ風帆ヲ以テ次第ニ艦ニ換ヘ且ツ政府ノガレールハ消滅スルニ從テ彼ノガレリアンハ開港場又ハ武庫ノ存スル場所ニ於テ種〻ノ勞役ニ使用セラレ若クハ此開港場ノ用ニ供スル端船ニ於テ艦ヲ推スノ役ニ服セシメラレタリ」千七百九十一年ノ刑法ハ鐵鎖ノ刑(ペーヌ、デー、フェール)ト云フ新名稱ヲ以テガレール刑ノ舊名ニ換ヘ、且ツ被刑者ヲ服スル所ノ勞役ニ一般ノ性質ヲ與ヘタリキ

(二) 然レ𪜈實際上ニ於テモ又千七百九十二年十月六日ノ布達ノ實施ニ於テモ鐵鎖ノ刑ハ舊ガレール刑ノ如ク或ル開港場ニ於テ之ヲ執行セシナリ」千八百十年ノ刑法ハ又鐵鎖ノ刑名ヲ强迫勞役即チ徒刑ノ刑名ニ變更シタリ、而シテ其勞役ニ至テハ單ニ最モ艱難ナル(レー、プリユー、ペニーブル)トイフ熟語ヲ以テ之ヲ形容シ千七百九十一年ノ刑法ニ比スレハ細カニ勞役ノ種類ヲ明記セスト雖𪜈其一般ノ性質ハ之ヲ保存セシナリ(三)」最終ニ徒刑ノ執行ニ關スル千八百五十四年五月三十日ノ法ハ常ニ徒刑ノ稱呼ヲ保存シ外面ヨリ見レハ之カ執行ノ方法ヲ制規シタルニ過キスト雖𪜈、其實ハ此刑法ノ徒刑ニ換フルニ强迫勞役附隨ノ嶋地發遣ヲ以テシタリ、辞ヲ換ヘテ之ヲ言ヘバ、此法ハ嶋地發遣ヲ以テ徒刑ヲ執行スルモノトス(四)此發遣ニ供スル建設場ハ帝ノ布達ヲ以テアルゼリーヲ除クノ外他ノ佛良西殖民地中ノ一二所ニ創定セラル可シ、然レ𪜈差支アル場合ニ於テハ假リニ佛良西内地ニ於テ徒刑ヲ執行ス(千八百五十四年ノ法第一條)、被刑者ハ發遣地ニ於テ殖民事業ノ最モ艱難ナル勞役及ヒ其他總テノ公益ノ勞役ニ使用セラル可シ(第二條)、鐵丸又ハ被刑者ヲ二人ツツ速結スル鐵鎖ハ場合ニ從テ懲罰ノ名義又ハ監守ノ處分トシテニ非サレハ之ヲ科セサル可シ(第三條)、婦女ニモ此發遣ヲ受ケシムルヿヲ得ヘシ(第四條)、被發遣者其善良ノ行狀ト勞力ト改悛トニ因テ寛典ヲ受ケ得ヘキ地位ニアル者ハ勞役ノ制度ヲ寛ニセラルヽヿヲ得ヘク、且ツ行政處分ニ因テ定メラレタル條件ニ從ヒ殖民地ノ住民ノ爲メ又ハ地方行政官ノ爲メニ勞力スルヿヲ得ルノ許可ヲ受クルヿヲ得ヘク、或ハ其自己ノ利益ノ爲メニ耕作スルノ權利ヲ以テ假リニ土地ノ下附ヲ受クルヲ得ヘシ(第十一條)、放免ノ後ヲ殖民地ニ居住スル被免者ハ假定又ハ確定ノ方法ヲ以テ土地ノ下附ヲ受クルヿヲ得ヘシ(第十四條)逃走ノ場合ハ

刑ヲ以テ之ヲ防キ且ツ之ヲ罰ス、而シテ此刑ハ殖民地常開ノ車法會議ニ因テ科セラル可シ

（第七條ヨリ第十一條ニ至ル）（五）

（一）無期徒刑使用ノ場合ハ左ノ如シ、刑法第十七條、五十六條、百三十九條、百四十五條、百四十六條、百九十八條、二百三十一條、二百四十三條、三百四條、三百十條、三百十二條、三百十三條、三百十四條、三百十六條、三百三十三條、三百四十二條、三百四十四條、三百五十一條、三百八十一條、三百八十二條、三百八十三條、四百四條、四百三十四條、四百三十五條、四百六十三條、」有期徒刑使用ノ場合ハ左ノ如シ、刑法第五十六條、九十九條、百十八條、百三十三條、百三十四條、百四十條、百四十七條、百四十八條、百五十八條、百六十九條、百七十條、百七十三條、百九十八條、二百十條、二百四十條、二百四十三條、二百五十一條、二百五十三條、二百五十五條、二百五十六條、二百六十七條、三百五條、三百九條、三百十條、三百十二條、三百十七條、三百三十二條、三百三十三條、三百四十條、三百四十一條、三百五十一條ヨリ三百五十六條ニ至ル、三百六十一條、三百六十四條三百六十五條、三百八十二條、三百八十三條、三百八十四條、三百八十五條、四百條、四百二條、四百三條、四百四條、四百三十條四百三十四條ヨリ四百三十七條ニ至ル、四百四十條、四百四十二條、四百六十三條」其他種〻ノ特別法

（二）千七百九十一年ノ刑法第一編第一章第六條（鐵鎖ノ刑ニ處セラレタル被刑者ハ獄舍ノ內部ニ於テ又ハ開港場及ヒ武庫ニ於テ又ハ礦山採堀ノ爲メ又ハ濕地乾涸ノ爲メ又ハ其他府縣ノ請求ニ因リ立法官ニ因テ定メラル、所ノ難難ナル總テノ業務ノ爲メニ政府ノ利益トシテ强迫勞役ニ使用セラル可シ）

第七條（鐵鎖ノ刑ニ處セラレタル者ハ兩脚ノ一ニ鐵鎖ヲ以テ繫キタル鐵丸ヲ施ス可シ）

（三）千八百十年ノ刑法（第十五條　徒刑ニ處セラレタル男子ハ最モ難難ナル勞役ニ使用セラル可シ、此被刑者ヲ使用スル所ノ勞役ノ性ヨリシテ之ヲ妨ケサル時ハ其兩脚ニ一箇ノ鐵丸ヲ繫キ又ハ二人每ニ鎖ヲ用ヒテ聯接ス可シ）

（第十六條　徒刑ニ處セラレタル婦女ハ徒刑場內部ノミニ於テ勞役ニ使用セラル可シ）

（四）千八百五十四年五月三十日制定徒刑ノ執行ニ關スル法

（第一條　徒刑ハ向後アルゼリーヲ除クノ外、他ノ佛良西殖民地ノ一二ノ地所ニ於テ帝ノ布達ニ因テ創定セラル、所ノ徒刑場ニ於テ之ヲ受ケシム可シ、但被刑者運送ニ妨害アル場合ト此妨害ノ止ムニ至ルマテノ間ハ佛良西ニ於テ假リニ之ヲ受ケシム可シ

第二條　被刑者ハ殖民事業ノ最モ難難ナル勞役及ヒ其他ノ公益ノ勞役ニ使用セラル可

シ

第三條　懲罰ノ名義若クハ護衛ノ處分トシテ被刑二人毎ニ聯接シ又ハ鐵丸ヲ施スヿアル可シ

第四條　徒刑ニ處セラレタル婦女ハ殖民地ニ創設セラルヽ徒刑場ノ一ニ送致セラレ得ヘシ、但シ男子ト之ヲ別離シ且ツ其年齡ト其性（セックス）トニ相當スル勞役ニ使用ス可シ

第五條　無期及ヒ有期徒刑ハ何人ヲ論セス裁判ノ時ニ當リ滿六十歲以上ノ者ニ對シテ之ヲ宣告セス、此刑ハ其期限ニ從ヒ無期又ハ有期懲役ノ刑ヲ以テ之ニ換フ可シ」

刑法第七十二條ハ廢止セラル

第六條　凡テ八年ノ期限ヨリ少ナキ徒刑ニ處セラレタル者ハ其刑ノ終リタル後ヲ其刑ノ期限ニ等シキ時間殖民地ニ居住セシム」若シ刑期八年以上ナル時ハ終身同地ニ居住セシム

被放免者ハ殖民地知事ノ特別ノ許可ヲ得テ一時殖民地ヲ去ルヿヲ得ヘシ、如何ナル場合ニ於テ佛良西ニ來ルヿヲ許可セラルヽヿヲ得サル可シ

特赦ノ場合ニ於テハ被放免者ハ特赦狀中特別ノ記載アラサルヨリハ居住ノ義務ヲ免カルヽヿヲ得サル可シ

第七條　凡テ有期刑ニ處セラレタル者乘船以後逃走ノ罪ヲ犯シタル時ハ二年以上五年以下ノ徒刑ニ處セラル可シ

此刑ハ前ニ宣吉セラレタル刑ト混同セサル可シ

無期刑ニ處セラレタル者ニ對スル刑ハ二年以上五年以下ノ時間二重ノ鐵鎖ノ適用ナリトス

第八條　凡ソ被放免者本法第六條ニ背キ許可ナクシテ殖民地ヲ離レ又ハ許可ニ因テ定メラレタル期限ヲ超過シタル時ハ一年以上三年以下ノ徒刑ニ處セラル可シ

第九條　逃走シタル者又ハ第六條ノ處分ニ背キタル地位ニ在ル者ノ犯人タルノ認識ハ下條ニ示シタル裁判所、若クハ處刑ヲ宣告シタル所ノ重罪裁判所ニ因テ爲サヽル可シ

第十條　第七條及第八條ニ記載シタル罪及ヒ被刑者ニ固テ犯サルヽ凡テノ重罪又ハ輕罪ハ殖民地ニ設置セラルヽ特別ノ海上裁判所ニ因テ判決セラル可シ

此裁判所設置ニ至ルマテハ裁判ハ殖民地ノ第一軍法會議ニ屬ス此軍法會議ニハ海軍委員ノ官吏二人ヲ附屬セシム可シ

徒刑人ニ因テ犯サルヽ重罪輕罪及ヒ之ニ適用ス可キ刑ニ關スル法律ハ繼續シテ執行セラル可シ（第（五）註記ヲ參看ス可シ）

第十二條　被刑者男女共其善良ノ行狀ト其勞力ト其改悛トニ因リ寛典ヲ受クル可キ地位ニ至リタル者ハ左ノ件ヲ受クルヲ得ヘシ

第一、行政官署ニ因テ定メラレタル條件ニ從ヒ殖民地住民ノ爲メ又ハ地方官署ノ爲メニ勞力スルノ許可

第二、土地ノ讓與及ヒ自己ノ利益トシテ之ヲ耕作スルノ能力此讓與ハ被刑者放免ノ後ニ非サレハ確定トナルヿヲ得サル可シ

第十二條　政府ハ有期徒刑ニ處セラレタル者ニ對シ其禁治產ノ地位ニ由リテ剝奪セラレタル所ノ私權ノ施行又ハ此私權ノ幾分ノ施行ヲ殖民地ニ於テ許可スルヿヲ得可シ

政府ハ此被刑者ニ其財產ノ全部又ハ幾分ヲ使用シ又ハ處分スルヿヲ許可スルヿヲ得可シ

殖民地ニ於テ被刑者ニ因テ爲サル、條約ハ其放免ニ至ルマテ其處刑ノ日ニ有シタル財產又ハ相續贈與若クハ遺囑ニ因リテ來リタル財產ヲ抵當タラシムルヿヲ得ス、但シ許可ヲ得テ被刑者ニ渡サレタル財物ハ此限ニアラス

政府ハ被放免者ニ對シ刑法第三十四條第三項ニ因リ剝奪セラレタル權利ヲ殖民地ニ於テ施行スルヿヲ得ヘシ

第十三條　假リ又ハ確定ノ土地ノ讓與ハ刑ヲ受ケタル後ヲ殖民地ニ居住スル者ニ之ヲ爲スヿヲ得ヘシ

第十四條　行政規則ハ凡テ本法ノ執行ニ關スル所ノ者及ヒ特ニ左ノ件ヲ定ム可シ

第一　徒刑場懲罰例

第二　宣告セラレタル刑ノ期限ト被刑者善良ノ行狀ト其勞力ト其改悛トニ照シ被刑者又ハ被放免者ニ假リ又ハ確定ノ土地ノ讓與ヲ爲シ得ルニ係ル諸條件

第三　讓與セラレタル土地ニ關シ他人ト讓與ヲ受ケタル者ノ配偶者ニシテ之ニ後レテ生活シタル者ト之カ相續人トノ權利ノ廣狹

第十五條　本法ノ處分ハ第六條及ヒ第八條ニ記載シタル者ヲ除クノ外頒布以前ニ宣告セラレタル處斷及ヒ頒布以前ニ犯サレタル犯罪ニモ之ヲ適用スルモノトス）

（五）　此法律ノ第十條ハ特別ノ海上裁判所ヲ設置スルヿヲ記載セリ、然レ𪜈千八百五十八年六月四日及ヒ十五日海軍刑法頒布後幾何クモノナクシテ千八百五十八年六月二十一日及ヒ七月六日ニ至リ皇帝ノ布告ハ殖民地ニ於テ此刑法ヲ適用スルニ係ル行政規則ヲ定メ第二編殖民地ニ於テ軍法會議及ヒ再審會議ノ權限ト題シタル下ニ在テ左ノ言辭ヲ以テ制規シタリ、第十二條（左ニ記載シタル者ハ其犯シタル重罪及ヒ輕罪ニ關シ殖

民地常住ノ軍法會議ノ裁判ヲ受ケ可キモノトス

第一　如何ナル名義ニ依リタルニモセヨ、總テ佛良西殖民地發遣ヲ受ケタル者

第二　徒刑ニ處セラレ右殖民地ニ内ニ於テ其刑ヲ受ケサル可ラサル者

第三　此殖民地ニ居住セサル可ラサル義務アル被放免者及ヒ逃走シテ逮補セラレタル者

千八百五十五年八月二十九日ノ布告ノ處分ハ之ヲ保存ス又本條ヲ以テ之カ例外ヲ設キタルニ非ス」

（一五二六）　バーギユ監獄制ノ徒刑ハ久シク數多ノ點ニ就キ弊害アリトシテ指摘セラレ諸方ヨリ其廢絶ヲ請求セリ、抑モ此弊害ノ因テ來リタル所ハ開港場及ヒ武庫ニ於テスル勞役ノ特別ノ性質ヨリスルニ非ラス、又バーギユヲ管理スル所ノ海軍官署ヨリ來リタルニモ非ス普通人民ニ接近シ其視線内ニ於テ爲ス所ノ外部的勞役ヨリ成ル總テ刑ノ性質其物ニ起因スルモノトス（前數一四六五參看）、此徒刑ハ死刑ニ次キテ我刑ノ階級ノ最上ニアルモ其實際ハ懲役又ハ同期限ノ禁錮ノ刑ヨリモ寛ナルヿ甚シク破廉恥的兇行人ノ最モ畏レサル所ナリ、是ヲ以テ我中央獄舍ニ於テ此種ノ兇行人カバーキユニ移轉セラルルヿヲ得ルカ爲メニ徒刑ニ處セラレントスルノ明白ナル目的ヲ以テ故サラニ重罪ヲ犯シ時トシテハ看守人又ハ同囚ヲ故殺スルニ至リタルノ例ハ屢見ル所ナリトス」　又刑ノ性質其物ニ就テハ姑ク措テ論セスシテ止タ海事々務上ヨリ論スルモ此刑ハ尚ホ一般ニ海軍ノ官吏ニ因テ排斥セラレタリ、人常ニ此論ニ關シ大ニ權力アルモノトシテ此刑ノ利害ヲ判スルニ最モ適當ナル海軍官吏ノ一人ノ爲シタル千八百卅八年ノ報告書ヲ引用セリ則チ海軍省海港局長チユピニユー氏カ此件ニ關シ檢査ヲ命セラレテ爲シタル報告書是ナリ、故ニ我海港及ヒ武庫ニ於テハバーギユノ廢絶ハ一樣ニ希望セラルヽ所トナリタリシナリ

監獄改正ニ關スル千八百四十四年ノ法律ノ草案ニ從ヘハ徒刑ハ囚徒間不斷離隔ノ小房制度ヲ用ヒ徒刑獄舍（メーヅン、デー、トラボー、フヲルセー）ト名ツケラレタル獄舍ニ於テ之ヲ受ケシムノ方法ニシテ千八百四十七年ニ於テ上院委員ハ此獄舍ヲ佛良西ノ海岸又ハ佛國大陸地附屬ノ嶋嶼若クハアルゼリーニ建設セント發議シタリキ（前數一五一四參看）

千八百五十一年ニ至リ共和政府大統領ハ右バーギユ獄制ニ換フルニ徒刑人ヲ或ル遠隔ノ殖民地ニ發遣シ殖民事業及ヒ公益ノ爲メニ强迫勞役ニ就カシムルヿニ決定シ千八百五十一年二月二十一日ノ布達ヲ以テ任命セル委員ノ意見ニ因リラギュイヤーヌ、フランセーズヲ以テ之カ建設場ト定メ海軍省ハ之カ準備事業ニ任シテ甚タ迅速ニ且ツ完全ニ指揮督工セリ又此一箇ノ布達ヲ以テ既往ニ溯リテ此處分ヲ科スルニ非サルヲ示ス爲メニ徒刑人ヲシテ其同

意不同意ヲ表セシメシニ徒刑人中バーギ　獄舍ニ於テ開キタル記名薄ニ署名セルモ忽チ千餘ノ多キニ至レリ、蓋シバーギユハ既ニ兇行人ヲ恐赫スルニ足ラサルモノタリシカ此發遣ニ至リテハ被刑者ノ爲メニ將來ノ望ヲ開クヿアルヲ以テ猶ホ一層恐赫ノ勢力ヲ減殺セシコトナルベシ、翌千八百五十二年三月二十七日ノ布達ヲ以テ假リニ此發遣ノ徒刑人ニ施行スヘキ制度ヲ定メ、爾後四日ヲ經テ第一ノ護送船ハ徒刑人三百十一人ヲ搭載シテブレストヲ出帆シ五月十日ヲ以テ其目的ノ地ニ到着シ爾來陸續トシテ他ノ護送船ヲ發セリ、又殖民事業ハ直チニ處々ニ於テ着手奬勵セラレタリ、而シテ終ニ此試驗ハ立法上ヨリ之ヲ定ムルニ充分ナリト認メラレタルヨリシテ曩キニ我輩カ其正文ヲ擧ケ之カ辨明ヲ附シ來リタル所ノ千八百五十四年五月三十日ノ法ヲ制定スルニ至リタルナリ

（一五二七）　ラ、ギュイヤーヌ、フランセースハ我殖民所有地ノ最モ大ナル者ノ一ニシテ、其內部ノ幅員ハ未タ明カニ之ヲ知ル能ハスト雖モ、海岸ニ於テ百二十五リユー（一リユーハ四千四百四十四メートル半ナリ）ヲ含蓄シ、殆ンド一万八千リユー四方ニ評積セラル、故ニ全佛長西ノ平面ノ三分ノ二餘ニ當ル者ニシテ、殖民事業ニ關スル人心ヲ動カスニ足リ、亞米利加大陸ニ於テ我國ノ爲メニ一箇ノ盛美ナル殖民場ヲ建設スルノ希望ニ起サシムルニ適當ナルモノトス」此目的ヲ達スル爲メニ或ハ會社ニ因リ、或ハ政府ニヨリテ十八世紀ノ初年（千六百五年）ヨリ極メテ近時ニ至ルマテモ度〻着手ヲ試ミラレタリ、然レモ未タ決シテ善結果ヲ得タルモノナシ、其最モ哀ムヘキ着手ノ記念千七百六十三年自ラ好ンテ徵募ニ應シタル殖民一万二千人アリテ內一万人ハ僅カニ二年ヲ過キスシテ艱苦ヲ極メテ死ニ就キタルナリキ、又最モ近時ノ着手ハ殖民ノ數モ少ナク地所モ狹ク其結果モ鮮少ナル者ニシテ千八百二十四年ヨリ起リ千八百三十五年マテ繼續シタリ、之ヲ要スルニラ、ギュイヤーヌ、フランセーズノ全人口ハ最終ノ計算ニヨレハ一万三千二百ヲ超過セス、而シテ其白人種ニ係ル者ハ甚タ少ナシトス、又殖民地首府カエヤンヌ府ニハ控訴裁判所、始審裁判所各〻一個アリト雖モ其人口ハ五千ニ滿ス（一）其國ノ從來ノ住民タル土人ハ我建設場ノ近傍ニ散居シテ其數凡ソ七八百ナリトス、水草ヲ逐ヒテ走ル種族ハ已ニ國ノ內部ニ逐斥セラレタルニ由リ之ヲ知ルニ由ナク又其數モ甚タ僅少ナリ

（一）　千八百五十二年六月二十八日發行ノモニトール（新聞紙ノ名）ニ記載シタル報告ニ依ル

ラ、ギウエヤーヌニハ尙ホ他ノ悲ム可キ記念アリ、則チ共和曆十二月（フリユクチドール）十八日ノ遠謫、及ヒ國事犯被流者五百十六人（千七百九十七年及ヒ千七百九十八年ニ於テ）ノ記念ニシテ、是等ノ者ハ此遠謫ニ因リ初メカイヤンヌニ上陸セシメラレ、次キニシナマリー

及ヒアプルーアーグノ地方ニ分配セラレテ、大低配處ニ於テ死去シタリキ

（一五二八）又我今日ニ至リテ新タニ爲シタル經驗モ亦善良ノ結果ヲ奏セサリキ、是ニ於テラ、ギュイヤーヌノ氣候ノ健康ニ害アルヿ愈〻明カナルヨリシテ（一）千八百六十三年ニ至リ九月二日ノ布達ハ徒刑執行ノ場所ヲスーペル、カレドニーニ定メタリ、而シテ同地ニ發遣シタル第一ノ護送船ハ千八百六十四年五月九日ヲ以テスーメアーニ着シタリ、爾後千八百六十七年ヨリギュイヤーヌニ護送スル者ハアラビヤ人ト黑人種タル被刑者ニ過キサルナリ、然レ𪜈以前ニ護送シタル被發遣者ノ甚タ多キヨリシテ千八百七十一年十二月三十一日ノ計算ニヨレハ、放逐ノ刑ヲ受ケテ本國ニ歸來シタルカ爲メニ發遣セラレタル者ヲ合シテ尙ホ同處ニ製刑者三千七百八十八人アリ、內放免セラレテ同處ニ居住スルノ義務アル者千四百五十五人、（千八百五十四年ノ法第六條）、放免セラレテ自ラ居ル者二十六人、婦女三百十一人ニシテ結婚シタル者百五十一人、幼兒百四十八人ニシテ殖民地ニ生シタル者百二十一人ナリ」同年月即チ千八百七十一年十二月三十一日ニスーペル、カレドニーニハ現ニ刑ノ執行ヲ受クル被刑者二千七百三十五人、監視ニ附セラレタル被放免者二百七十四人アリタリ、婦女ハ結婚シタル者八人アリタリシカ千八百七十二年ニ婦女二十五人ノ到着アリタルヨリシテ少シク其數ヲ增加セリ」スーペル、カレドニーニ發遣セラル、被刑者ハ最初必ス〻ヌー嶋ノ監獄ニ於テ或ル時限內至嚴ノ監禁ヲ受クルモノトス（二）」又右ニ擧ケタル被刑者ノ數ハ總テ千八百七十二年三月二十三日及ヒ千八百七十三年三月二十五日ノ法ニ因テ同殖民地ノ他ノ場所ニ於テ受ケシムル流刑ノ外ニアリトス

（一）ラ、ギュイヤーヌトヌーペル、カレドニーノ氣候ヲ比較スルニハ左ノ數ヲ示スノ足ル所トス、ラ、ギュエヤーヌ殖民地ニ於テハ死亡ノ割合初メ百人ニ付キ二十二人ナリシカ今日ニ至リテハ百人ニ付キ四人、五七トナリタリ（這ハ森林ノ開拓ヲ放棄シタルニ因ル）、疾病ハ百人ニ付キ六人、九九ナリ、然ルニヌーペル、カレドニーニ於テハ死亡ノ割合百人ニ付キ一人、九九ニシテ疾病ハ三人、〇九ナリ」入費ハキュエヤーヌニ於テ各被刑者一年四百四十「フランク」ニシテヌーペル、カレドニーニ於テハ三百八十一「フランク」四十八「サンチーム」ナリ然レ𪜈運送ノ費用ハギウェヤーヌヨリ大ニ多シ同處ハ四百「フランク」ニシテヌーペル、カレドニーハ九百「フランク」ナリ

（二）不改悛ノ徒刑人モ亦之ヲヌー島ノ監獄ニ拘禁シ同處ニ於テ至嚴ニバーキユノ制度ヲ受ケシムルモノトス（發遣ノ制度ヲ知ラントセハ千八百七十四年海軍卿ニ因テ著述セラレタル「千八百六十八年、千八百六十九年及ヒ千八百七十年ニ於テラ、キュエヤーヌフランセーズ及ヒヌーペル、カレドニー發遣ニ關スル吉示」ト題スル書ヲ參看ス可

シ）

（一九二九）刑事統計表ニハ徒刑處所ノ數ヲ示ス爲メニ左ノ表ヲ擧ケタリ

	無期徒刑一年 平均ノ數	有期徒刑一年 平均ノ數	總計
從千八百十六年 至千八百三十年	三四四	一、六一九	一、九六三
從千八百三十一年 至千八百五十年	一八六	八七五	一、〇六一
從千八百五十一年 至千八百六十年	二一五	一、〇六〇	一、二八四
從千八百六十一年 至千八百六十五年	一四六	七六五	八三一

故ニ徒刑モ亦總テノ他ノ非國事犯ノ刑ノ如ク著シク減少ニ趣キタルナリ

此徒刑ノ處斷ノ數ノ如何ニ由リテ此刑ヲ執行スル場所ニ人口ノ加減ヲ來タス、即チ此場所ニ在ル被刑者ノ現數ニ加減ヲ來スモノトス、而シテ此現數ハ千八百六十二年ノ終リニ於テ婦女及ヒ老年者ノ其刑ヲ他所ニ於テ受クル者ヲ算入セスシテ（一）被刑者凡ソ六千八百人ナリシカ千八百七十年十二月三十一日ノ計算ニ依レハ此現數ハ五千六百六十一人ニ過キサルニ至リタリ、而シテ內三千二百二十一人ハラ、ギュエヤースニ在ル者ニシテ二千四百四十人ハヌーベル、カレドニーニ在ル者ニ係レリ

（一）現時ニアリテハ千八百五十四年五月三十日ノ法律第四條ニ照シ婦女ヲモ發遣ニ附スルヿヲ得ルモノトス、（前數一五二五註記第四參看）且ツ之ニ加フルニ中央監獄ニ拘禁セラル、婦女自ラヌーベル、カレドニーニ發遣セラレント請フ片ハ之ヲ許スニ至レリ、然ルニ此ニ擧ケタル千八百七十年ノ現數ニハ徒刑ニ處セラレタル男子ノミヲ計算セシナリ

（一五三〇）禁獄（デタンション）此刑ハ我處罰方法中ニ千八百三十二年ノ改正ノ法ニ因テ入レラレ、特別ニ國事犯責罰ニ該テラル、所ノ刑ニシテ（一）改正刑法第二十條ハ左ノ言辭ヲ以テ之カ定解ヲ與ヘタリ（凡ソ禁獄ニ處セラレタル者ハ王國大陸地內ニアル城塞ノ一中ニ幽閉セラル可シ、此城塞ハ行政規則ノ格式ヲ以テ發スル王ノ布達ヲ以テ之ヲ定ム可シ

此被刑者ハ王ノ布達ニ因テ定メラレタル警察ノ規則ニ照シ禁獄場ノ内部ニ置カレタル人又ハ外部ノ人ト交通ス可シ

禁獄ハ第三十三條ニ記載シタル場合ヲ除クノ外五年ヨリ小ナク又二十年ヨリ多ク宣告セラル、コトヲ得ス)

(一) 刑法中此刑施用ノ場合左ノ如シ、第三十三條、五十六條、七十一條、七十八條、八十一條、八十九條、九十條、九十一條、二百條、二百五條、四百六十三條

此刑ヲ受ケシムル場所ハ次第ニ變シテ初メハドウランノ城塞、ベル、イスル、アン、メールノ城塞ニシテ、次ニハコルスノコルトノ城塞トナリ、今日ニ至テハ千八百七十四年一月十六日ノ布達ニ因リアルプ、マリチーム縣内セント、マルクリツト嶋ノ城塞ヲ以テ此刑ノ執行場ト定メタリ、又今日ニアリテハ刑法ニ所謂ル交通ヲ制規スル所ノモノハ千八百七十二年五月二十五日ノ布達ナリトス

此刑ハ其創定以來二十九年間、即チ千八百三十二年ヨリ千八百六十年ニ至ルマテ、之ヲ宣告シタル一百七十四回ニ過キス、故ニ其數一ケ年ノ平均ハ六回ニ當レリ、但シ此刑ノ處斷ハ總テ國事犯ニ對スル性質ヲ有スル刑ノ處斷ノ如ク之ヲ諸年ニ分配スレハ各一年ニ於ケル數甚ク不平均ナリトス、而シテ其統計表ハ乃チ左ノ如シ

	禁獄處斷	一年平均
從千八百三十二年 至千八百五十年	一三七	七
從千八百五十一年 至千八百六十年	三七	四

右諸年ノ中ニ就テ最モ多ク此處斷ヲ來シタル年ハ政事上ノ變動アリタル年ナリ、」千八百三十二年及ヒ千八百三十三年ハ両年マテ六十八」千八百四十一年ハ十一」千八百四十八年及ヒ千八百四十九年ハ両年合シテ四十五」千八百五十五年ハ二十一」此千八百五十五年以來千八百七十一年ニ至ルマテ一回モ禁獄ヲ宣告シタルコトナカリキ然ルニ千八百七十一年以來國事犯ノ處斷甚タ多キヲ加ヘタルニ因リテ大ニ此刑ノ適用ヲ再ヒ多カラシムルニ至リタリ

(一五三一) 懲役(原語レクリユシヨン釋者曰レクリユシヨンノ本字義ハ閉鎖又ハ拘禁ナリ、而シテ之ヲ佛刑法ノ定解ニ照セハ獄舍ニ拘禁シ役ニ服スルノ刑ト譯スルヲ至當トス然レ𪜈斯ク譯スル片ハ譯語長キニ失スルノ弊アリ且此刑ハ我刑法ノ懲役ニ通スルヲ以テ之ヲ

懲役ト譯ス)(一)此刑ハ刑法第二十一條ニ因リ左ノ如ク組織セラル(凡ソ男女懲役ノ刑ニ處セラレタル者ハ懲役獄舍(メーゾン、ド、フォルス)ニ拘禁セラレ勞役ニ使用セラル、其勞役ヨリ生シタル物件ハ政府ニ因テ制定セラルル所ニ循ヒ其幾分ヲ被刑者ニ給與スルヿヲ得此刑ノ期限ハ五年以上十年以下ト爲ス)

(一) 刑法中此刑ヲ施用スル場合ハ左ノ如シ、第七十一條、百四十一條、百四十二條、百五十條、百五十一條、百五十六條、百五十八條、百七十四條、百八十一條、百八十八條、百八十九條、百九十八條、二百十條、二百十一條、二百三十一條、二百三十二條、二百三十九條、二百四十一條、二百五十一條、二百五十五條、二百六十八條、二百七十九條、三百九條、三百十二條、三百十七條、三百三十一條、三百三十二條、三百四十五條、三百五十一條、三百五十四條、三百六十二條、三百六十三條、三百六十四條、三百六十五條、三百八十三條、三百八十六條、三百八十七條、三百八十九條、三百九十九條、四百八條、四百十八條、四百三十條、四百三十一條、四百三十四條、四百三十七條、四百三十九條、四百四十一條、四百六十三條、

(一五三二) 刑法ノ正文ニ因レハ懲役ノ刑ハ特別ニ其用ニ供シタル懲役獄舍(メーゾン、ド、フォルス)ト呼ハルヽ所ノ獄ニ於テ之ヲ受ケシメサル可ラス、又懲治ノ禁錮ハ懲治獄舍(メーゾン、ド、コレクシヨン)ト名ツケタル同ク特別ノ獄ニ於テ之ヲ受ケシメサル可ラサルカ如シ、(刑法第四十條)、然レ𪜈既ニ千八百十年ノ刑法頒布前ニアリテ千八百八年六月十六日ノ布達ハ佛良西全國中各地方ニ於テ割合ヲ立テ若干ノ中央監獄舍(メーゾン、サントラール、ド、デタンシヨン)ヲ創設スルヿヲ命シタリ、而シテ此中央監獄舍ハ其內部ニ於テ適當ノ區域ヲ定メ其一部ニハ各中央獄ノ附屬スル縣ノ重罪裁判所ニ因テ處斷セラレタル者ハ拘禁シ他ノ一部ニハ同縣ニ於テ輕罪裁判所ニ因リ一年以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ヲ閉鎖ス可キ者タリ(布達ノ第一條及ヒ第二條)、又千八百十七年四月二日ノ布達ハ少ナクトモ名義上ダケハ刑法ノ正文ト一致スル爲メ當時既ニ設置セラレタリシ十六ノ中央監獄舍ヲ左ノ如ク制定スルヿヲ公布セリ、第一ニハ懲役獄舍トス(メーゾン、ド、フォルス)這ハ懲役ニ處セラレタル者及ヒ刑法第十六條第二十一條ニ照シ徒刑ニ處セラレタル婦女ヲ拘禁スル爲メナリ、第二ニハ懲治獄舍トス(メーゾン、ド、コレクシヨン)這ハ經罪裁判所ニ於テ一年以上ノ禁錮ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル爲メナリ、而シテ此二種ノ被刑者ハ全ク別離シタル場所ニ之ヲ拘禁スルモノトス(布達第一條及ヒ第二條)(一)」 尙ホ此中央監獄舍ニ入ル可キ者ノ中ニ左ノ被刑者ヲ加ヘサル可ラス、即チ徒刑ニ處セラレ其年齡ノ理由ヨリシテ其刑ヲ懲役獄舍ニ於テ受ク可キ者(這ハ刑法第七十條七十一條及ヒ七十二條ト千八百五十四年五月

三十日ノ新法第五條トヲ照合シテ得ル所ノ結果ナリ)又(最終ニハ)輕罪裁判所ニ因テ宣告セラレタル所ノ中央監獄舍ニ於テ受ケシムル禁錮ニシテ再犯ニ關スル刑法ノ第五十八條ト相ヒ通セシムル爲メ千八百三十年六月六日ノ布達ハ前布達ニ於テ一年以上ノ禁錮ニ處セラレタル者ヲ中央監獄舍ニ入ルト云フヲ改メ一年ヨリ多キ禁錮ニ處セラレタル者ト爲シタリ故ニ一箇年一箇日ノ禁錮ニ處セラレタル者ヨリ此限界中ニ入ルモノトス

(一) 此混同ハ、大審院ニ於テ之ヲ認メタルカ如ク、法律ニ背キタルモノトス(前數一五一九第二號參看)、然レ𪜈實際ニ於テハドーソン、ヴィール氏カ之ヲ證シタルカ如ク輕罪裁判所ニ因テ處斷セラレタル者ハ懲役ノ刑ニ處セラレタル者ヨリ其良心ノ敗壞一層甚シトス

中央監獄舍ノ用法ハ此ノ如シ、而シテ行政官ハ當時ノ需用ニ應スル爲メ及ヒ其事務ノ改良ヲ滿足スル爲メ次第ニ此獄舍ヲ增加シ今日ニアリテハ二十四箇所ノ多キニ至リタリ、又數年來追求シタル目的即チ男囚女囚ノ區別ヲ獄舍內ノ區域ニ因テ爲ス不充分ナル別離ヲ廢絕シ各々特別ノ建造物ヲ以テ根本ヨリ之ヲ別離スルノ目的ヲ達スルニ至リタリ、現時ニアリテハ二十四中央監獄舍ノ內其十七ハ男囚其七箇ハ女囚ニ宛テラル、又行政官ハ徒刑ニ處セラレタル六十歲以上ノ老年囚ニ對シ特別ノ一獄即チベル、イスル、アン、メールノ獄ヲ以テ之カ刑ノ執行場ト定メタリ、我刑法ノ正文ニヨレハ徒刑ノ囚此年齡ニ達シタル片ハ其刑ヲ懲役獄舍ニ於テ受ケシメサル可カラス又我殖民地ヨリ歸來セシメタル此老年囚ヲ他ノ懲役囚ト區別セサル可カラサレハナリ、(二)最終ニハ尙ホ他ノ極メテ必要ナル別離ノ爲ス可キアリテ行政官ハ此點ニ其目的ヲ傾クルニ至リタリ、即チ幼年被刑者ト壯年被刑者トヲ別離スルヿ是ナリ、我刑法ハ幼年者滿十六歲ヨリ丁年者ト同刑ヲ科ス故ニ法律上ヨリシテ此二種ノ被刑者ハ同一ノ獄舍ニ混同セシム可キ者タリ、而シテ實際ハ果シテ此ノ如シ、中央獄舍ノ統計表ハ同處ニ拘禁セラルル被刑者ヲ年齡ニ因テ區別シ、其十六歲以上二十歲ニ過キサル者極メテ多キヿヲ示セリ(千八百七十年ノ表ニ依レハ千二百十人內婦女三百五十四人)、然シテ行政官カ中央獄舍內ニ於テ、特ニ幼年者ニ宛テタル特別ノ場所ヲ以テ他囚ト別離スルヿヲ始メタルハ即チ右十六歲以上二十歲以下ノ幼年者ナリトス、而シテ此場所ニ於テハ敎育敎學及ヒ職業上ノ敎育ニ殊ニ注意スルモノトス(二)我輩ハ法理ヨリシテ二十一歲ノ限界ヲ以テ法律上ノ幼年ノ限界ト爲サンヿヲ希望ス(前數二六七及ヒ二六八參看)然レ𪜈十年一程ノ算法ハ統計表及ヒ行政上大ニ勢力ヲ有スルモノナリ」之ニ加フルニ千八百六十五年以來行政官ハ試驗ノ名義ヲ以テ數多ノ中央獄ニ於テ今日ニ至リテハ乃チ十個ノ獄ニ於テ改良(アマンドマン)及ヒ豫防(プレゼルバシヨン)ノ區ヲ組織シタリ、這ハ獄舍中ノ判決所

コ於テ公然ニ與ヘタル決議ニ因リ被刑者中ノ特ニ善良ノ感覺ヲ有シ善ニ復歸シ得ヘキ明カナル資格ナリト認メラレタル者ヲ入ル、所ナリトス、又之ニ反シテ他ノ中央獄舍十ケ所ニ於テハ囚徒中其良心ノ敗壞恰モ痼疾ノ有樣トナリタル者ヲ他ノ被刑者ヨリ別離スル爲メニ小房監禁ノ區域ヲ具備セリ

（一）男囚中央獄舍ハ左ノ地ニアリ、アンスニー、アニアーヌ、ボーリユー、ベル、イール、アン、メール、カザビアンダー、カステリユクシヲ、コルスノシアウハリー、クレールボー、エイス、フォントブロール、ガイヨン、リモーヂユ、ロヲース、ムラン、ニーム、ポッツシー、リヲーム、又女囚中央監獄舍ノ存在スル地左ノ如シ「ーブリーブ、カヂヤック、クレールモン（ヲワース）、ドーラン、モンヘリエー、レンヌ、ウワンス」　這ハ概ネ所有權ノ移轉ヲ禁シタル國有不動產ニシテ元ト宗教ノ用ニ供シ又ハ民事若クハ軍事ノ用ニ供シタル建造物ヲ獄舍ニ轉用シタル者ナリ、其特別ノ造築ニ係ル者ハ極メテ少數ナリトス、コルスニ於ケルシアウハリーノ獄舍ハ特別ノ性質ヲ有ス即チ農事監獄ノ性質是ナリ、又ベル、イール、アン、メールノ中央獄舍ハ特ニ徒刑囚滿六十歳以上ノ者ヲ拘禁スル所トス

內務卿ノ管轄ニ屬スル刑ノ執行ニ係ル總テノ事件及ヒ此執行ノ用ニ供スル獄舍ニ關シテ參看ス可キ書類ハ獄舍及ヒ懲治檻ノ統計表ナリ、此統計表ハ千八百五十二年以來年々公布セラルヽ者ニシテ概不獄舍及ヒ懲治檻支配長官ヨリ內務卿ニ提出シタル報告書又時トシテハ內務卿ノ報告書ヲ其首端ニ置クモノトス、我輩ハ支配長官ノ好意ニ因テ之ヲ得タリ

（二）千八百五十九年ノ統計表中首端　置カレタル報告書第十六丁ヲ參看ス可シ

（一五三三）刑法ハ懲役ノ刑ニ固有タル可キ取扱ノ制度ニ關シテハ被刑者ヲ勞役ニ使用スト云ヒタルノミニシテ別ニ毫モ規定スル所ナシ、又此勞役ヨリ生スル所ノ利益ハ其幾分ヲモ被刑者ニ必然給與スルノ要ナシ、此利益ノ一部分ヲ給與スルヿハ政府ニ因テ定メラルヽ所ノ規則ニ從フ可キモノニシテ全ク政府ノ隨意ニ任セリ（刑法第二十一條）、或ハ云フ、既ニ千八百五十四年ニ於テ徒刑ノ執行ニ關スル法律ヲ定メタルカ如ク此刑ノ執行方法ヲ法律上ヨリ組織スルカ爲メ其草按ハ千八百六十年ヨリ講究ニ付セラレタリト、今日ニ至リテハ此點ハ千八百七十二年ニ命セラレタル改正委員ノ管掌中ニ入ルモノトス（前數一五一六參看）法律上ノ處分ノ存セサルニ由リテ中央獄舍ノ制度ハ、命令ニ因リ布達ニ因リ又ハ內務省ノ決議若クハ回達ニ因リテ制規セラレタリ、此制度ニ關シテハ中央行政權ヨリ間斷ナク數年來保持方法、賞罰例、勞役及ヒ悔悟改悛方法ノ漸次ノ改良ヲ誘致センコトヲ勉メ方法一且定

マリダルトキハ此方法ヲシテ因テ希望シ得タル所ノ最モ善良ノ結果ヲ生セシメント盡力シタリ、然レトモ不幸ニシテ此結果ハ甚タ不完全ノモノタルニ過キサルナリ

茲ニ採用セラレタル方法ハ未タ夜間ノ小房監禁ノ方法ニスラ至ル能ハス、然レトモ中央獄舍ノ二三ニ於テ小房寢室ノ近時ノ築造ハ一部分丈ケ夜間幽居ノ善法ヲ誘致スルニ至リタリ、晝間ニアリテハ勞役及ヒ總テノ運動ハ沈默ノ規則ヲ附シテ衆囚共ニ之ヲ爲サシム、此運動ノ中ニ就テ散歩ハ各〻半時間ツヽ日ニ二回ニシテ列ヲ立テ沈默ノ法ヲ守リテ監守者ノ目前ニ旋轉シ圓形ニ方形或ハ長圓形ニ檻ノ障壁内ニ於テ之ヲ爲サシム、此沈默ノ規則ニ違背タルカ爲メノ懲罰ノ數ハ(千八百六十年ノ一年間三万六千九百五十七)止タ此懲罰ノミニシテ總テノ他ノ規則違背ヲ合シタル者(三万六千六百二十七)ヲ超過スルニ至レリ因テ以テ斯ク ノ如キ規則ヲ遵奉セシムルヿハ如何ニ困難ナルカヲ示スニ足ル、然レトモ不斷離隔ノ善法ナキ以上ハ沈默ヲ要求スルヿハ少ナクモ一部分丈ケ囚徒相互ヒニ敗壞スルヲ防ク爲メニ行ハサル可ラサルノ事ナリトス、監獄官署ハ既ニ此ニ着手セリ、然ル以上ハ監獄則ノ此部分ノ執行ハ監守者ヲシテ嚴格ニ注意セシムルニアリトス、唯タ不幸ニモ既ニ前ニ云フカ如ク此注意ノ効ヲ奏スルヿ極メテ僅少ナリ(一)

(一) 千八百六十年ノ獄舍及ヒ懲治檻統計表ニ就テ第三十八丁監獄則違背及ヒ懲罰ニ關スル表圖幷ヒニ此統計表ノ首端ニアル報告書第二十八丁ヲ參看ス可シ、又之ヲ千八百七十年ノ統計表第六十二丁第六十五丁ト比較ス可シ

中央獄舍ノ監獄則ヲ制規シタル者ハ千八百三十九年五月十日ノ内務省議決ナリトス、此議決ハ沈默ノ規則ノ外ニ尙ホ金錢ノ所持、煙草、葡萄酒、燒酎其他總テ「アルコール」質ノ物ノ受用ヲ禁シ勞役ノ勉强ヲ命シ且ツ懲罰ノ例ヲ定タリ

中央獄舍飲食物ノ給與ハ千八百三十年ニ於テ制定セル明細調書ニ因テ規定セラル、乃チ一人毎ニ麵包(粗麥三分ノ一、良麥三分ノ二ヲ以テ作リタル者)七百五十「グラーム」、白麵包九十「グラーム」ヲ含蓄シタル「ソップ」一「リートル」、野菜及ヒ日曜日毎ニ肉百五十「グラーム」、之ヲ以テ一日ノ料トス(一)又囚徒ハ其所持金ヲ以テ補裨ノ食物ヲ用フルヿヲ得、乃チ此食物ハ麵包、野菜及ヒ乳汁ニ限リ且一日金十五「サンチーム」ヨリ多キニ至ルヿヲ得ス、若シ囚徒補裨ノ食物ヲ用フルノ必要アリテ其所持金ヲ以テ自ラ得ル能ハサル時ハ無代價ニテ之ヲ給與ス、

(一) 英吉利ノ獄舍ノ飲食物ハ尙ホ之ヨリ滋養物多シトス、然レトモ是等ノ件ヲ定ムルニハ國ノ平生ノ慣習ニ因ラサル可ラス

教學ハ皆ナ初歩ノモノニシテ讀書、習字、佛良西語學大意、又時トシテハ暗計圖學ノ初歩ナ

リトス、又道德上ノ敎育及ヒ宗敎上ノ敎誨幷ヒニ奉務アリ、皆ナ是等ノモノハ獄舍中特別ノ奬勵ニ係ル件タリ、官署ハ被刑者ヲ其宗旨ニ從テ班次シ悉皆各宗旨ノ式ニ加ハラシムルヿヲカム(一)又男囚及ヒ女囚ノ各中央獄舍ニ附屬シタル牧師ノ外ニ此女囚ノ獄ニ於テハ監察、病室、學校及ヒ勞役ノ事務ニ任スル者ハ必ス女僧ナリトス、又此女僧ハ道德敎ニモ干與シ且ツ牧師ト同ク懲罰ノ宣告ニモ與カル

(一) 然レモドウソンヴァール氏ガ其監獄改良ノ發議ノ說明書中ニ云フ所ニ依レハ左、

ノ悲愛ス可キ事件ノアルアリ、乃チ數多ノ中央獄舍ニ於テハ新敎宗旨ノ者ハ其宗旨ノ僧官ノ無形的ノ扶助ヲ受クルヿヲ得ズトイヘリ

我刑法ノ正文ニ於テ懲役ノ囚徒ヲシテ爲サシメサル可ラサル勞役ハ、乃チ季節ニ從ヒ、每日十時間乃至十二時間、囚徒ヲシテ之ニ就カシムルノ方法ヲ以テ初メヨリ勞務ノ程度ヲ計リ之ヲ配付ス、然シテ此勞役ハ舊時ヨリ受負工業(アントルプリーズ、ゼネラール)ノ方法ヲ以テ組織セラレタリ、辞ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ、即チ理財ノ目的ヨリシテ被刑者ヲ使用スルノ意ヲ以テ組織セラレタリ、這ハ是レ刑法學ノ點ヨリ論スレハ大ニ弊害アルノ方法ナリトス(前數一四七〇參看)、然ルニ千八百四十二年ニ於テ官署ハ右ノ方法ニ換フルニ政府自ラ其官吏ヲシテ勞役ヲ支配セシムルノ方法ヲ取ルヿヲ始メタリ、而シテ此當時ニ於テ公布セラレタル報告書幷ヒニ計算ニ依レハ理財上利益ノ點ヨリスルモ前方法ヨリ生スル結果ト比較シテ大ニ好結果ヲ得タルヿヲ知ルベシ從テ此方法ハ次第ニ其勢力ヲ得テ中央獄舍ノ之ヲ採用スル者漸次增加シテ十三ノ多キニ至リ千八百五十二年ニ於テハ尙ホ受負工業ノ方法ニテ存スル者ハ僅カニ八箇ニ過キサルニ至リタリキ、然レモ爾來又新タナル變動ヲ起シ來リ、復タ此方法ヲ棄却スルニ傾向シ、即チ受負工業ノ方法ハ回復セラレテ政府自カラ其官吏ヲシテ勞役ヲ支配セシムルノ方法ハ之ニ其地位ヲ讓ラサルヲ得サルニ至リテ、千八百五十五年ニ於テハ中央獄舍ノ尙ホ此法方ヲ取ル者ハ僅カニ六箇ニシテ殆ント例外タルカ如キニ至リタリ(一)、本來該事件ヲ經濟上即チ工業上ノ產物及ヒ理財ノ目的ヨリ論スレハ能ク規律セラレタル受負工業方法ハ其効果ニ於テ入額上ニ最モ大ナル利益ヲ與フルモノトス、這ハ止タ理ヲ推シテ其然ルヲ知ルニ足ル可シ(前數一四六四參看)然ルニ今ハ則チ實驗上ヨリ之ヲ證スルニ至レリ、然レモ刑罰ノ論點モ亦他ノ極メテ高キ緊要程度ニ位スルモノナリ故ニ刑ノ目的ヲ誤ラサルカ爲メ即チ此點ニ關シ受負工業方法ニ固有ナル弊害ヲ補フ爲メニハ最モ嚴正ニ注意ノ極メテ確實ニ豫防シ間斷ナク監督ヲ爲サヽル可ラス、且ツ官署ハ勞役ニ關シテモ被刑者ノ取扱ニ關シテノ如ク、常ニ大ナル威權ヲ有セサル可ラス、我輩ハ此件ニ就テハ既ニ前數四百七十ノ項(一四七〇)ニ於テ曲サニ之ヲ辨シタルヲ以テ茲ニ贅セス

（一）獄舍及ヒ懲治建造物統計表ニ就テ千八百五十二年ノ部第八丁及ヒ九丁又千八百六十五年ノ部第九丁及ヒ第十丁ヲ參看ス可シ又ドウソンビール氏ノ報告中ニ就テ受負工業ノ方法ニ關シテ與ヘラレタル可否ノ說明ヲ看ル可シ

監獄官署ニ於テハ嚮キニ中央獄舍ニ於テ廢業セラレタリシ勞役ヲ再ヒ設クルカ爲メ千八百五十二年以來之カ調査ニ黽勉スル所アリシカ我輩カ右ニイヒ來リシ變動ハ則チ此際ニ生シ來リタル所ノモノナリ、嘗テ千八百四十八年ノ假政府ハ獄舍ノ勞役ヨリ生スル產物ハ平常職工ノ物產ト競爭スルノ弊害ヲ生シタリトシテ三月二十四日ノ布達ヲ以テ獄舍ノ勞役ヲ中止シタリキ、然ルニ此中止ニ因リ獄則及ヒ囚徒ノ心志ノ矯正ニ害惡ヲ及ホシタルヿ實ニ甚シキニ至リタリ、是ニ於テ千八百四十九年一月九日ノ法律次キニ千八百五十二年二月二十五日ノ布達ハ此勞役ノ再設ヲ制定セリ（一）然レ𪜈工業事件ニ關シテハ、既ニ破棄セラレタル者ヲ再設スルニハ必ス若干ノ年月ヲ要スルモノニシテ、中央獄舍ニ於テモ實際之カ爲メニ五年ノ歲月ヲ費シテ事除ク緒ニ就クニ至レリ、而シテ受負工業方法ノ勢力ヲ得テ此獄舍中ニ大ニ採用セラレタルハ則チ此勞役再設ノ際ニ於テナリトス、只タ此回ハ此方法ナシテ新規則ニ從ハシメ且特ニ制限スル所アリタリ」此勞役ノ再置ト其利益上ノ結果トニ關シテハ、官署ニ於テ爲ス所ノ進步年一年ヨリ著ルシク特ニ最近五年以來ノ比較ニ因リ最モ著明ナルニ至レリ、現今若シ此進步ノ景況知ランント欲セハ千八百五十二年以來內務省ノ統計表ニ於テ年々公布スル所ノ計算ノ圖表ヲ一見スベキノミ、乃チ此進步ハ囚徒ノ全數ト勞役ニ就キタル囚徒ノ數トヲ比較シタル者ニ就テ之ヲ見ルヘク、拘禁ノ日數ト勞役ノ日數トヲ比較シタル者ニ就テ之ヲ見ル可ク、各年此勞役ヨリ生スル純益ノ額ニ就テ之ヲ見ル可ク、又（最終ニハ）前者ノ如ク著シルシカラスト雖𪜈各囚日ニ產スル所ノ利益ノ平均額ニ就テ之ヲ見ル可シ、茲ニ千八百六十九年ノ統計表ハ此件ニ就テ確實ナルヿヲ得ヘキ最終ノ者ニシテ（二）今此表ニ從ヒ此年ノ終リニ於テ右ノ諸點ニ關シ達シ得タル點度ニ擧クレハ〇囚徒一万八千四百零三人ノ內勞役ニ就キタル男女一万四千八百七十四人〇拘禁ノ日數六百三十七萬七千九百三十日ノ內服役ノ日數四百六十萬零六千九百八十七日〇此年間營業ヨリ生シタル純益金三百七十萬零七千百零七「ブランク」ナリ此額ハ政府幷ヒニ受負人及ヒ囚徒ニ分配スヘキ者ナリ又此額中ニハ囚徒ニ與ヘタル賞金ヲ計入セス〇又各囚ノ工錢ハ服役一日ノ產出高ノ平均男囚ハ金七十四「サンチーム」七九ニシテ女囚ハ八十一「サンチーム」六五ナリ但此額中ニモ亦賞金ヲ算入セス、然ルニ千八百六十年ノ一日ノ產出高ハ男囚ニシテ五十五「サンチーム」九一、女囚ニシテ四十七「サンチーム」五四ニ過キサリキ」故ニ勞役ト物產トノ利益上ノ關係ヨリ見レハ監獄官署ニ於テ爲シ得タル進步ハ甚タ著シルシキ者ニシテ、重モニ

近年ニ至リテ此點ニ達シタルモノナリトス、然レモ右囚徒一人一日ノ產出高其物ニ因レハ獄舍ニ於テスル人類ノ勞力ハ今日尙ホ幾何ク下等ノ價ニ止マルカヲ知ルニ足ル、何トナレハ右ノ改良ニモ拘ハラス勞力ニ使用セラルノ總人員ト諸種ノ工業トニ就テ結局的ノ總計ヲ爲セハ人々產出ノ一般ノ平均高ハ右千八百六十九年ニ於テ男子ニシテ一日尙ホ七十五「サンチーム」ニ昇ルヿ能ハス、女子ニシテ八十五「サンチーム」ニ昇ルヿ能ハサリキ」此一日ノ產出高ニ就テ各囚ニ給與ス可キ部分ハ千八百四十三年十二月二十七日ノ布達ト千八百五十四年三月二十五日ノ內務省ノ議決トニ因テ規定セラル、此布達ニ依レハ、給與ノ割合ハ刑ノ輕重ト前處刑ノ數トニ從ヒ十分ノ一ヨリ十分ノ五ニ至ル、而シテ右千八百五十四年ノ議決ハ囚徒ノ行狀ニ從ヒ右ノ平常ノ部分ヲ增加若クハ減少スルヿヲ許シタリ、又此給與ノ部分ハ使用シ得ヘキ者ト貯蓄ス可キ者トニ區別ス(三)

(一) 獄舍ノ勞役ニ關スル千八百四十九年一月九日ノ法ヲ看ル可シ、此法ハ右ノ服役ヲ中止シタル千八百四十八年三月二十四日ノ布達ヲ削除セリ然レモ懲役及ヒ懲治ノ中央獄舍ノ囚徒又ハセース縣ノ府縣獄舍ノ囚徒ニ因テ製造セラレタル產物ヲ市場ニ出シ自由勞力ノ產物ト競爭セシムルヿヲ禁シタリ、從テ此法ハ此禁令ニ符合スル種ノ處分ヲ設ケタリ

獄舍ノ勞役ニ關スル千八百五十二年二月二十五日ノ布達ハ左ノ如クナリ

(第一條　千八百四十九年一月九日ノ法ヲ廢除ス

第二條　獄舍ニ於テ復タ更ラニ勞役ヲ組織スルヿヲ內務卿ニ允准ス

第三條　囚徒ノ服役ヨリ生スル產物ハ可及的之ヲ行政官署ノ消費ニ使用ス可シ

監獄官署ハ被刑者ヲ直接ニ獄舍ノ事務又ハ公ケノ事務ニ關スル勞役ニ使用スルヿヲ得スト雖モ內務卿ニ因テ制定セラル、所ノ行政規則ヲ以テ定メタル條件ニ從ヒ之ヲ人民工業ノ勞力ニ使用スルヿヲ得ヘシ

第四條　內務卿ハ試驗ノ名義ヲ以テ被刑者ノ中ニ就テ若干ノ人數ヲ外部ノ勞役ニ使用スルヿヲ得ヘシ)

(右ノ布達ハ法律ノ効力ヲ有スル布達ノ數中ニアリ)

(二) 千八百七十年ノ事變ハ獄舍ニ於テモ他所ニ於テノ如ク事業ニ非常ノ休業ヲ來シタリ

(三) 千八百四十三年ノ布達ニ因レハ各十分ノ一ハ左ノ如ク配付セラル、懲治ノ禁錮ニ處セラレタル者ニハ十分ノ五、懲役ノ囚ニハ十分ノ四、徒刑ノ囚ニハ十分ノ三、又再犯者ヲ嚴罰スル爲メニ前犯ノ各處刑ニ就キ十分ノ一ツヽヲ減ス但減シテ金額ノ十分ノ

近年ニ至リテ此點ニ達シタルモノナリトス、然レモ右囚徒一人一日ノ産出高其物ニ因レハ獄舍ニ於テスル人類ノ勞力ハ今日尚ホ幾何ク下等ノ價ニ止マルカヲ知ルニ足ル、何トナレハ右ノ改良ニモ拘ハラス勞力ニ使用セラルノ總人員ト諸種ノ工業トニ就テ結局的ノ總計ヲ爲セハ人々産出ノ一般ノ平均高ハ右千八百六十九年ニ於テ男子ニシテ一日尚ホ七十五「サンチーム」ニ昇ルヿ能ハス、女子ニシテ八十五「サンチーム」ニ昇ルヿ能ハサリキ」此一日ノ産出高ニ就テ各囚ニ給與ス可キ部分ハ千八百四十三年十二月二十七日ノ布達ト千八百五十四年三月二十五日ノ内務省ノ議決トニ因テ規定セラル、此布達ニ依レハ、給與ノ割合ハ刑ノ輕重ト前處刑ノ數トニ從ヒ十分ノ一ヨリ十分ノ五ニ至ル、而シテ右千八百五十四年ノ議決ハ囚徒ノ行狀ニ從ヒ右ノ平常ノ部分ヲ增加若クハ減少スルヿヲ許シタリ、又此給與ノ部分ハ使用シ得ヘキ者ト貯蓄ス可キ者トニ區別ス(二)

(一) 獄舍ノ勞役ニ關スル千八百四十九年一月九日ノ法ヲ看ル可シ、此法ハ右ノ服役ヲ中止シタル千八百四十八年三月二十四日ノ布達ヲ削除セリ然レモ懲役及ヒ懲治ノ中央獄舍ノ囚徒又ハセース縣ノ府縣獄舍ノ囚徒ニ因テ製造セラレタル産物ヲ市場ニ出シ自由勞力ノ産物ト競爭セシムルヿヲ禁シタリ、從テ此法ハ此禁令ニ符合スル種ノ處分ヲ設ケタリ

獄舍ノ勞役ニ關スル千八百五十二年二月二十五日ノ布達ハ左ノ如クナリ

(第一條　千八百四十九年一月九日ノ法ヲ廢除ス

第二條　獄舍ニ於テ復タ更ラニ勞役ヲ組織スルヿヲ内務卿ニ允准ス

第三條　囚徒ノ服役ヨリ生スル産物ハ可及的之ヲ行政官署ノ消費ニ使用ス可シ

監獄官署ハ被刑者ヲ直接ニ獄舍ノ事務又ハ公ケノ事務ニ關スル勞役ニ使用スルヿヲ得スト雖モ内務卿ニ因テ制定セラル、所ノ行政規則ヲ以テ定メタル條件ニ從ヒ之ヲ人民工業ノ勞力ニ使用スルヿ得ヘシ

第四條　内務卿ハ試驗ノ名義ヲ以テ被刑者ノ中ニ就テ若干ノ人數ヲ外部ノ勞役ニ使用スルヿヲ得ヘシ)

(右ノ布達ハ法律ノ効力ヲ有スル布達ノ數中ニアリ)

(二) 千八百七十年ノ事變ハ獄舍ニ於テモ他所ニ於テノ如ク事業ニ非常ノ休業ヲ來シタリ

(三) 千八百四十三年ノ布達ニ因レハ各十分ノ一ハ左ノ如ク配付セラル、懲治ノ禁錮ニ處セラレタル者ニハ十分ノ五、懲役ノ囚ニハ十分ノ四、徒刑ノ囚ニハ十分ノ三、又再犯者ヲ嚴罰スル爲メニ前犯ノ各處刑ニ就キ十分ノ一ツヽヲ減ス但減シテ金額ノ十分ノ

以下ニ下スヿヲ得ス」千八百五十四年ノ内務省議決ハ囚徒ノ善惡ノ行狀ヲ按檢シ附加ノ給與トシテ別ニ十分ノ一又ハ二ヲ增給シ又ハ同樣ノ割合ヲ以テ平常給與ノ部分ヲ減少スルヿヲ許セリ但此增減ニ因リ決シテ最多數十分ノ六及ヒ最寡數十分ノ一ノ限界ヲ超過スルヿヲ許サス(前數一四七四及ヒ一四七七參看)須カラク左ノ件ニ注目ス可シ、刑法(第十五條及ヒ第二十一條)ハ徒刑ニ處セラレタル者ニ其服從ヨリ生スル物件ノ一部分ノ給與ヲ想像セサル如シ、然レ𪜈司獄官署ハ該被刑者ヲシテ確實ニ役ニ就カシムルカ爲メニ此給與ヲ容レザルヲ得サルニ至リタリ

今右ニ其正文ヲ擧ケ來リタル所ノ(前註記)千八百五十二年二月二十五日ノ布達ニ就テ須カラク左ノ二箇ノ處分ニ注目ス可シ、即チ(囚徒ノ服役ヨリ生スル産物ハ可及的行政官署ノ消費ニ使用ス可シ)(第三條)ト又(內務卿ハ試驗ノ名義ヲ以テ被刑者ノ中ニ就テ若干ノ人數ヲ外部ノ勞役ニ使用スルヿヲ得ヘシ)(第四條)ト」此處分ノ第一ハ我輩カ既ニ嘗テ辯明シタル所ノ思考(前數一四七一參看)ニ基キ獄舍ノ勞力ヨリ自由ノ勞力ニ對シテ爲ス所ノ競爭ヲ豫防スルノ方法トシテ設ケラレタル者ニシテ、既ニ或ル適用ヲ受ケタリ、即チ中央獄舍ノ用ニ供スル衣服幷ヒニ白布類及ヒ寢具ノ諸物件ハ此獄舍中ノ二ケ所(フヂントブロール及ヒロヂースノ中央獄舍)ニ於テ製造セラル・ニ至レリ、此適用ハ今尙ホ極メテ狹隘ナリ、然レ𪜈他ノ一方ヨリ見レハ既ニ此物件ニ付キ通常受負人ノ爲ス可キ供給ヲ妨クルモノトス府縣獄舍ニモ右ノ種類ノ供給ヲ爲ス者アリ(一)、工賃及ヒ産物ノ價直ノ格外ナル低下ニ關シテハ千八百五十二年二月一日ノ議決ハ工賃ノ價直ヲ定ムル事件ニ各地方ノ商事會議所ヲ關與セシメテ以テ弊害ヲ妨カントセリ(二)」此處分ノ第二ハ亦右ニ所謂ル我輩カ嘗テ明辨シタル思考ニ關係セサルニ非ス、且ツ特ニ千八百四十八年ノ革命後反動ノ勢ヲ具シテ湧沸シタル彼ノ獄舍ヲ以テ農事殖民場ト爲スノ方法(前數一五一〇參看)ニ新タニ傾向シタルヨリ來リタル者ニシテ、既ニ試驗ノ名義ヲ以テ二箇ノ異ナリタル適用ヲ受ケタリ、即チ二三ノ中央獄舍ニ於テハ囚徒ヲ外部ノ勞役ニ使用シタリ、ブヲントブロールノ中央獄ニ於テハ囚徒二百人ヲシテ此獄舍ノ近傍ニ於テ購求シタル耕地ヲ開拓シ耕作セシメクレール ウホウノ中央獄ニ於テハ多數ノ被刑者ヲミユルーズ鐵道ノ土方ニ使用セリ(三)又一方ニ於テハ政府ハコルスニ於テ荒蕪地ヲ購求シタル後、千八百五十五年ヲ以テ此ニ全ク農事殖民場ノ性質ヲ有スル中央獄舍ヲ建設シタリ、即チシヤウハリーノ獄ハ被刑者ヲ開拓ノ事業、惡木ノ伐採、濕地ノ乾涸ニ使用シ遂ニ耕田ヲ開カントセリ、次キニカザビアンダーノ獄ニ於テモ囚徒ヲ開拓ノ事業ニ從事セシメタリ、此事業ヨリシテ千八百六十二年ニ大ニ囚徒ノ死亡ヲ來シタリシカ千八百六十九年ニハ百人ニ付キ二人九五ニ減少シタリ、而シテ千八百七十年ニハ

百人ニ付キ七人八四ニ至リタリシモ這ハ非常ノ原因アリタルカ故ナリトス、シヤウハリーニ於テハ常ニ百人ニ付キ二人八五ニ過キサリキ、又同クコルス於テ千八百六十六年カステリユクシヲノ第三ノ農事獄舍ヲ建設シタリ、最終ニベル、イスル、アン、メールハ六十歳以上ノ老年囚ヲ繫ク所ニシテ乃チ此獄ノ少數ノ老年囚徒(千八百七十年ニハ二十五人アリタリ)ヲ近隣ノ耕作ノ業ニ使用ス」我輩ハ純粹ノ學問上ヨリシテ責罰ニ此種ノ勞力ヲ使用スルニ關シテ既ニ詳カニ之ヲ辨シタリキ、故ニ此ニ復タ賚セス(前數一四六五ヨリ一四六八ニ至ル參看)

(一) 獄舍及ヒ懲治檻統計表ニ就テ千八百五十五年ノ部第九丁及ヒ千八百五十六年ノ部第三十二丁參看ス可シ

(二) 工賃ノ定價ハ受負人、製作場ノ監察人、獄舍ノ長官及ヒ各地方ノ商法會議所ヨリ差出シタル評價ニ從ヒ縣令ノ發議ヲ參照シテ內務卿自ラ之ヲ規定ス

(三) 獄舍及ヒ懲治檻統計表ニ就テ千八百五十五年ノ部第十三丁ヲ參看ス可シ

中央獄舍囚徒ノ健康ノ地位ハ無數ノ原因相集結シテ通常人民ノ健康ノ地位ニ劣ルコト甚ダシ、監獄官署ハ須カラク此ニ注意セサル可ラス、而シテ實際ニ於テモ我監獄官署ハ大ニ憂悶シテ此ニ注意シ其勉力ヨリシテ此原因ノ中ニ就テ其勢力ヲ以テ撲滅シ得ル者ハ之ヲ撲滅シ盡サントスルニ至リタリ、然シテ此勉力ノ結果ヲ見レハ前年來死亡ノ數ト近年ノ數トノ比較ニ因リ證セラレタル確實ノ改良ニ到着シ得タリト雖モ其目的ヲ達シタリト云ヒ得ベキニ至テハ未タ甚タ遠シ、我輩ハ茲ニ最近年ノ統計即チ千八百七十年ノ表ヲ取リテ之ヲ見ルニ中央獄舍ノ男囚百人ニ付キ死亡ノ數平均四人三〇ノ割合、女囚百人ニ付キ四人六三ノ割合ナリ、若シ夫レ千八百六十年ノ統計表ニ依レハ男囚ハ五人一八、女囚ハ六人三三ナリトス、而シテ通常人民ノ死亡ハ總テノ年齡ノ者ヲ合シテ平均ノ數百人ニ付キ二人三七ニ過キス(一)

(一) 獄舍及懲治檻計表ニ就テ千八百七十ノ部第二十一丁及ヒ次丁ヲ參看ス可シ

(一五三四) 懲役處斷ノ數ハ數年ヲ四季ニ區別シテ之ニ配付スレハ則チ左表ノ如シ

處斷ノ數	一年平均ノ數
從千八百十六年 至千八百三十年	二四、六三二	一、六四二
從千八百三十一年 至千八百五十年	一六、六一三	八、三一
從千八百五十一年 至千八百六十年	九、五二〇	九五二

從千八百六十一年 至千八百六十五年	三、五六六	七五三

此數ハ徒刑處斷ノ右ト同一ナル表ニ記載セラレタル數ニ比スレハ常ニ下等ナリトス」又千八百六十八年以來懲役處斷ハ次第ニ減少シテ其數常ニ右ノ平均數ノ以下ニアリ、千八百六十九年ニ於テハ六百七十六(六七六)ニ過キサリキ、此處斷ノ增域ハ我中央獄舍ノ人口ニ增減ヲ來スモノトス、故ニ久時ヨリシテ懲役囚徒ノ現數ハ平均凡ソ五千人ナリシカ(被刑者各五年ノ懲役ニ處セラレタリト想像シテ此數ヲ得)千八百七十年十二月三十一日ノ計算ニ依レハ三千六百三十三人ニ過キサルニ至レリ

人若シ我二十五中央獄舍ノ囚徒ノ全現數ヲ知ラント欲セハ右同年月ノ計算ハ則チ左ノ如シ

○徒刑ニ處セラレタル者千二百七十八人○懲役囚三千六百四十三人○一年ヨリ長キ懲治禁錮ニ處セラレタル者一萬零々五十五人總計一萬五千零二十九人、內男囚一萬二千三百四十人、女囚二千六百八十九人(一)

(一) 此計算ハ官署ヨリ出タル最モ近時ノ書類ニ因テ證明セラレタル者ナリ、然レ𪜈必ズヤ左ノ件ニ注目セサル可ラス、第一ニ千八百七十年ノ一周年間ハ通常ノ年ト同ク論ス可ラス何トナレハ裁判事務ハ大ニ戰爭ノ爲メ妨ケラレテ從テ處刑ノ數少ナケレハリ、第二ニハアンシセーム及ヒフギユノーノ獄舍ハ佛艮西ニ屬セサルニ至リタルヨリシテ此獄舍囚徒ノ現數ハ統計表ノ計算外ニアリ從テ此表ニ被刑者千二百九十九人ノ外刑上ノ減少ヲ現出セシメタリ(千八百七十年ノ統計表ノ首端ニ置カレタル報告書ヲ參看ス可シ)

(一五三五) 懲治禁錮(アンプリブンヌマン、ド、ポリス、コレクシヨネール)」刑法ハ其第四十條及ヒ四十一條ニ於テ此刑ノ解釋ヲ與ヘタレドモ其被刑者ニ對スル取扱制度ニ至テハ細カニ規定スル所ナク、只タ左ノ件ヲ定メタリ、被刑者ヲ役ニ服シテ而シテ其役ノ種類ハ獄舍中ニ設ケラレタル勞役ノ中ニ就テ被刑者ヲシテ之ヲ擇ハシムルヿ、又此服役ヨリ生シタル利益ハ凡テ行政ノ規則ニ從ヒ其一部分ヲ獄舍通常ノ費用ニ供シ、其一部分ヲ被刑者若シ多少ノ寬宥ヲ受ク可キ資格ヲ有スル片ハ之ヲ與フルノ用ニ給シ、又他ノ一部分ヲ被刑者出獄ノ時ニ當リ貯蓄資本ヲ有スル爲メニ給スルヿ是ナリ(一)

(一) 刑法第四十條(凡ソ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ懲治獄舍ニ送致セラル可シ、此被刑者ハ其擇フ所ニ從ヒ右ノ獄舍中ニ設ケラレタル勞役ノ一ニ使用セラル可シ)

(此刑ノ期限ハ六日以上五年以下ト爲ス但再犯ノ場合又ハ其他法律ヲ以テ別ニ期限ヲ定メタル場合ハ此限ニ在ラス)

（禁錮一日ノ刑ハ二十四時間トス）

（禁錮一月ノ刑ハ三十日トス）

第四十一條（輕罪ノ爲メノ各四徒ノ服役ヨリ生シタル利益ハ其一部分ヲ獄舍通常ノ費用ニ供シ其一部分ヲ被刑者若シ多少ノ寛宥ヲ受ク可キ資格ヲ有スル片ハ之ヲ與フルノ用ニ供シ、其他ノ一部分ヲ被刑者ノ爲メニ其出獄ノ時ニ當リ貯蓄資本ヲ成ス爲メニ給ス、但總テ行政規則ニ因テ規定セラル、所ニ循フ）

（一五三六）　刑法ノ正文ニ因レハ懲治ノ禁錮ハ懲治獄舍（メーゲン、ド、コレクシヨン）ト名ツケラレタル特別ノ獄舍ニ於テ之ヲ受ケシメサル可ラズ、而シテ此種ノ獄舍ノ造築ハ之ニ拘禁ス可キ囚徒ニ關シテハ多少混雜スル所アリタリシト雖モ、既ニ千七百九十一年七月十九日ノ法ニ因テ命セラレタリキ（前數二九四及ヒ其註記第一參看）然レモ實際ニ於テハ嘗テ此造築ヲ爲サスシテ他ノ數多ノ點ニ於テ法律上ノ處分ト相反シタル方法ヲ以テ之ヲ彌縫シタリ

我輩ハ既ニ懲治禁錮ノ其期限一年ヨリ長キ者ハ（一年ト一日ノ者ニモセヨ）之ヲ中央獄舍ニ於テ受ケシムルヿヲ知ル、此獄舍即チ同時ニ懲役ノ獄舍幷ビニ輕罪裁判所ニ於テ一年ヨリ多キ禁錮ニ處斷セラレタル者ニ對スル懲治ノ獄アリト定メラレタリ（前數一五三二參看）」

其懲治禁錮ノ期限右ヨリ矩キ（一年及ヒ其以上）者ニ關シテハ之ヲ府縣獄（プリブン、デパルハマンダール）ト名ケラレタル獄舍ニ於テ受ケシム、而シテ此ニ獨リ場所ノ差異アルノミナラス尙ホ被刑者ニ對スル有形上ノ取扱及ヒ無形的ノ取折ニ關スル總テノ件ニ就テモ大ナル差異アリトス

（一五三七）　府縣獄舍（一）名稱ノ由テ來ル所ハ獨リ此獄舍ハ其存在スル所ノ府縣ノ用ニ供スルカ故ニ因テノミニ非ス尙ホ特ニ其費用定額ノ出所ニ因リテナリトス、一方ヨリ見レハ此獄舍ノ所有權ハ初メ政府ニ屬シタリシカ千八百十一年四月九日ノ布達ニ因リ此所有權ハ獄舍ノ保持、修繕、家屋增築又ハ建造ノ負擔ト共ニ府縣ニ移サレタリ又他ノ一方ニ於テハ此獄舍ノ供給及ヒ拘禁ノ費用モ亦同ク府縣定額ノ負擔ニ置カレタリ、是ヨリシテ一年ヨリ多キ禁錮又ハ或ル重罪ノ刑ニ處セラレタル者其送致ヲ待ツカ爲メニ一時府縣獄舍ニ在ルトキハ政府ノ定額ヨリ府縣ノ定額ニ此滯留中ノ費用ノ賠償ヲ爲サヽルヲ得サルニ至レリ、偖テ此ノ如キ會計上配付ハ公法及ヒ刑法ノ元則ト撞着スルモノトス、何トナレハ刑事裁判ノ支辯ハ全社會ノ事業ニシテ其一部分ノ事業ニ非サレハナリ、又重罪輕罪ノ責罰ハ一地方ノ爲メニ爲スニ非スシテ全國ノ利益ノ爲メニ之ヲ爲セハナリ、是ニ於テ千八百五十六年ノ定額ヲ規定シタル千八百五十五年ノ會計上ノ法律ハ建造物ニ關スル費用ノミヲ府縣定額ノ負擔ニ

殘シテ其他ノ供給及ヒ拘禁ノ費用ニ至テハ之ヲ政府ノ負擔ニ歸シ右撞着ノ一大部分ヲ消滅セシメタリ、此處分ハ久時ヨリ布望セラレタル者ニシテ獄舍ノ財政ノ問題ヲ中央ニ集合シ從テ其辨理及ヒ內部ノ方向ヲ中央ニ集合シ諸獄舍一致ノ精神ヲ回復シ且ツ刑ニ最モ必要ナル適用上ノ同一同等ナルヿニ誘クモノタリ、然レドモ建造物ノ費用其物ニ至テモ特ニ府縣獄舍ニ關スル法律ノ草按ニ因テ請求セラレタル改正ノ點ヨリ見ルトキハ之ヲ府縣ノ隨意ノ處分ニ任シテ危險ナシト云フ可ラス又全ク其負擔ニ係クルモ正當ナリト云フ可ラス、故ニ此法ノ草按ニ於テハ(第五條及ヒ次キノ數條)布達ヲ以テ政府ト府縣トノ互ヒノ分擔ヲ定メ府縣ヲシテ獄舍ノ所有權ヲ返還セシメ之ニ關スル其負擔ヲ免カルヽヿヲ得セシメント擬シタリ。

(一) 府縣獄舍ニ關スル法律草按ノ維持ヲ主張シタルベランゼー氏ノ報告書ヲ參看スル可シ

(一五三八) 府縣獄舍ハ近時施サレタル改良ニモ拘ハラズ、疑ヒモナク我處罰方法中ニ於テ短處アル者ノ最モ甚シキ者トス、此獄舍ハ其物自ラニ固着シタル一箇ノ瑕瑾ヲ有ス而シテ此瑕瑾ハ獄舍管理ノ方法如何カアルニモセヨ故ニ假令ヒ政府ノ直轄ニ之ヲ屬セシメタルニモセヨ存在シテ已マサル可シ、何トナレハ這ハ此獄ノ構成其物ニ固有タレハナリ故ニ之ヲ消滅セシメント欲セハ之カ方法ヲハ全ク顚覆セサル可ラサルナリ、然シテ其瑕瑾トハ此獄舍ハ我法律ノ明確ナル正文アルニモ拘ハラス(一)僅ニ特別ノ使用ヲ受ケ得タル少數ノ者ヲ除クノ外ハ同一ノ檻倉ニシテ無數異樣ノ拘禁ヲ集合スルヿ是ナリ、玆ニ此檻ニ拘禁セラル、者ヲ算スレハ輕罪被告人、重罪被告人、負債ノ爲メニ拘留セラレタル者、常事犯又ハ軍事犯被告トナリテ護送ヲ待ツ爲メニ一時滯留スル者、種〻ノ刑ニ處セラレ他所ニ送致セラル、ヲ待ツ者、幼年囚徒及ヒ最終ニハ一年以下ノ懲治禁錮ニ處セラレタル者ナリトス、偖テ斯クノ如キ混合ヲ以テ如何ニシテ公衆精神ニ犯罪必罰ノ例ヲ感セシムルヿヲ得ルヤ、勞役ヲ如何ニ組織シ得ルヤ、此ニ寧ロ懲治ノ方法ヲ立ツル能ハサルモ如何ニシテ囚徒ノ敗壞ヲ妨ケ得ルヤ、我輩ハ今此書ヲ讀ム者ヲシテ此痛歎ス可キ混乱ニ就キ其大略ヲ知ルヿヲ得セシメンカ爲メニ千八百七十年十二月三十一日ノ計算ナリトシテ統計表ニ示サレタル此獄舍ノ人口ノ現數表ヲ下方ニ擧ク可シ(二)現時存在スル處ノ府縣獄舍ハ巴里府ニアル者ヲ合シ新タニ佛艮西ノ所屬ニ離レタル者ヲ除キテ其數三百八十ナリトス、而シテ其統然タル懲治ノ檻倉ニシテ重罪輕罪ノ未決拘留所トシテ用ヒラレサルモノハ其數僅カニ十一ニ過キス(三)又特別ノ獄舍ニシテ未決拘留檻ノ名義及ヒ單ニ之ニ使用スルノ目的ヲ以テ建築セラレタル者ナキニ非スト雖モ此獄舍ニモ亦屢〻既ニ處斷ヲ經タル被刑者ヲ拘禁セリ、巴里府ニ於

テハ獄舍ノ區別一般ニ能ク拘禁ノ種類ニ應ス、然ルニ此巴里ニ於テスラ懲治檻ノ名義ヲ有スル男囚檻セント、ペラシー及ヒ女囚檻セン、ラザールハ懲治ノ獄舍タルト同時ニ未決拘留檻タリ、又反對ニマザースノ小房檻ハ本來未決拘留檻タリト雖モ特ニ此獄舍ニ於テ其禁錮ノ刑ヲ受クルヿヲ許サレタル若干ノ被刑者ヲ常ニ拘禁セリ(四)實ニ我國ニ於テハ今日ニ至テモ尙ホ太ダシク性質ノ異ナリタル夫ノ自由ノ剝奪ニ對シ獄舍ト之ヲ支配スル制度トヲ混乱シテ毫モ疑フ所ナキカ如シ、噫々

(一) 治罪法第六百四條(未決拘留及ヒ裁判所附ノ獄舍ハ刑ノ爲メニ設ケラレタル獄舍ト全ク異ナリタルモノトス)此條ヲ刑法第二十條第二十一條及ヒ第四十條ト比較參考ス可シ」 此處分ハ千七百九十一年九月十六日及ヒ二十九日ノ法第二編十三章第十一條及ヒ共和紀元第四年十二月ノ法第五百八十條ヨリ再出シタルモノトス

(二) 千八百七十年十二月三十一日ニ計算シタルセース縣及ヒ其他ノ府縣獄舍囚徒ノ現數ハ左ノ如シ○壯年者ハ 輕罪被告又ハ重罪被告二千七百二十七人○處斷ヲ經テ控訴又ハ上告中ノ者二百九十一人○處斷ヲ經テ他所ニ送致セラルヽヲ待ツ者四百十九人○一年以下禁錮ニ處セラレタル者八千零五十八人○一年ヨリ多キ禁錮ニ處セラレ特別ニ其刑ヲ府縣獄舍ニ於テ受クルヿヲ許可セラレタル者第七十人○政府ニ對スル負債ノ爲メニ拘禁セラルヽ者二十三人○人民ニ對スル負債ノ爲メニ拘禁セラルヽ者十一人○行政處分ニ因テ留置セラレタル者千百十九人○常事犯被告トナリテ護送ヲ待ツ爲メニ滯留スル者三百三十六人○陸海ノ軍事犯被告トナリ護送ヲ待ツ爲メニ滯留スル者二百十六人○幼年者ハ重罪及ビ輕罪被告九十九人○六ヶ月ニ處セラレタル者二百二十二人○六月ヨリ多キ禁錮ニ處セラレ他所ニ送致セラルルヲ待ツ者百六十一人○幼年者又ハ父母ヨリ懲治檻入ヲ出願シタル爲メニ留置セラル、幼年者九十四人○總テ一萬五千二百三十四人、內男囚一萬二千五百四十二人、女囚二千七百十二人、(獄舍及ヒ懲治檻統計表ニ就テ千八百七十年ノ部第六十三丁以下ヲ看ル可シ)

(三) 此十一ノ獄舍トハアミアン、ブサンソン、エピナール、リヨシ、マルセーユ、ニース、ケンペール、ルーアン、トールーズ、ウェルサエユ、ウヲヴールノ府縣獄舍ヲ言フ

(四) 常事犯被刑者ニ宛テラレタルセーヌ縣ノ縣獄舍ハ其數七ニシテ乃チ左ノ如シ○マサース、此檻倉ハ小房制度ニ依リタルモノニシテ未決拘留檻ナリ然レモ年々禁錮ニ處セラレタル者百五十人以上ヲ拘禁ス○ラ、コンシエルジユリー、裁判所附屬未決檻ナリ(小房制度ニアラス)○セン、ラザール、婦女ニ對スル未決拘留及ヒ懲治獄舍ナリ(小房制度ニ非ス)○ラ、サンテー男囚懲治檻ナリ(半小房制度)○セント、ペラシー、男

囚懲治檻ナリ(小房制度ニ非ス)○ラ、ロケット、被刑者ノ留置場ナリ(小房制度ニ非ス)○其他幼年囚徒ニ對スル一獄舍アリ(小房制度)然レ𪜈這ハ我輩カ此ニ論スル所ノ懲治禁錮ニ關セサルモノトス」又余ハ此ニ警視廳ノ留置場ヲ算セサル可シ、又行政一分ノ拘禁ニ宛テラレタルセン、ドニーノ獄舍ヲモ又民事ニ關スル拘禁ノ廢止ニ因テ廢除セラレタル貨債ノ爲メノ留置場クリシーノ獄舍ヲモ擧ケサル可シ

偖テ此府縣獄舍ニ於テハ、我法律ノ明確ナリ正文アルニモ拘ハラス刑トシテ施ス所ノ拘禁ト未決因ノ拘禁及ヒ他ノ數種ノ拘禁トヲ混合スルコトハ已ニ知ルガ如ク屢々ナリト雖𪜈能クク獄舍內ニ區域ヲ置キ有形上ヨリ區別ヲ立ツルヰハセメテハ此混雜ヨリ生スルノ弊ヲハ多少救濟スルヿヲ得ヘシ、然ルニ實際人能クク之ヲ施スヤ否ヤ、請フ以下ニ於テ陳ブル所ヲ見ヨ、我三百八十ノ府縣獄舍ノ中ニ就テ小房制度ノ方法ニ從テ組織セラレタル者ハ、內務省ノ統計表ニ依レバ、巴里府中ノ獄舍ト共ニ其數百六十ニ過キス、而シテ此小房獄舍ハ其建造物ノ同一ナルヨリシテ、從テ大ニ性質ノ異ナリクル自由ノ剝奪ニ施ス所ノ制度自ラ一般ニ同一ナルノ風アリテ、法律ト矛循スルヲ免レスト雖𪜈、又外部ニ於ル公衆ノ感覺ヨリ見レハ種類ノ異ナリタル各囚徒ヲ充分ニ區別スル所ナキカ如シト雖𪜈、少ナクモ其內部ニ於テハ實際ニ此區別アルモノトス、(一)然ルニ他ノ獄舍ニ關シテハ其ノ中央行政部ノ直轄ニ屬スル數年前ニ於テハ百六十六ノ獄舍皆其內部ノ區別不充分ニシテ其百六十一ニ於テハ男女ノ區別ヲ除クノ外ハ右ノ混同アリシヿヲ證明シタリ(二)這ハ是レ危急ノ患害ナレバ中央行政官ハ可及的急速ニ之ヲ救濟セント力メタリキ、即チ根本ノ弊害タル建造物ノ同一ナルヿハ姑ラク之ヲ保存シタレドモ行政官ハ此同一ノ獄舍ノ中ニ於テ各囚徒ヲバ其法律上ヨリ受クル所ノ地位ニ從テ區別シ區域ヲ置キ之ニ配置セントシタリ、即チ小房監禁ノ方法ハ之ヲ放棄シタルニ因リ(前數一五一六參看)一箇ノ混合方法ヲ以テ此府縣獄舍ノ地位ト種々ノ事務上必要トスル所ニ寔トニ能クク適當セリト思考セリ、而シテ此混合方法トハ最モ重モナル囚徒ノ部類ニ對シテハ別離シタル區域ヲ立テ之ニ入レ、少數ノ囚徒ニ對シテハ一處ニ雜居セシムルノ法ヲ取リ、又懲罰ノ理由其他特別ノ守衛、秘密監禁ノ理由、又保護ノ目的ヨリシテ一室ニ獨居セシムルヲ必要トスル所ノ囚徒ニ對シテ小房監禁ヲ施スノ方法是ナリ、爾來行政官ニ因テ內訓アリ且ツ獄舍建造ノ方法及ヒ其式圖ノ定メラレタルハ皆ナ此意ニ從テナリトス、千八百五十三年ヨリ千八百六十年ニ至ルノ間ニ於テ新建築若クハ增築ノ考案二百七十二ヲ起シ此費用ニ應スル爲メ縣會ヲ以テ凡ソ十五「ミリヨン」(千五百萬「フランク」)ヲ徵收シタルモ此意ニ從テナリトス(三)今日ニ當リテハ、內務省ノ統計表ニ依レハ、二百二十七ノ府縣獄舍ハ少ナクモ區域ヲ以テ各種ノ囚徒ヲ區別スルヿヲ實行シタリ(四)然ラハ則チ此獄

舍ニ就テ改正ヲ要スルモノ尚ホ五分ノ二アリトス」

（一）千八百七十年ニ於テ府縣獄舍ノ小房制度又ハ混合方法ヲ取リタル者ハ左ノ如シ

ベレー、ゼックス（エース縣）、シャトー、チエリー、センケンタン（エースヌ縣）、モンリユソン（アリエー縣）、シストロン（バッスアルプ縣）、クラッス（アルプマリチーム縣）、ラルジャンチエル（アルデッシユ縣）、レテール（アルダンヌ縣）、バール、シユール、チーブ（ヲーブ縣）、リムー、ヲード縣）、エスパリヨン（アウェイロン縣）、マルセーユ（ブーシユ、デユ、ローヌ縣）、セン、フルール（カンタール縣）、サルテーヌ（コルス縣）、ボーヌ、ジヰヨン（コート、ドル縣）、ゲンガンプ（コード、デユ、ノール縣）、ゲレー（クルーズ縣）、ボルドー、バザース、ブライエー、ラ、レチール、レスパール、リブールヌ（ジロンド縣）、トール、アルドル、エ、ロワール縣）、ブールゴワン、セン、マルスラン（イゼール縣）、アジャン、ネラック、ウィルヌーウフ、シユール、ロー（ロー、エ、ガロンヌ縣）、アンゼール（ヌーヌ、エ、ロワール縣）、セント、ムヌール（マルヌ縣）、ナンシー（ムールト縣）、サンリー（チワーズ縣）、バグネール、ルールド、タルブ）チート、ビレネー縣）、リヨン（ローヌ縣）、ウッズール（チード、サチース縣）、チータン、シヤーロン、シユール、サヲーヌ（サヲーヌ、エ、ロワール縣）、マザース、ラ、サンテー（セーヌ縣）、クーロンミエー、フチンテーヌプロー、モー、ブロウェン（セーヌ、エ、マルス縣）、ウェルサイユ、タンプ（セーヌ、エ、チーズ縣）、ニチール（ドー、セーウフル縣）、アベウヒール、モンジコー（ソンヌ縣）、アルビー、カスト、ル、ガエヤック、ラウチール（タルヌ縣）、ブリギヨール（ウハール縣）、リモージユ（チート、ウヒエンヌ縣）、レミールモン（ウヲスジユ縣）、チークゼレル（イヨンヌ縣）」然レモ此小房獄舍ノ多クニ於テ別離ハ止タ名アルノミ

（二）獄舍及ヒ懲治統計表ニ就テ千八百五十二年ノ部第三十六丁ヲ參看ス可シ

（三）獄舍及ヒ懲治檻統計表ニ就テ千八百六十年ノ部第七十三以下ヲ參看ス可シ

（四）獄舍及ヒ懲治檻統計表ニ就テ千八百六十年ノ部第六十三丁ヲ參看ス可シ

監獄則改正委員我處罰方法中ノ最モ弊害多キ部分タル府縣獄舍ニ就テ新法按ヲハ昨今提出セルニ當リ右ニ陳ブル區域ヲ以テ囚徒ヲ別離スル方法ハ弊害ヲ救濟スルニ足ラストシテ之ヲ拋棄セリ、而シテ其依ル所ハ假令ヒ期限ノ長キ監禁ニ對シテハ小房制度ヲ採用セサルモ期限ノ短キ監禁即チ或府縣獄舍ニ於テ受ケシムル監禁ノ如キニハ小房制度ヲ適用スルヿニ略ト一致シタル所ノ刑法學說及ヒ刑事法律ヲ以テ其法按ノ基本トセリ、此法按ニヨレハ左ノ囚徒ヲ以テ各人別室監禁ニ付セリ

第一　重罪被告人及ヒ輕罪被告人（第一條）

第二　一年一日及ヒ其以下ノ期限ノ禁錮ニ處セラレタル囚徒(第二條)

又此法按ハ(其第三條ニ於テ)一年一日ヨリ長キ期限ノ禁錮ニ處レラレタル者モ自ラ府縣獄舍ノ小房ニ於テ其刑ヲ受ケンコトヲ希望スルトキハ之ヲ許可スルコトヲ定メタリ

又最終ニハ(其第四條ニ於テ)小房ニ於テ刑ヲ受ケシムルニ當リ刑期三ケ月ヨリ長キトキハ其刑期四分ノ一ヲ減スルコトヲ定メタリ(前數一四五九註記一ヲ參看ス可シ)

右有形上ノ別離ノ方法ノ外ニ尚ホ一箇ノ極メテ緊要ナル事務ノアルアリテ之ヲ滿足セメンガ爲メニハ行政官ハ須カラク嚴格ナル注意ヲ加ヘサル可ラス、即チ此獄舍中ニ右ノ混同雜居アルモ其情狀ノ爲スコトヲ許ス可キ丈ケ異ナリタル囚徒ノ地位ガ要求スル所ノ取扱ヒト賞罰則ノ異ナルコトヲ誘致シ保持スルノ事務是ナリ、而シテ此區別ハ特ニ既ニ刑ニ處セラレタル者ト未決拘留者トノ間ニ嚴ニ保持セサル可ラス、然ラサレハ實ニ正理ニ反背スルヲ免レサルヘシ、千八百十四年十月三十日頒布ノ行政規則ハ此點ニ關シ多少制規スル所ナキニ非ス(一)然レトモ我輩ヲ以テ之ヲ見レハ其處分ノ細目ハ甚タ不充分ナルカ如シ、而シテ若シ獨リ監獄長官ノミナラス獄舍ノ官吏凡ソ最モ下等ノ者ニ至ルマテ右二種ノ自由ノ剝奪ヲ區別スル所ノ理ヲ感悟スルノ精神ヲ有セサルトキハ右ノ不充分ハ益々甚シキニ至ル可キナリ

(一)　此規則ニ從ヘハ既ニ刑ニ處セラレタル者ハ重罪及ヒ輕罪被告人ヨリハ最モ嚴格ナル監獄則ニ服セシメラルヽモノトス、乃チ被刑者ハ金錢ヲ所持スルコトヲ得ス、煙草、葡萄酒、及ヒアルコール質ノ飲物ヲ使用スルコトヲ得ス、特別ノ室ニ居住スルコトヲ得ス、又勞役ニ服セラレ獄服ヲ着セサルヲ得ス且其最モ近親ニ非サレハ見舞ヲ受クルヲ得ス但シ特別ノ許可ヲ受クルトキハ此限ニアラス、又獄則ニ背クトキハ規則ニ於テ定ムル所ノ最モ嚴ナル懲罰ヲ受ケシム

右理論上ノ思考ハ姑ラク之ヲ措キ、止タ行政事務執行ノ點ヨリ見ルモ、懲治獄舍ト未決拘留獄舍ト斯クノ如ク相混合スルコトハ甚タ大ナル不便ヲ來タスモノトス、即チ此混合ヨリシテ自ラ懲治獄舍ヲ處々ニ設ケ從テ懲治禁錮ニ處セラレタル者ヲ處々ニ散布スルノ不便是ナリ本來未決拘留獄舍ハ守衛ノ監禁ニ充テラル、モノニシテ各裁判所ノ近傍ニ置カサルヲ得ズ從テ其數甚タ多カラサルヲ得ス、此獄舍ノ數ヲ多クスルコト及ヒ守衛ノ爲メニ拘留セラルノ囚徒ヲ大ニ區別スルコトヲハ之ヲ裁判スル裁判官ノ爲メニハ一箇ノ不便ニアラスシテ却テ大ナル利益ナリトス、然ルニ懲役獄舍ト未決獄舍トヲ混同シ懲治獄舍ト被刑者トヲシテ右ノ數ノ多キコト處々散布スルコトニ與カラシムルハ利益ナクシテ不便ノミナリ、此ノ如ク混合セラレタル獄舍ニ就テセーヌ縣ノ八舍ヲ除クノ外平常三百人以上ノ囚從ヲ有スル者五箇ニ過キス、其二百人以上ヲ有スル者ハ八箇所ニシテ其三十九箇所ハ百人ヲ有シ其百六箇所

ハ平均僅カニ五人ヨリ二十人ニ至ルノ囚徒ヲ入ルノミ(一)而シテ中央行政官カ始メテ府縣獄舍ノ管理ニ任ゼルニ當リテハ此獄舍多クハ極メテ狹隘ニシテ其維持モ甚タ拙劣ニ殆ント規則正シキ文書モナク充分ニ適當ナル官吏モナキホドナリキ(二)、偖テ此ノ如キ有樣ヲ以テ如何シテ懲治禁錮ノ法律ニ符合シタル嚴格ナル組織ヲ爲シ得ルヤ、我治罪法ガ(第六百四條)拘留獄舍及ヒ裁判所附屬獄舍ハ刑ノ執行ノ爲メ建設セラレタル獄舍ト全ク異ナル可キ旨ヲ命シタルハ唯リ理論上止ム可ラサル正理ニ依據シタルノミナラズ同時ニ善良ナル行政上ノ法律ヲ規定シタルモノトス、故ニ此法律ノ實行セラレサル以上、即チ懲治獄舍ハ他ノ獄舍ト全ク別物トナリ從ヒテ其數モ大ニ減少シ懲治禁錮ニ處セラレタル此者ハ獄舍ニ於テ特別ノ組織ノ目的物トナル爲メニ充分ナル數ヲ以テ集合セラレサル以上ハ、懲治禁錮ノ刑ノ執行ハ常ニ不充分タルヲ免カル可ラサルナリ(三)

(一) 獄舍及ヒ懲治檻統計表ニ就テ千八百五十五年ノ部第七十五丁ヲ參看ス可シ

(二) 獄舍及ヒ懲治檻統計表ニ就テ千八百五十二年ノ部第三十九丁ヲ參看ス可シ

(三) 懲治禁錮被刑者ノ數ハ總全數ニテ其平均現數今日ニ於テ二萬人以上ナリトス故ニ爲メニ特別ナル建造物ヲ充ツルニハ恰モ適當ノ數ナリ、此數ヲ各縣ニ平均スレハ一縣ニ付キ二百五十人トナル、而シテ各縣ニ於テ最多數三百人ヲ入ル、ヿヲ得ル一獄舍アルキハ人口ノ極メテ多キ或ル縣ヲ除クノ外ハ充分ニ足ル所トス且ツ此三百ノ數ハ事務ト監獄則ノ關係ヨリ見レハ寔トニ適當ノ割合ニシテ我刑法ノ希望スル所ノ刑ノ執行ヲ爲シ得ヘキナリ、又統計表ニ載スル所ノ各府縣ヨリ出ス懲治禁錮被刑者ノ數ハ疑ヒモナク此分配ノ都合ヲ指シ示ス可キナリ

府縣獄舍ニ關スル法律ノ草按ハ此獄舍ニ小房制度ヲ採用シテ懲治獄舍ト未決拘留及ヒ裁判所附屬獄舍トノ二性質ヲ幷セ有スルヨリ出ル不便ヲ消滅セシメント擬セリ、且ツ一方ニ向テハ(其第三條ニ於テ)一年ヨリ長キ禁錮ニ處セラレタル者ヲ懲治禁錮ヲ執行スル爲メニ特別ニ充テラレタル中央獄舍ニ送附シテ懲治獄年ト懲治獄舍トノ混同ヲ停メントセリ

懲治禁錮ノ刑ニ附屬ス可キ者トシテ刑法第四十條ニ因テ規定セラレタル勞役ハ、セーヌ縣ノ獄舍ニ於テハ全ク組織セラレタリト雖モ、之ヲ除クノ外ハ中央行政官カ初メテ府縣獄舍ノ管理ニ任シタルキニ當リ止タ百〇五ノ獄舍ニ於テ存在セシノミナリキ、其中ニ就テモ勞役ノ方法ヲ組織シタリト云フヿヲ得ル者ハ僅カニ三十九ニ過キサリキ、其他ノ二百七十四ノ獄舍ニ於テハ勞役ハ毫モ存在セサリシナリ(一)、中央行政官カ府縣獄舍ノ支配ヲ取リタルハ千八百五十六年ニシテ此年ヨリ此點ニ關シ進歩ヲ來タシ常ニ繼續シテ止マス乃チ統計表ハ之ヲ證明セリ、千八百六十九年十二月三十一日ノ計算ニ因レハセーヌ縣ノ獄舍ヲ計算

中ニ入レ又今日獨逸ニ屬シタル縣ノ者ヲ除キテ囚徒一萬九千四百四十九人ノ中ニ就テ勞役ニ服シタルモノハ一萬二千三百三十一人アリタリ、尤モ或ル獄舍(其數二十五ヨリ三十ニ至ル)ノ如何ナル勞役ヲモ組織セサル者ナキニ非ス然レ𪜈個ハ人口ノ極メテ少ナキ或ル場所ニ存在スル獄舍ニシテ平常囚徒ノ甚タ少ナキ者ノミナリ(二)此勞役ヨリ出ル利益ノ額ハセース縣ヲ除クノ外他ノ總府縣ニテ千八百五十五年ノ計算ハ一萬五千四百六十六「フランク」ニ過キサリシカ千八百六十年ニハ七十六萬三千七百四十四「フランク」ノ額ニ登リ之ニセース縣獄舍ノ勞役ヨリ生シタル四十三萬零三百「フランク」ヲ合算スレハ總計百十九萬四千零四十四「フランク」ノ多額ニ至レリ又千八百六十九年ニハ此額百七十四萬四千百九十五「フランク」ニ登レリ(三)、而シテ府縣獄舍ニ於テ多ク適用セラレ概ネ一般ニ行ハル、所ノ就後ノ方法ハ企業制作ノ方法ナリトス(四)、然レ𪜈性質ノ正ニ相異ナリタル囚徒ヲ一處ニ集合スルヿ、即チ此獄舍ニ長ク居住スル者又ハ唯一時入獄セル者等ヨリ成リタル異分子集合ノ人口ニシテ、之ニ對シテ行政官ハ同一ノ權力ヲ有スルヿヲ得ス、且其權ヲ破ラサル以上ハ同一ノ規則ニ服セシムルヿヲ得サル所ノ諸種ノ囚徒ヲ同所ニ集合スルヿハ完全ノ勞役ヲ組織スルヿニ關シ法律上及ヒ實際上ニ妨害ヲ及ホスヿ幾何クソヤ、噫々

(一) 獄舍及ヒ懲治檻統計表ニ就テ千八百五十二年ノ部第八十三丁ヲ參看ス可シ

(二) 補遺獄舍及ヒ懲治檻統計表ニ就テ千八百六十年ノ部第五十九丁及ヒ千八百七十年ノ部第八十九丁ヲ參看ス可シ

(三) 我輩ハ此ニ千八百七十年ノ額ヲ擧ケス同年ノ額ハ百四十五万九千二百三十三「フランク」ニシテ斯ク數ノ下リタルモノハ同年ノ事變ヨリ來リタル例外ノ休業ニ基クモノトス、然レ𪜈千八百六十六年ニ於テモ囚徒役ニ就カサル者ノ數ハ尚ホ百人ニ付キ三十人、七〇ナリキ

(四) 獄舍及懲治檻統計表ニ就テ千八百五十六年ノ部第三十一丁及ヒ千八百六十年ノ部第五十八丁ヲ參看ス可シ

(一五三九) 懲治禁錮處斷ノ數ハ我輕罪裁判所ニ於テ宣告セラレタル者ト例外トシテ重罪裁判所ニ因テ宣告セラレタル者トヲ合算シテ、各年平均ノ數ヲ擧ケ四期ニ區別シテ得ル所ノ表ハ乃チ左ノ如シ

懲治禁錮處斷	內一年以上ノ刑期ノ者	內一年以下ノ刑期ノ者
從千八百二十六年至千八百三十年 二八八六二	七三九九	二一四六三
從千八百三十一年		

至千八百五十年	五一四〇九	八七二二	四二六八七
從千八百五十一年 至千八百六十年	九八二五八	一二一三九	八六一一九
從千八百六十年 至千八百六十五年	八七〇〇二	九四四二	七七五六〇

故ニ禁錮處斷ノ全數ハ第一期ヨリ第三期ニ至ルノ間、即チ三十五年ノ年數間ニ三倍餘ニ至リタルナリ、第四期ハ第三期ニ比スレハ多少減少セサルニ非サレ𪜈今日ニ至リテハ又大ニ增加セリ(一)斯ク次第ニ數ノ增加シツヽアル禁錮者ヲ懲役及ヒ其他ノ刑ニ處セラレタル者ト共ニ我中央獄舍ニ入ル、ニ由リテ此獄舍ハ大ニ充滿シ年々其建造物ノ積面ヲ增加セサルヲ得サルニ至リ(二)從テ一年ヨリ長キ期限ノ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ直チニ中央獄舍ニ入ル可キ者ヲ一ケ月若ク數月ノ間、府縣獄舍ニ置キテ中央獄舍ニ空所ノ生スルヲ待タシメサルヲ得サルニ至レリ、嗚呼是レ刑罰ヲ行フ場所ニ人ヲ入ル、ノ地ナキナリ、歎ス可キ哉然レ𪜈現今ニ於テハ中央獄舍ノ建造積面充分ニシテ不足ヲ來サヽルニ至レリ」此禁錮ニ處セラレタル者ニ就テ或ル一部分ハ或ハ犯罪ノ性質ノ理由ヨリシテ(例ヘハ新聞條例出板條例違犯又ハ國事犯)或ハ本人ノ身分ヨリシテ、例外ニ府縣獄舍ニ於テ其刑ヲ受クルヿヲ許可セラル、者アリ、而シテ其數ハ年々甚タ異ニシテ時トシテハ稍〻大數ニ登ルヿアリ(統計表ニ依レハ千八百五十二年ニハ千八百八十九人ニシテ千八百六十年ニハ三百四十九人又千八百七十年ニハ止タ七十人ニ過キサリキ)ドウソンヴィール氏曰ク、此不同等ハ次第ニ減少セリ、但シ個ハ人ノ非難シ得サル所ノ不同等ナリトス、何トナレハ是レ由リテ以テ種類ノ異ナリタル人ヲ雜居セシムルヨリ生ズベキ悲哀ス可キ結果ヲ避クレバナリト、而シテ右ノ如ク府縣獄舍ニ、居留スルヿヲ許可セラレタル者ハ自ラ其費用ヲ辨スルモノトス

(一) 千八百六十九年ニ於テハ禁錮處斷ノ全數九萬八千九百五十六(九八九九六)ニシテ內一年ヨリ長キ刑期ノ者八千三百零八(八三〇八)一年以下ノ者九万零六百八十八(九〇六八八)ナリ、又千八百七十二年ノ數ハ十万零八千百四十三(一〇八一四三)ナリトス、然レ𪜈我輩カ既ニ死刑ニ關シテ辨シタルカ如ク(前數一五二二註記)此年ハ是レ例外ナリトス

(二) 此積面ハ千八百五十六年ニ於テ通常二万千百人ヲ容ル、ニ至リシカ(獄舍統計表千八百五十五年ノ部第十七丁ヲ參看ス可シ)爾來尙ホ增加セラレタリ、然レ𪜈我中央獄舍ノ弊害ハ全ク囚徒ヲ入ル、ノ割合甚タ多キニ過キテ嚴格ナル改正ヲ施スヲ妨クル

ニアリトス、フチントヴフロールノ獄舍ハ四徒千八百人ヲ入ルヽニ足ル、斯クノ如クナルカ故ニ監獄長官言ヘルヿアリ個ハ既ニ懲治監獄場ニアラスシテ一箇ノ集合隊ナリト（一五四〇）違警罪禁錮（アンプリヅンスマン、ド、サンプル、ホリス）（一）」此禁錮ハ其期限甚タ短カクシテ唯痛若其物ノミニ由リテ犯者ヲ改心セシムルニ止マリテ他ニ之ヲ改心セシムルノ作用ヲ有セサルノ刑ナリ、從テ犯人ニ服役ヲ科セサルモノトス、又此刑ヲ受ケシムル所ノ場所ハ町村獄舍（プリヅン、ミユニシパール）ト呼ハル、獄舍ニシテ其創建ニ至リテハ毫モ法律ノ特別ノ正文アルヲ見スト雖モ、行政上及ヒ刑ノ執行上ヨリシテ已ム可ラサルノ事件トシテ生シ來リシナリ、此獄舍ハ通常治安裁判所ノ存在スル各郡ニ一箇所アリ是ヨリシテ此獄舍ニ時トシテハ郡獄舍（プリヅン、カントナール）又ハ郡檻倉（ジェナール、ド、カントン）ノ名ヲ與フ、且ツ其他或ル人口ノ多キ町村ニ於テハ此獄舍ヲハ唯リ違警罪禁錮執行ノ用ニ供スルノミナラス、尚ホ被告人ノ縛ニ就キタル者又ハ被刑者ニシテ他ニ送附セラル可キ者ヲ一時拘留スルノ用ニ供ス、又或ル場所ニ於テハ町村獄舍ハ未決拘留獄舍ノ附屬タリ

（一）刑法第四百六十四條（違警罪ノ刑ハ左ノ如シ

禁錮

罰金

及ヒ差押ヘタル或ル物件ノ沒收）

同第四百六十五條（違警罪ニ對スル禁錮ハ以下特記シタル等級、區別及ヒ場合ニ從ヒ一日ヨリ少キヿヲ得ス又五日ヲ超過スルヿヲ得ス

禁錮ノ日ト稱スルハ二十四時ヨリ成レル完全ノ日ヲ云フ

違警罪裁判所ニ因テ宣告セラル、違警罪禁錮ノ數ハ我四期ノ區別ニ從ヒ年々平均ノ數左表ノ如シ

	一年平均ノ數
從千八百二十六年至千八百三十年	五四九二
從千八百二十一年至千八百五十年	九五一九
從千八百五十一年至千八百六十年	二七六六八

從千八百六十一年
至千八百六十五年　三五三六二

故ニ違警罪禁錮處斷ノ數ハ第一期ヨリ第四期ニ至ルマテ增加シテ六倍餘ニ至レリ、而シテ此增加ハ尙ホ年々繼續シテ止マサルナリ、我輩ハ此點ニ關シ既ニ前數六百九十三(六九三)ノ項ニ於テ具サニ之ヲ辨シタルヲ以テ復ニ贅セス

(一五四一)　十六歲未滿ノ幼年被刑者ニ適用スル懲治禁錮、及ヒ十六歲未滿ノ幼年放免者ヲ懲治獄舍ニ於テ養育スル爲メニ之ヲ適用スル拘禁」　我輩ハ右ノ處分ノ名稱ヲ刑法第六十六條第六十七條及ヒ第六十九條ヨリ取レリ、而シテ法律上此二ツノ處分ハ全ク相別離セル者タルニモ拘ハラス我輩カ此ニ之ヲ集合シタルハ今日此件ヲ支配スル所ノ夫ノ千八百五十年八月五日及ヒ十二日ノ法ニ於テ既ニ之ヲ集合シテ制規シタルカ故ナリ(一)

(一)　千八百五十年八月五日及ヒ十二日創定幼年囚徒ノ敎育及ヒ庇保ニ關スル法

第一條　重罪輕罪及ヒ租稅法違犯ニ因リ又ハ父母ヨリ出願スル矯正ノ方法トシテ拘禁セラルヽ幼年者ハ男女共、其逃走ヲ防ク爲メノ拘禁中ニモセヨ其懲治場留置中ニモセヨ道德、宗敎及ヒ職業上敎育ヲ受ク可シ

第二條　未決拘留獄舍及ヒ裁判所附屬獄舍ニ於テハ總テノ階級ノ幼年囚徒ニ特別ニ區域シタル部分ヲ充ツヘシ

第三條　刑法第六十六條ニ照シ是非ヲ辨別セスシテ所爲ヲ行ヒタリトシテ放免セラルト雖モ其親屬ニ引渡サレサル幼年囚徒ハ悔悟殖民場ニ送致セラル可シ、此囚徒ハ同處ニ於テ他囚ト共ニ嚴正ナル獄則ノ下ニ養育セラレ農業ノ勞務幷ヒニ之ニ附屬スル所ノ重モナル工業ニ使用ラセル可シ、又同處ニ於テ敎學初步ヲモ受ク可シ

第四條　悔悟殖民場ハ亦刑期六月ヨリ長ク且ツ二年ヲ超過セサル禁錮ニ處セラレタル幼年囚徒ヲモ入ル可シ」　始メノ三ケ月間ハ此幼年囚徒ハ特別ニ區域シタル部分ニ閉鎖セラレ且ツ坐シテ爲スヿヲ得ヘキ勞役ニ使用セラル可シ」　此期限經過シタル片ハ同場支配人ハ囚徒ノ善良ナル行狀ヲ檢案シ殖民場ノ農事勞務ニ就クヿヲ許可スルヿヲ得

第五條　悔悟殖民場ハ公立又ハ私立ナリトス」　公立殖民場ハ政府ニ因テ設置セラレ其支配人ハ政府自ラ命ス」　私立殖民場ハ政府ノ許可ヲ得テ人民ニ因テ設置セラレ且ツ指揮セラルヽモノトス

第六條　本法頒布以向五年間幼年囚徒ノ爲メニ悔悟殖民場ヲ建設センヿヲ欲スル所ノ人民若クハ會社ハ內務卿ニ向テ其許可ノ請願ヲ爲ス可シ又此請願書ト共ニ其建設ノ圖

式、及ヒ其內部ノ規則方法ヲ出ス可シ」內部卿ハ幼年囚徒ノ定マリタル或ル數ノ守衛、養育及教育ニ關シ此許可ヲ得タル殖民場ト條約ヲ爲スヿヲ得ヘシ」以向五年ヲ經過シテ若シ幼年囚徒ノ全數ヲ私立殖民場ニ置クヿヲ得サルニ至リタル片ハ政府ノ費用ヲ以テ悔悟殖民場ノ建設ヲ爲ス可シ

第七條　總テ私立ノ悔悟殖民場ハ政府ニ因テ承認セラレタル支配人ニシテ懲治獄舍ノ支配官ト同一ノ威權ヲ與ヘラレタル責任アル支配人ニ因テ支配セラル可シ

第八條　總テ悔悟殖民場ニハ左ノ人員ヲ以テ組織シタル監督議會ヲ設置ス

府縣令代人

僧侶裁判區ノ僧官ニ因テ指名セラレタル僧侶一人

府縣會ヨリ指出シタル代人二人

民事裁判所ノ官員一人但シ此委員ハ同僚ノ官員撰擧ス

第九條　悔悟殖民場ノ幼年囚徒ハ試驗ノ名義ヲ以テ且ツ行政規則ニ因テ定メラレタル條件ニ從ヒ假リニ殖民場外ニ置カルヽヿヲ得ヘシ

第十條　佛良西內地若クハアルゼリーニ左ノ囚徒ヲ送致シ養育スル所ノ德治殖民場一箇若クハ數箇ヲ建設ス可シ

第一　刑期二年ヨリ長キ禁錮ニ處セラレタル幼年囚徒

第二　悔悟殖民場ノ幼年囚徒ニシテ不從順ト論告セラレタル者

此論告ハ支配人ノ發議ニ因リ監督議會ニ於テ之ニ與ヘ內部卿ノ承認ニ付セラル可シ

第十一條　前條ノ懲治殖民場ノ幼年囚徒ハ始メノ六ケ月間禁錮ニ服セシメラレ坐シテ爲スヿヲ得ヘキ勞役ニ使用セラル可シ」

此期限經過シタル片ハ同場支配官ハ囚徒ノ善良ナル行狀ヲ檢案シ殖民場ノ農事勞役ニ使用スルヿヲ許可スルヿヲ得ヘシ

第十二條　前條ニ記載シタル處分ヲ除クノ外本法ニ因テ悔悟殖民場ニ對シテ定メタル規則ハ懲治殖民場ニモ之ヲ適用ス可シ」

アルゼリーニ建設セラルー懲治殖民場ノ監督議會ノ委員ハ其數五人ニシテ縣令ニ因テ指名セラル可シ

第十三條　殖民場支配人ハ本法第九條及ヒ第十一條ニ從テ取リタル處分ヲ監督議會ニ報告ス可シ

第十四條　悔悟殖民場及ヒ懲治殖民場ハ其他ノ控訴裁判所ノ檢事ノ特別ナル監督ヲ受クルモノトス又同檢事ハ年々之ニ巡視スルノ任アリ」又同場ハ其他ニ年々內部卿ノ

命シタル大監察ノ巡視ヲ受ク」　内部卿ハ毎年此殖民場ニ關スル一般ノ報告書ヲ國會ニ提出ス可シ

第十五法　本法ニ因テ悔悟殖民場ノ創設、制度及ヒ監督ニ關シテ定メラレタル規則ハ次條以下ニ記載シタル變更ヲ除クノ外幼年女囚ヲ入ル、爲メニ充テラレタル悔悟獄舍ニモ之ヲ適用ス

第十六條　悔悟獄舍ハ左ノ囚徒ヲ入ル、處トス

第一　父母ノ出願ニ因リ矯正ノ方法トシテ拘禁セラル、幼年女囚

第二　刑期ノ長短ニ關セス禁錮ニ處セラレタル十六歳未滿ノ幼年女囚

第三　是非ヲ辨別セスシテ所爲ヲ行ヒタリトシテ放免セラルルモ其親屬ニ下附セラレサル幼女

第十七條　悔悟獄舍ニ拘禁セラル、幼女ハ嚴格ナル獄則ノ下ニ養育セラレ婦女ノ性ニ適當ナル勞役ニ使用セラル可シ

第十八條　悔悟獄舍ノ監督議會ハ左ノ會員ヨリ組織セラル

僧侶裁判區ノ僧官ニ因テ命セラレタル僧侶一人

府縣令ノ命シタル婦人四人

內務卿ノ名ヲ以テ爲ス可キ監察ハ爲メニ命セラレタル婦女監察官之ヲ行フ

第十九條　本法第三條第四條第十條及ヒ第十六條第二項第三項ニ記載シタル幼年囚徒ハ其放免出獄ノ時ニ於テ少ナクモ三年間救育會ノ保庇ノ下ニ置カル可シ

第二十條　左ノ費用ハ政府ノ負擔ナリトス

第一　懲治殖民場及ヒ悔悟殖民場幷ヒニ獄舍ノ用ニ供スル建造物ノ創設及ヒ維持ノ費用

第二　政府ヨリ幼年囚徒ヲ附托スル所ノ私立殖民場ニ與フ可キ保護金

第二十條　行政規則ハ左ノ件ヲ規定ス可シ

第一　幼年囚徒ノ懲治及ヒ教育ニ充テラレタル公立建設場ノ獄則制度

第二　幼年囚徒放免出獄ノ後ニ係ル保庇ノ方法

千八百五十年八月五日及ヒ十二日ノ法ハ其處分中ニ幼年者ニ及ホス所ノ禁錮ノ諸種類ヲ舍蓄ス、即チ其第一ハ父母ノ權ノ執行ヨリ出ル禁錮ニシテ個ハ純粹ニ刑法ニ屬スル所ノモノニ非ス（本法第一條及ヒ第十六條）其第二ハ重罪輕罪ノ幼年被告人ニ對スル禁錮ニシテ個ハ治罪手續ノ必要ニ關スルモノ、ミ（本法第二條）、又其最ニハ二ツノ種類ノ禁錮ニシテ我輩

カ今此ニ辨明セント欲スル所ノ者ナリ

此二種ノ禁錮ニ關シテ法律ニ記載スル所ニ因レバ、建設ヲ四箇ニ類別セサル可ラス而シテ男女ノ幼年者ニ係ル所ノ二箇ノ大別アリ

第一、刑期六ケ月ヲ超過セサル禁錮ニ處セラレタル幼年男囚ニ對シテハ未決拘留獄舍又ハ裁判所附屬獄舍、但シ特別ニ區域ヲ置キテ之ヲ入ル(一)(本法第二條)

第二、刑法第六十六條ニ照シ放免セラレタレドモ其親屬ニ下附セラレサル幼年男囚、及ヒ刑期六ケ月以上二年以下禁錮ニ處セラレタル幼年男囚ニ對シテハ悔悟殖民場(本法第三條及ヒ第四條)

第三、刑期二年ヨリ長キ禁錮ニ處セラレタル幼年男囚、及ヒ不從順ナリト申告セラレタル悔悟殖民場ノ幼年男囚ニ對シテハ佛蘭西內地又ハアルゼリーニ建設セル懲治殖民場(本法第十條)

第四、(最終ニハ)總テノ幼年女囚ニ對シテハ部類ノ區別ナキ悔悟獄舍(本條第十六條)

(一) 府縣獄舍ニ於テ此法條ヲ實行セサル者甚タ多シ、然レ𪜈前既ニ擧ケタル小房制度ヲ再設セント欲スル所ノ法律ノ草按ハ幸ニ此因難ヲ排除スルニ至レリ

故ニ右ノ拘禁ノ一二ニ關シ我輩ノ見ル所ニ因レハ甚タ不適當ニ使用セラレタル未決拘留獄舍及ヒ裁判所附屬獄舍ヲ除クヰハ法律ヨリ出ル特別ノ設置ニ係ル者ハ其數二箇ナリトス、

男囚ニ對スル悔悟殖民場ト懲治殖民場及ヒ女囚ニ對スル悔悟獄舍是ナリ

法律ノ取リタル方法ハ、第一ノ者ニ對シテ農事殖民場ノ方法、第二ノ者ニ對シテハ婦女ノ性ニ適當スル坐シテ爲スヿヲ得ヘキ勞役アル獄舍ノ方法ナリトス、實際ニ於テハ幼年囚徒ノ農業地方ヨリ來リタルトキ工業地方ヨリ來リタルトニ從ヒ法律ニ記載シタル勞役ヲ多少變更セサルヲ得サルニ至ル可シ、蓋シ法律ニ記載シタル勞役ノ性質ハ甚タ偏シタル所アリトス(前數一四八五參看)

本法ハ右ノ建設ヲ直チニ爲スヿヲ命セスシテ其建設物ノ種類ニ關シ公立ト共ニ私立ノ來ルヿヲ採用セリ(第五條及ヒ次條幷ヒニ十五條)而シテ尙ホ五年ノ期限ヲ與ヘ此期限ヲ經過シテ私立建造物ノ不足ヲ告クル時ニ當リ政府ノ費用ヲ以テ悔悟殖民場又ハ悔悟獄舍ヲ建造スルヲ規定セリ(第六條及ヒ第十五條)、然リ而シテ此期限ハ既ニ經過セリ、然レ𪜈此ノ如キ建設ヲ實際ニ施スヿハ必ス或ル時間及ヒ或ハ經驗ヲ要スルニ因リ此期限ハ嚴格ニ履行セサル可ラサルモノトハ思考セラレサリキ、行政官ハ乃チ或ハ私郡建設ヲ奬勵シ或ハ自ラ處分スル所アリテ年々次第ニ本法ノ目的ヲ完全スルヿヲ繼續シテ追求セリ

(一五四二) 我輩ハ千八百五十年ノ法ニ對シ三箇ノ甚タ緊要ナル點ニ於テ刑法學問ノ元則

ト抵觸シタルヿヲ非難スルヿヲ得ヘシト信スルナリ」第一ノ點ハ、我行政上ニ於テ殆ント慣習トナリタル守衛ノ爲メノ監禁ト刑ノ爲メノ監禁トノ混合、即チ未決拘留或ハ裁判附屬ノ獄舍ト刑ノ執行ノ獄舍ト混雜是ナリ、抑モ此未決拘留又ハ裁判所附屬ノ獄舍ハ我刑法ノ正文ニ照セハ刑ノ執行ノ爲メノ獄舍ト全ク別離セサル可ラス、然ルニ千八百五十年ノ法ハ法律自ラ幼年囚徒ノ一部ニ對シ此混合ヲ爲セリ、而シテ其制規スル所ノ區域ヲ立ツルヿハ此混合ヨリ出ル所ノ弊害ヲ防クニ足ラサルナリ」第二ノ點ハ、正理ノ點ヨリ見ルモ、我刑法ノ正文ニ照ラスモ、全ク別離セサル可ラサル二囚徒ノ種類、即チ刑ニ處セラレタル幼年者ト放免セラレタル幼年者トヲ實際上區別セサルヿ是ナリ(前數二七一、一四二四及ヒ一四二五、又一四八三及ヒ一四八五參看)、幼年男囚ニ對スル悔悟殖民場ハ勿論、懲治殖民場ニ至ルマテ此二種ノ囚徒ヲ含蓄ス、即チ放免セラレタル幼年者ヲ悔悟殖民場ヨリ懲治殖民場ニ移ラシムル爲メニハ止タ不從順ノ申告ノ足ル所ニシテ刑期二年ヨリ長キ禁錮ニ處セラレタル者ト混同雜居セシム、幼年女囚ニ關シテハ此種ノ混合益〻甚シ、即チ同一ノ悔悟獄舍ニシテ部類等級ノ區別ナク凡テノ幼年女囚ヲ入ル、尤モ幼年被刑者ノ數ハ極メテ少ナシトス、千八百七十年ニハ止タ二十三人ニ過キサリキ、又既ニ建造物ノ同一ナルノミナラス取扱制度ニ關シテモ如何ナル區別モアルヿナシ、法律ハ止タ悔悟殖民場ニ於テ被刑者ニ科スル當初三ケ月幽閉ヲ定メタルノミ(一)(法ノ第四條)而シテ各此期限ヲ過クルトキハ直チニ取扱制度ハ皆ナ同一トナルナリ、此混合ハ私創建設ニ特ニ甚シク既ニ極度ニ達セシカ行政上ノ精神ノ傾向ハ尚ホ之ヲ增加セントスルニアリ、是ニ於テ余ハ問ハントス、此ノ如クセハ我刑法ハ果シテ如何ニ成リ行クベキヤ、卿等ハ果シテ如何ナル動力ヲ刑法ニ與ヘント欲スルヤト、又余ハ此ノ如キ方法ニ於テハ放免ト被刑トノ語ハ如何ナル意義ヲ有スルヤト問ハント欲スルナリ、而シテ被刑者ニ對シテ公ケノ刑ノ性質ヲ有スル嚴格ノ取扱制度ヲ具ヘタル所ノ特別ノ建設アラサル以上ハ必ス右ノ問ヲ爲サヽル可ラサルナリ(此被刑者ノ數ハ甚タ多キニ過クルニ至ラス、千八百七十年ノ現數ハ百四十九ナリトス、故ニ寔トニ特別ノ獄舍創設ニハ適當スルモノトス)、現今ニ在リテハ處斷ヲ宣告スル我重罪及ヒ輕罪裁判所ノ裁判ハ反對ノ意義ヲ有スルモノニ過キス、即チ裁判官ハ是レヲ放免シ彼レヲ處罰ス、而シテ被放免者ハ其年齡二十歲ニ至ルマテ被刑者ハ僅カニ數月或ハ數年ノ間同一ノ制度ノ下ニアリテ同一ノ處分ヲ受ク(前數一四八五註記參看)、寔トニ法律ニ因テ命セラレ陪審又ハ裁判官ニ因テ爲サルヽ區別ト執行及ヒ行政官ノ爲ス所ノ區別トノ間ニ明確ナル撞着アリトス、故ニ我輩ハ人或ハ刑法ヨリ出ル此區別ノ廢棄ヲ主張スル者アルヲ見ルモ肯テ驚カサルナリ、然レトモ眞理ニ適スル者ハ刑法ニシテ執行ニ關スル法律及ヒ規則ハ之ト符合スルヿヲ力メサル可ラサル也

(二)　第二ノ點ハ第一ノ點ト連結スル所ノモノニシテ、即チ千八百五十年ノ法ハ懲治殖民場ノミヲ一ニ府ノ建設ニ係ラシメ其悔悟殖民場ト悔悟獄舍トニ關シテハ人民ノ建設ヲ採許シテ其拘禁ノ原因ヲ區別セス、是レ人民ニ附托スルニ唯リ放免セラレタル幼年者ノ矯正教育ヲ以テスルノミナラス、尙ホ之ニ加フルニ幼年被刑者ノ刑ノ執行ヲモ以テスルナリ、而シテ教育ヲ附托スルハ善良ノ處分タリト雖モ刑ノ執行ヲ附托スルニ至テハ公刑ノ性質ニ背スルモノトス(前數一四八三參看)、本來法律ハ囚徒ヲ配置スルヿニ行政官ノ自由ニ任ス反ルカ故ニ行政官ハ私立建設場ニハ放免セラレタル幼年者ノミヲ送附シ公立建設場ニハ幼年被刑者ヲ置キテ右ノ法律ノ短處ヲ矯正スルヿヲ得ヘシ、然レトモ我輩ハ實際ニ於テ行政官カ此方針ヲ執リテ法律ノ執行ヲ爲サヽルヿヲ見ル、何トナレハ千八百七十年十二月三十一日ノ計算ニ因レハ公立建設場ノ人口ハ男女幼年囚徒ノ數千二百十一アリテ內被放免者千百二十七被刑者八十四ニシテ而シテ私立建設場ノ人口ハ男女幼年囚徒ノ全數六千二百八十一中被放免者六千三百十六被刑者六十五ヲ算セシカ故ナリ(三)

(二)　監獄則改良委員ノ證スル所ニ彼レハ實際ニ於テハ此規則ヲ之ヲ實行セストヿフ

(二)　然レトモドウソヴィール氏ハ其報告中ニ左ノ如ク言ヘリ、無形的ノ點ヨリ見レハ被放免者ト被刑者ノ間ニ嚴正ナル差異アルヿナシ何トナレハ裁判官ノ放免ヲ宣告スルハ厚懲治教育ニ附センカ爲メニ之ヲ爲セハナリト

(三)　獄舍統計表ニ就テ千八百七十年ノ部第二十四丁第三表圖ヲ參看ス可シ　年々平均ノ數ヲ見ルニ非スシテ止タ現數ヲ見ルニ係ルトキハ千八百七十年ノ統計表ニ依ルノ足ルノ所トス

(一五四三)　我輩ハ既ニ刑事裁判ノ統計表ニ從テ十六歲未滿ノ幼年者ニ對スル公訴ノ數ト判決ノ數トヲ擧ケタリ(前數二〇一參看)依テ今此ニハ內務省ノ統計表ニ從テ右ノ公訴判決ヨリ出タル囚徒ノ數即チ執行ニ充テラル、建造場ノ人口ノ數ヲ擧ケザルヘカラス、我輩ハ既ニ十六歲未滿ノ幼年者ニ對スル公訴ノ數ト裁判所カ禁錮ニ處斷スル場合ト特ニ之ヲ懲治教育ノ建設場ニ送附スル場合トカ數年以來又特別ニ千八百五十年ノ法頒布ヨリ千八百五十四年ニ至ルマテ甚タ速カニ增加進歩シ次キニ少シク退歩シテ千八百五十五年ヨリ減少シタルヿヲ見タリ、然ラハ之ニ通スル所ノ變動カ少シク時ヲ異ニシテ必スヤ幼年囚徒ノ現數ニ來ラサルヲ得サルヘシ、故ニ千八百三十七年ハ統計表ニ於テ幼年囚徒ノ數ヲ擧ケタル最初ノ年ニシテ此年ノ十二月三十一日ノ計算ニ依レハ其數千三百三十四人ナリシカ爾來此數年々繼續シテ增加シ千八百五十五年十二月三十一日ニハ九千八百十八ノ數ニ至レリ是レ

十八年間ニ於テ七倍餘ノ數ニ達シタルナリ、此進歩增加ハ畢竟被告ノ數ノ之ニ通スル增加ヨリ來リタリト雖モ被告ノ數增加ニ比スレハ遙カニ其上ニ出タリ(前數三〇一參看)而シテ個ハ重モニ裁判所カ昔日ニアリテハ幼年者ノ爲メニ矯正ノ場所トナラスシテ敗壞ノ場所トナラントスルノ恐レアル建設場ニ幼年者ヲ送附スルニ係ルカ故ニ此送附ヲ猶豫セシカ爾來幼年囚徒ニ充テラル、建設場ト其取扱制度トカ日一日ヨリ法律ニ示サレタル目的ニ近ツキタルヲ見ルニ從ヒ裁判所ハ甚タ大數ニ且ツ長キ時間ヲ以テ此種ノ禁錮又ハ拘禁ヲ命スルニ至リシカ故ナリ、然レモ此傾向ハ遂ニ其割合甚タシクナリテ從テ政府ノ爲メニハ甚タ重キ負擔トナリタルニ由リテ內務卿ト司法卿トハ此傾向ヲ緩ニシ因テ容易ニ生シ得ル所ノ弊害ヲ豫防スルノ方法ニ關シ協議セサルヲ得サルニ至リタリ(一)、而シテ千八百五十五年裁判所ヨリ送附スル幼年囚徒ノ數ノ少シク減少シタルハ偏ヘニ右ノ理由ニ因テナリトス、從テ次年ヨリ此時季迄常ニ增加シテ止マサリシ囚徒ノ現數少シク減少スルニ至リヌ今此ニ平均數ヲ以テ各期ノ比較ヲ示ス可シ其結果ハ右ニ論スルカ如ク我輩ニ既ニ之ヲ知レリ

從千八百三十七年 至千八百五十年	三、〇二八 十二月三十一日ノ現數平均
從千八百五十一年 至千八百六十年	八、五一九
千八百六十九年	八、〇三四(二)

(一) 獄舍及ヒ懲治檻統計表ニ就テ千八百五十五年ノ部第五十一丁及ヒ千八百五十六年ノ部第三十一丁ヲ參看ス可シ

(二) 此數ノ中ニ止タ父母ノ權執行ノ爲メニ拘禁セラル、幼年者ノ或ル數ヲモ含蓄ス千八百七十年ノ數ノ甚タ減少シテ六千七百六十五ニ過キサルハ例外ノ場合ヨリ來リタルモノトス、又其他讓與シタル土地ニ存在スル六箇ノ私立建設場ニ屬スル幼年囚徒ノ數四百八十一ヲ舊現數ヨリ控除セサル可ラス

右ノ增加ニ就テ人若シ法理ニ從ヒ禁錮ニ處セラレタル被刑者(刑法第六十七條及ヒ第六十九條ニ照シ)ト懲治敎育ノ拘禁ニ服セラレタル被放免者(刑法第六十六條ニ照シ)トノ間ニ存スル所ノ根本ノ差異ヲ爲サヽル可ラストセハ、即チ辞ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ、之カ比較ヲ爲サヽル可ラストセハ、被刑者ノ數ハ被放免者ノ數ヨリ遙カニ少ナキヿヲ見ル可シ、則チ千八百七十年十二月三十一日ノ計算ニ係ル幼年男女囚ノ全數ヨリ父母ノ權ノ執行ニ因リ拘禁セラル、者ニシテ本論ノ目的ニ屬セサル所ノ囚徒百七十三人ヲ控除スレハ刑法ノ適用ヨリ出

タル囚徒ノ總數六千三百九十二ナリトス而シテ內被刑者ハ止タ二百三十九ニシテ被放免者ハ六千三百五十三即チ被刑者ハ百分ノ三ニシテ被放免者ハ百分ノ九十七ナリ」又幼年女囚ハ右ノ數ノ中ニ就テ被刑者十三人被放免者千百十八人アリ、又地方ヨリ來リタル人口ヲ市街ヨリ來リタル人口ニ比較スレハ少シク其半數ニ超過ス(地方ヨリ來リタル幼年男女囚三千八百九十五人、市街ヨリ來リタル者二千八百九十四人、其定マリタル住所ナキ者四百三十六人)(一)

(一) 獄舍及ヒ懲治檻統計表ニ就テ千八百七十年ノ部第百四十六丁第五表圖ヲ參看スヘシ

(一五四四) 正理ノ關係ヨリ見ルモ、囚徒ノ心ニ及ホス影響ノ關係ヨリ見ルモ曾テ府縣獄舍ニ於テ幼年者ニ對スル拘禁ヲ執行シタル方法ノ如ク不幸ニシテ憂哀ス可キ者ハアラサリキ、爾來此點ニ關シ次第ニ改良スル所アリテ今日尙ホ改正變更ヲ止メスト雖モ此改良前ニアリシ執行方法ノ如ク憂哀ス可キ者ハアラサリシナリ、而シテ其憂哀ス可キノ甚シキヤ却テ晝夜ノ小房監禁ヲ一箇ノ恩惠ト思考セサルヲ得サルニ至リタリ、即チ巴里府ロケットノ獄舍及ヒ或ル府縣獄舍ニ於テ幼年囚徒ノ大半ハ公刑ヲ適用スル爲メニハ充分ニ是非ヲ辨別セスシテ所爲ヲ行ヒタリトシテ放免セラレタルモノニ適用スル甚タ期限ノ長キ晝夜ノ小房監禁ナモ一箇ノ恩惠ト思考セサルヲ得サルニ至リタリ、亦以テ曾テ府縣獄舍ニ於テ幼年者ニ對シテ行ヒタリシ拘禁ノ弊害多カリシヲ見ル可キナリ、然リ而シテ此ロケットノ獄舍ハ巴里府カ特ニ幼年囚徒ノ爲メニ開キタル所ニシテ千八百三十六年九月ヲ以テ幼年囚徒ヲ此ニ移シ千八百三十八年ヨリ不斷小房監禁ノ方法ヲ採用シ千八百四十年ヨリ此方法ヲ總テノ囚徒ニ適用シタル者ニシテ實ニ爾來許多ノ改良ハ大低其本源ヲ茲ニ取レリ實ニ此種ノ拘禁ニ附屬セサル可ラサル恩惠ノ事業又之カ進歩ヲ奬勵シタルノ本源ナリ

本來此幼年囚徒ニ對シ晝間夜間ノ小房監禁ヲ施スハ此方法ニ關スル錯誤ノ適用ナリト云ハサルヲ得ス(前數六八五及ヒ次數參看)、然レ𪜈幸ヒニ此獄舍ハ千八百六十五年ノ末期以來其大部分ニ於テ幼年囚徒拘禁ノ用ニ供セラレサルニ至レリ、即チ千八百五十年ノ法ニ從ヒ農事殖民場ニ充テラル、幼年囚徒ハ之ヲ此獄舍ヨリ出シ此殖民場ノ一二ニ分配シタリ、此ノ如キ法律ニ反背シタル拘禁ヲ止メシムル爲メニ清族ヨリ來リタル希望ト發議トヲ要シタリキ然ルモ尙ホ多少抵抗スル者ナキニアラサリシナリ、皇后自ラ會長トナリテ集合シタル清族ノ委員會ニ於テ議論一致セスシテ而シテ我輩ノ聞ク所ニ依レハ投票二派ニ別レテ遂ニ右ノ決定ノ勝ヲ制シタルハ會長ノ言ニ因テナリシト云フ、此會長ノ言ハ實ニ道理ノ言ハシムル所、法律ノ言ハシムル所ナリ、然レ𪜈尙ホロケットノ獄舍ニハ

十六歳未滿ノ重罪輕罪被告人ト刑期六ケ月ヲ起過セサル禁錮ニ處セラレタル幼年囚徒トヲ合蓄ス(前數七〇五參看)

幼年囚徒ノ運命ノ改良ノ基ツキタルハ人民ノ寛仁ナル着手ニアリ、而シテ此着手ハ我邦ニ於テハ甚タ多カラストス、既ニ千八百十七年ニ於テ第一ノ試驗ノ爲メノ着手アリテ巴里府ハ幼年囚徒ノ或ル數ノ懲治教育ノ爲メニグレス街ノ一建造物ヲ供シタリシカ此着手モ或ル慈善家ノ會社ヨリ出テタリ而シテ此着手ハ千八百三十一年ニ於テハマドロチウトノ獄舍ニ其結果ヲ生シ、其後、千八百三十六年ニハラ、ロケットノ特別獄舍ニ其結果ヲ現ハシタリ」然レモ我輩ハトールノ近傍ナルメットレーノ殖民場ノ開基ハ最モ確實ナル進歩ヲ爲シタリト云フ可シ、此殖民場ハ千八百三十九年ニ於テ此事業ニ自己ノ精神、身体、財産ヲ擧ケテ勉力セラレタルメツツ及ヒクールテーユ両氏ノ創設ニ係ル而シテ此両氏ノ事業ハ佛蘭西ハ勿論、外國マテナモ鼓舞シ且ツ屢々摸範トナルニ至レリ」其他ノ殖民場ハ各地方處々ニ於テ創設セラレ又幼女ノ爲メニハ尼寺及ヒ避身所等ノ類開設セラレタリ、私立ニ係ル此建設ノ共進ハ行政權ノ取リタル慣例ニ因テ奬勵セラレ又行政權ハ如何ナル法律ノ正文モ此慣例ヲ認メタルフナキ前ヨリシテ之ヲ次第ニ廣ク適用シタリ而シテ此慣例トハ保助金又ハ日當ヲ與ヘテ幼年囚徒ヲ獄舍外即チ人民カ若クハ前話說シ來リタル所ノ建設場ニ附托スルノ慣例ナリ、此日當ハ概ネ然ク附托セラレタル各幼年者ニ對シテ一日七十「サンチーム」ニ定メラレタリキ、此慣例ハ元來刑法ノ精神ニ符合セス從テ放免セラレタル幼年者ニ非サレハ之ヲ適用セサリシカ(前數二七二參看)千八百五十年ノ法ハ之ヲ刑期二年ヲ超過セサル禁錮ニ處セラレタル幼年囚徒ニマテ廣メタリ、即チ此囚徒ヲ私立建設場カ(同法第四條)又ハ總テノ悔悟殖民場若クハ獄舍外ニ於テ單ニ人民(同法第九條)ニ附托スルヿヲ許セリ、故ニ新法カ其創定以前既ニ行ハルヽニ係リシ元素ニ其方法ヲ符合セシメ幼年囚徒ノ拘禁ニ關シ私立建設場ニ其既ニ得タリシ部分ヲ與ヘタルハ右ノ沿革ニ因テナリトス、然レモ我輩ハ被刑者ノ取扱ニ關シテ此部分ハ甚タ大ナルニ過キタリト信スルナリ

千八百五十年ノ法頒布以來此幼年者ノ拘禁ニ充テラル、建設ノ數ハ大ニ增加セリ、此法ノ頒布ノ期マデハ幼年男囚ニ對シテハ止タ三箇幼年女囚ニ對シテハ止タ九箇ニ過キザリシカ今日ニ至リテハ四十八ノ建設アリテ内八箇ハ公立ニシテ四十箇ハ私立ナリ、又幼年男囚ノ爲メニハ二十八ニシテ女囚ノ爲メニハ二十ナリ、而シテ行政權ハ頗ル之ヲ奬勵シ且ツ之ヲシテ相ヒ一致セシムルヿニ勉力セリ、唯此ニ現ハレ來ル所ノ危險、特ニ私立悔悟殖民場及ヒ悔悟獄舍ニ現ハレ來ル所ノ危險ハ此ニ責罰ノ性質極メテ少ナクシテ此建設ハ恰モ恩惠ノ建設場ノ如ク見ヘ廉恥ニ深ク關係セサル貧窮ノ父母ハ殊更ニ其子弟ヲシテ罪ヲ犯サシメテ玆

ニ入レシメンヿヲ求メ善良ナル貧窮人ハ却テ之ヲ羨ムニ至ルヿ是ナリ、又囚徒カ法律上ヨリ得ル所ノ地位(被刑者、被放免者及ヒ父母ノ權ノ執行ニ係ル囚徒)此ニ混合セラル、カ故ニ益々責罰ノ性質ヲ薄クシ右ノ危險ヲ增加スルニ至ル、若シ中央行政權ニシテ其自ラ明言スルカ如ク法律上ヨリ出ル所ノ諸種ノ地位ノ別離ヲシテ一層嚴格ナラシメ一層有効ナラシムルヿニ注意セハ少ナクモ此弊害ヲ多少豫防スルヿヲ得ヘキナリ

千八百五十年ノ法第十條ニ從ヒ佛良西內地若クハアルゼリーニ開基ス可キ懲治殖民場ハ今日未タ着手セラレサルナリ、而シテ行政官ハ該法ノ此部分ヲ甚タ緊要ノ者ト思考セサルカ如シ、何トナレハ一方ヨリ見レハ千八百七十年十二月三十一日ノ現數ニ就テ見ルニ刑期二年ヨリ長キ禁錮ニ處セラレタル幼年被刑者ハ種々ノ獄舍ニ散在シ又他ノ一方ヨリ見レハ之ニ反シテ懲治殖民場ニ充テラル、爲メニ開設セラレタルブーラールノ殖民場及ヒシチヨンルーアン、ヴヒルヌーヴフノ懲治殖民場ニハ右同年同月ニ於テ是非ヲ辨別セスシテ所爲ヲ行ヒタリトシテ放免セラレタル幼年者百六十八アリテ其刑期二年ヨリ長キ禁錮ニ處セラレタル幼年者ハ止タ五十人ニ過キサレハナリ、被刑者ト云ヒ放免者ト云フノ區別ハ、正理ノ點及ヒ我刑法ノ眼ヨリ見レハ實ニ根本緊要ノ區別ナルニモ拘ハラズ我執行ノ方法ハ殆ント此區別ヲ滅了セリ噫々

內部省統計表ハ甚タ緊要ナル無數ノ表圖ノ中ニ一箇ノ最モ緊要ナル表圖ヲ擧ケタリ、此表圖ニ依レハ幼年囚徒カ獄舍ヲ出ルニ至ルマテヲ見ルヲ得ヘク且ツ此出獄ノ時ニ當リテノ其摸樣ト運命トニ關シ種々ノ報道ヲ見ルヲ得ヘシ、我輩ハ此表圖ニ就テ左ノ件ヲ見ルヿヲ得タリ、千八百七十年中放免セラレ出獄シタル者二千二百八十三人ニシテ內二千零九十八人ハ自ラ生活スルヿヲ得ルノ地位ニ在テ出テ其百八十五人ハ或ハ不具或ハ教育若クハ智識ノ缺乏等ノ原因ヨリシテ自ラ生活スルヿ能ハサルノ地位ニアリテ出獄シタリ、又內千百五十五人ハ其親屬ニ附與セラレ其他ノ千百二十八人ハ或ハ其既ニ居リタル獄舍殖民場ニ使用セラレ(百三十人)或ハ庇保ノ會社ニ附托セラレ(三十一人)或ハ軍屬トシテ使用セラレ(七百十九人但シ此數ハ戰爭ヨリシテ斯ク大數ニ至リタルモノニシテ例外ナリトス)或ハ其他ノ種々ノ名義即チ職工、雇人、農業人等トナリテ自活ノ路ヲ得タリ(二百四十八人)(一)

(一) 獄舍及ヒ懲治檻統計表ニ就テ千八百七十年ノ部第三編第百四十八丁以下第十五表圖ヲ參看ス可シ

(一五四五) 之ヲ要スルニ茲ニ我獄舍及ヒ懲治場ニ於テ受ケシムル所ノ拘禁ノ日數ヲ總計スレハ我輩ハ中央獄舍府縣獄舍及ヒ幼年囚徒ニ充ツル諸建造物ニ關シテ千八百七十年ノ一年間拘禁ノ日數千五百五十八萬九千零四十一日(一五、五八九、〇四一)ヲ得、是レ此一年ノ

總經過間、間斷ナク囚徒四万二千七百零九人ヲ拘禁シタルニ當ルモノトス、而シテ之ニ徒刑ノ執行ヲ受クル被刑者ノ數ヲ加ヘ算スレハ千八百七十年間刑事裁判ノ施行ヨリシテ常ニ其自由ヲ剝奪セラレシ者ノ數五萬人トナルナリ但シ此數中ニハ違警罪禁錮ト刑事ニ屬セサル所ノ拘禁トヲ加ヘサルナリ

又費用ノ目的ヨリシテ內部省ニ屬スル所ノ各建設ヲ比較シ此建設ノ事務ヨリシテ各囚ノ拘禁一日ノ爲メニ平均政府ノ費ス所ヲ求ムレハ千八百六十九年ニアリテハ此費用ハ中央獄舍ニ於テハ一人一日ノ拘禁ニ付キ五十五「サンチーム」ト八〇、府縣獄舍ニ於テハ八十七「サンチーム」ト四七、幼年囚徒ニ充テラル、建造物ニ於テハ六十六「サンチーム」ト八六ナリ、然レモ此最終ノ費用ハ今日ニアリテハ一「フランク」ニ上リタルカ如シ

右ノ供給ノ甚タ緊要ニシテ且ツ大ナルコトハ唯內部省ノ管轄ニ關シテノミ思考スルモ明白ナリ、則チ千八百六十年ノ統計表ノ首端ニ擧ケラレタル報告書ハ之ヲ約說スレハ左ノ如シ、曰ク《此供給ハ凡ソ六萬ノ囚徒ヲ含蓄スル所ノ五百ノ建造物ニ充ツル所トス、而シテ爲メニ用フル所ノ官吏ハ上下三千人ニシテ年々ノ定額ハ費用十七「ミリヨン」(千七萬「フランク」)利得三「ミリヨン」(三百萬「フランク」)ナリ》ト(一)

(一) 獄舍及ヒ懲治樞統計表ニ就テ千八百六十年ノ部第五丁ヲ參看ス可シ」 我輩ハ此ニ千八百七十年ニ就テ話說セサル可シ、此年ハ一時ニ例外ノ休業ト費用ノ增加トアリタリ」 又千八百六十九年ハ費用千八百四十七萬〇三百六十五「フランク」ニシテ利得四百三十七萬五千三百三十九「フランク」ナリ

被刑者ノ心ニ及フノ刑

(一五四六) 我輩ハ尙ホ千八百十年ノ刑法中ニモ此種ノ一刑アルヲ見ル、即チ此刑法第二百二十六條及ヒ第二百二十七條ニ記載スル所ニシテ被刑者ノ心ニ對シテ强迫ヲ施シ榮譽上ノ賠償ヲ爲サシム、若シ肯ンシテ之ヲ爲サヽルトキハ其之ヲ滿足スルマテ無限ノ禁錮ニ換フルノ刑ナリ(一)、此刑ハ既ニ時代後レノモノナレドモ(前數一三八六參看)數次ノ刑法改正ニ免レテ今尙ホ遺存セリ、然レモ法律ノ正文ハ命令法ヲ以テ規定セサルニ因リ之ヲ科スルト科セサルトハ一ニ裁判官ノ權內ニアリ、故ニ此刑ヲシテ廢滅ニ歸セシムルハ裁判ニアリテ果シテ裁判ハ實際ニ之ヲ廢滅セシメタリ、只タ怪ム可キハ我輩時トシテ統計表中ニ就テ之ヲ適用シタルヲ見ルヿアル是ナリ、勿論之ヲ見ルヿ極メテ稀ナリト雖モ其止タ一箇アルモ既ニ多キニ過グルヲ奈何ニセムヤ

(一) 刑法第二百二十條(第二百二十二條及ヒ第二百二十五條(行政又ハ司法官ニ對スル不敬ノ罪)ノ場合ニ於テ其犯人ニ對シ禁錮ノ刑ノ外ニ更ニ其不敬ヲ

受ケシ者ニ書面ヲ用ヒ又ハ第一ノ公庭開廳中ニ於テ其罪ヲ陳謝ス可キノ言渡ヲ受ケシムルヿヲ得ヘシ、但シ此場合ニ於テハ犯人ニ對シ宣告シタル禁錮ノ刑ノ期限ハ其罪ヲ陳謝セシ日ヨリ之ヲ算ス可シ）

第二百二十七條（第二百二十四條（裁判所属吏又ハ巡査等ニ對スル不敬ノ罪）ニ記載シタル場合ニ於テハ其犯人ニ對シ罰金ノ外ニ更ニ其罪ヲ陳謝ス可キノ言渡ヲ受ケシムルヿヲ得ヘシ若シ犯人其罪ヲ陳謝スルヿヲ遲延シ又ハ肯セサル片ハ身体強迫ヲ受ク可シ）

屈辱ヲ施シテ犯人ヲ其心ニ罰スルノ刑中ニ就テ（前數一三八七參看）カルカン（譯者曰ク鎖製ノ頸枷ヲ木柱ニ付シテ之ニ被刑者ヲ繫キ公衆ニ露肆スルノ刑ナリ）ノ刑ハ千八百三十二年ノ刑法改正ニ因テ廢棄セラレ（エキスポジション、ピブリユツク（譯者曰カルカンヲ用ヒスシテ犯人ヲ公衆ニ露肆スルノ刑ナリ）ノ刑ハ右ノ改正ニ因テ其區域ヲ狹クセラレタリシカ遂ニ千八百四十八年ノ假政府ノ布告ヲ以テ全ク廢除セラレタリ、（一）故ニ今日ニアリテ屈辱ヲ施シテ犯人ヲ其心ニ罰スルノ刑ノ尚ホ遺存スル者ハ祖父母父母ヲ故殺謀殺シタル者ノ死刑執行ノ時、用フル衣服ト特別ノ公肆トノミナリ（二）

（一）千八百四十八年四月十二日及ヒ十四日ノ布告ハ左ノ如シ

（刑第二十二條ヲ見ルニ

露肆（エキスポジション、ピブリユツク）ノ刑ハ人類ノ地位ヲ降下シ永世被刑者ヲ屈辱シ之ニ自棄ノ感覺ヲ起サシメテ其回復ノ希望ヲ絶ツ

又此刑ハ破廉恥ノ犯人ヲシテ痛苦ヲ感セシムルニ足ラスシテ却テ悔悟シタル被刑者ニ及ホス害ニ至テハ回復ス可ラス故ニ最モ忌憚ス可キ不同等ノ性質ヲ有スル刑ナリ

最終ニハ露肆ノ觀ハ憫諒ノ感覺ヲ消滅セシメ罪ト慣レシムルニ足ルモノトス

右ノ理由ニ因リ假政府ハ左ノ如ク布告ス

露肆ノ刑ヲ廢除ス）

凡ソ布告ノ前置ハ時トシテハ事ヲ巨大ニスルニ過キテ論理ヲ誤ルヿアリ又ハ學問上容ル、可カラサルノ思考ニ陷ルヿアリトス然レモ右ノ前置ハ其發言ノ甚タ宏壯ナルニモ拘ハラス露肆廢止ノ種々ノ理由ヲ擧クルヿヲ得タリ、之ヲ要スルニ此廢止ハ一箇ノ大進歩ナリトス（前數一三八七參看）

（二）刑法第十三條（祖父母父母ヲ故殺謀殺シタル罪ニ因リ死刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ縲絆ノマヽ、跣足ニシテ頭ニ皂被ヲ蒙ラシメ刑ノ執行場ニ送致セラル可シ

此犯人ハ裁判所使吏ノ罪案ヲ公衆ニ讀ミ聞カスル時間斷頭臺ノ上ニ肆シ置キ其終リタ

ル片直チニ執行セラル可シ)

千八百六十七年ノ白耳義刑法ハ右ノ附加規則ヲ廢止シタリ、果シテ一箇ノ進歩ト云フヿヲ得ルヤ如何ン

(一五四七) 處罰ヲ公示スル爲メニ規定セル特別ノ處分モ亦右ノ刑ノ種類ニ屬ス、然レ𪜈此處分ノ因テ起リタル理由ハ犯人ニ痛苦ヲ感セシムルノ外ニ尙ホ重モニ公益ノ思考ニアリトス(前數一三八九參看)、我法律ニ使用セラル、此處分ノ重モナル者ハ揭示ト新聞紙記入トナリ

重罪ノ刑ノ處斷ニ關シテハ裁判ヲ拔萃シテ新聞ニ記入スルヿ、及ヒ刑法ニ因テ指示セラレタル場所、即チ此處斷ヲ知ラシムルヿノ必要最モ多ク存スル場所ニ裁判拔萃ヲ揭示スルヿハ一般ノ規則ニシテ且命令法タリ(一)

(一) 刑法第三十六條(死刑、無期徒刑、有期徒刑、流刑、禁獄、懲役、剝奪公權、追放ノ宣告書ハ其文ヲ摘撮シテ印刷ス可シ

其宣告書ノ摘撮書ハ其州ノ首府、宣告ヲ爲シタル所ノ府、犯罪ノ邑刑ヲ行ヒシ邑犯人住所ノ邑ニ之ヲ揭示ス可シ)

輕罪事件又ハ違警罪事件ノ處斷ニ關シテハ揭示及ヒ新聞書入、又ハ其他公示ノ特別ノ方法ハ刑法ノ正文ヲ以テ特ニ裁判官ニ之ヲ爲スヿヲ許シ、若クハ之ヲ令シタル場合ニ非サレハ之ヲ命スルヿヲ得サルヲ以テ規則トス」此種ノ正文ノ例甚タ多シ、則チ法律ハ我輩カ嘗テ指示シタル(前數一三八九)理由ノ何レカニ因リ或ハ命令ノ方法或ハ任地ノ方法ヲ以テ此ノ如キ處分ヲ命ス、而シテ時トシテ止タ揭示ノミヲ命スルヿアリ又時トシテハ新聞記入ニ止マルヿアリ或ハ揭示ト新聞記入トヲ合セ科スルアリ、又揭示ヲ爲スヿヲ得又ハ爲サヽル可ラサル所ノ土地ノ廣狹或ハ記入スルヿヲ得若クハ記入ヲ爲サヽル可ラサル所ノ新聞ノ數ヲ法律自ラ定メタルノ場合アリ、(一)而シテ裁判官ハ揭示ノ數、揭示ヲ爲ス土地ノ廣狹及ヒ揭示ノ含蓄ス可キ部分ニ關シテモ又新聞ノ數及ヒ其種類ニ關シテモ法律ニ因テ與ヘラレタル威權ヲ超過スルヿヲ得ス、又民事原告人ハ揭示若クハ記入ノ費用ヲ負擔セシト自供スルモ裁判ニ因テ與ヘラレタル權利ヲ超過スルヿヲ得ス、決シテ刑法ノ處分ハ此ノ如ク隨意ニ加重セラルヽヿヲ得サルナリ」此公示ヲ爲スヿハ既ニ公示其物ニ因リ犯人ニ痛苦ヲ感セシムルノ外ニ尙ホ法律ハ犯人ヲシテ其費用ヲ負擔セシム故ニ此刑ハ間接ニ財產ニ及フノ性質ヲ含蓄ス

(一) 我輩ハ此ニ法律カ此刑ヲ科シタルノ重モナル例ヲ示ス可シ」治罪法ハ其第三百九十六條及ヒ第三百九十八條ニ於テ三回欠席シタルカ爲メニ罰セラレタル陪審官ニ對

シテ之ヲ科ス」訴訟法ハ其第十條ヲ以テ治安裁判所ノ公庭ニ於テ裁判所ニ對スル敬禮ヲ欠キタルノ再犯者ニ對シテ揭示ヲ命シ得ルヿヲ裁判官ニ許セリ而シテ其數ハ該治安裁判區ノ町村ノ數ヲ超ルヿヲ得ス」町村警察ニ關スル千七百九十一年七月十九、二十二日ノ法律ハ總テノ再犯處斷ノ裁判宣告ト(第一編第二十七條)詐欺取財ノ罪ニ對スル處斷ノ裁判宣告ト(第二編第三十五條)ヲ公示スルヿヲ命シタリ、然レ𪜈此處分ハ千八百十年ノ刑法ニ因テ間接ニ廢止セラレタルニヨリ今日ハ之ヲ適用スルヿヲ得ス」金銀ノ礦屬ト細工物ノ監督及ヒ保証ノ稅收納ニ關スル共和紀元第七年二月十九日ノ法ハ其第八十條、第八十一條、第九十四條、第九十九條、第百七條、第百九條ニ於テ此法律ノ種ノ處分ニ違背シテ罰セラレタル者ニ對シ其縣ノ全各處ニ揭示ヲ爲ス可キヿヲ命シタリ」千八百十年九月五日ノ布達ハ其第十一條ニ於テ銅鐵細工物及ヒ刄物製造人ノ記號ヲ僞造シタルノ罪ニ對シタル裁判宣告ハ之ヲ公示ス可キヿヲ命シタリ、且ツ如何ナル場合ニ於テモ被害者及ヒ加害者ハ此揭示ト公告トニ關シ棄權協議ヲ爲スヿヲ得サル旨ヲ記載シタリ(然レ𪜈這ハ一箇ノ布告ニ過キス)」印刷物又ハ其他公示ノ方法ニ因テ犯サレタル重罪輕罪ノ公訴及ヒ裁判ニ關スル千八百十九年五月二十六日ノ法ハ其第二十六條ニ於テ裁判官ハ此種ノ重罪輕罪(言語ヲ以テ爲ス誹毀モ公然タル者ハ之ニ入ル其他詐僞ノ報告等モ亦然リ)ニ對スル裁判ヲ揭示スルヿヲ得ル旨ヲ記載セリ、又同條ハ尙ホ此裁判ハ民法ノ失踪(民法第百十八條)ノヿヲ判決シタル裁判ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ公示ス可キヿヲ命シタリ、而シテ個ハ知ラスシテ右ノ犯罪事件タル文書圖畫等ヲ再印刷シ又ハ販賣若クハ分配セントスル者ニ此處斷ヲ知ラシムル爲メニシテ全ク一般ノ利益ノ目的ヨリ命スル所ナリ」專賣免許ニ關スル千八百四十四年五日、八日ノ法ハ其第四十九條ニ裁判所ハ僞造ニ對スル裁判ヲ揭示スルヿヲ命スルヲ得ル旨ヲ記載セリ」紡織及ヒ製絲ノ件ニ於テ雇主ト職人ノ間ニ爲シタル契約ヲ證明スルノ方法ニ關スル千八百五十年三月七日、十五日ノ法第九條ニ從ヘハ裁判所ハ十二ケ月間ニ再犯シタルノ理由ニ因テ罰セラレタル者ニ對シ同人ノ入費ヲ以テ新裁判ヲ其地ノ新聞ニ記入スルヿヲ命スルヿヲ得、又此處分ハ千八百五十三年七月廿日、八月十九日ノ布達ヲ以テ右ニ類似スル一箇ノ場合ニ擴メラレタリ」商品販賣中ニ爲シタル或ル詐僞ノ責罰ヲ一層有効ナラシムル爲メニ係ル千八百五十一年三月二十七日、四月一日ノ法第六條ニ因レハ裁判所ハ其自ラ指示シタル場所ニ處斷ノ裁判ノ揭示及ヒ其自ラ指示シタル總テノ新聞紙ニ裁判全部又ハ其抜萃ノ記入ヲ命スルヿヲ得、而シテ其入費ハ總テ被刑者ヲシテ之ヲ負擔セシムル」製造及ヒ賣品ノ記號ニ關スル千八百五十七年六月二十三日ノ法ハ其第十三條

ニ於テ右ト同一ノ處分ヲ記載シタリ

（一五四八）又裁判公示ノ一種アリ、コレハ唯リ處斷ヲ公ニスルノミナラス尚ホ裁判執行ノ一部分ヲ公ニスル者ニシテ亦前段ト同一ノ刑事上ノ思考ニ属ス、而シテ此一種トハ商品販賣ニ於テ犯シタル或詐僞ヲ舊法律ヨリモ一層有効ニ罰スルヲ目的トナシタル千八百五十一年三月二十七日ノ法ノ制規スル所ニシテ、此法律ニ因レハ裁判官ハ犯罪ニ關シタル物件ヲ被刑者ノ商店又ハ其住所ノ前ニ於テ毀壞セシメ又ハ流失セシムルヿヲ命スルヿヲ得ルモノトス（一）、但シ此毀壞又ハ流失ハ被刑者ノ入費ヲ以テ之ヲ爲サシム

（一）千八百五十一年三月二十七日、四月一日ノ法第五條（販賣、使用又ハ所持ニテ犯罪ヲ搆成スル所ノ物件ハ刑法第四百二十三條及ヒ第七十七條第四百八十一條ニ從ヒ沒收セラル可シ

若シ此物件ニシテ飲食又ハ藥餌ノ使用ニ供スルニ足ルトキハ裁判所ハ之ヲ恩惠ノ建設場ニ分賦セシムル爲メニ行政ノ處分ニ任スルヿヲ得ヘシ

若シ此物件右ノ使用ニ適當セス又ハ害ヲ爲シ得ル物タルトキハ被刑者ノ入費ヲ以テ之ヲ破毀セシメ若クハ流失セシム可シ、裁判所ハ此破毀又ハ流失ヲ被刑者ノ商店又ハ其住所ノ前ニ於テ行ハシムルヿヲ命スルヿヲ得ヘシ）

（一五四九）刑法ノ特別ノ正文ニ因リ刑ノ名義ヲ以テ命スル所ノ、右ノ掲示又ハ新聞記入ト總テノ刑事上ノ罰ノ外ニ於テ民事原告人ニ與フル損害賠償ノ名義ヲ以テ命スルヿヲ得ル所ノ掲示又ハ新聞記入トヲ混ス可ラス、固ヨリ此點ニ關シテハ明確ニ說明スル所ノ法律ノ正文アルニ非ス、然レモ法律ハ被害者ニ與ヘ得ル所ノ損害賠償ヲ金錢ノミニ限リタルニ非ス、從テ此賠償ハ場合ニ因リ裁判官カ加害者ニ對シ爲スト爲サヽルトヲ命スル所ノ或ル所爲ナルヿヲ得ルモノトス、故ニ裁判所ハ是ヨリシテ左ノ如ク議決セリ、曰ク若シ事件ノ種類ヨリシテ掲示又ハ新聞記入ノ方法ニ因リ裁判ヲ公示スルヿカ相當ノ賠償トナリ又ハ賠償ヲ完全スル爲メニ適當ナルノ理由現ハレ來ルトキハ、裁判所ハ此種ノ處分ヲ命スルニ毫モ妨ケアルヲ見サルナリト、而シテ此議決ハ理論ニ乖戾スル所ロアルヿナシ、然リト雖モ此掲示又ハ新聞紙記入ト前ニ所謂ル掲示記入トノ間ニハ民事處斷ト刑事處斷トノ間ニ存スル所ノ總テノ差異アリトス、今此ニ我輩カ話說スル所ノ掲示記入ハ被害者ニ非サレハ之ヲ請求スルヿヲ得ス、又同人ニ非サレハ之ヲ執行スルヿヲ得ス、故ニ被害者ノ論告中ニ少ナクモ間接ニ此請求ヲ爲サヽルトキニ當リ之ヲ宣告シタルトキハ裁判所ハ是レ請求外ノ事件ニ裁判ヲ與ヘタルナリ、又檢察官ハ之カ請求ヲモ執行ヲモ爲スヿヲ得サルナリ、而シテ此掲示記入ハ一ニ私益ニ係ルカ故ニ被害者ト加害者トカ此點ニ關シ棄權協議ヲ爲スニ至テハ毫モ妨ケア

ルヿナシ」 故ニ刑法カ此掲示記入ノ附加ノ處分ヲ刑トシテ記載セサル或ル場合ニ於テモ被害者ノ爲メニ此處分ノ甚タ必要ナルトキハ裁判官ハ被害者ノ請求ニ因リ損害賠償トシテ之ヲ命スルヿヲ得ヘシ、我輩ハ右ノ場合ノ例トシテ公然ト爲サヽル誣告ノ罪及ヒ出板書又美術物僞造ノ罪ヲ擧ク可キナリ

（一五五〇） 又前段論スル所ノ二種ノ掲示記入ノ場合ト、民事裁判所ガ訴訟法第千三十六條（一）ニ因テ與ヘラレタル權利ヲ使用シテ其裁判ノ印刷及ヒ掲示ヲ命スル所ノ場合トヲ混ス可ラス、此印刷掲示ハ刑ノ名義ヲ以テ命セラレタルニ非ス、又損害賠償ノ名義ヲ以テコモ非ス止タ其然ルベキヲ要求スル一般ノ利益ノ目的ヨリ出ル所トス、乃チ裁判所ハ此意義中ニ在テ其適用ヲ爲サヽル可ラサルナリ、疑ヒモナク檢察官ハ之ヲ請求スルノ權アリトス、然レトモ裁判所ハ原告ノ請求又ハ檢察官ノ論告ナキ片ト雖モ之ヲ命スルヿヲ得、又之ヲ命スルニハ必スシモ刑事訴訟ニ係ル場合ナルヿヲ要セス、右第千三十六條ハ特ニ民事訴訟ノ爲メニ制定セラレタル者ナリ、而シテ裁判例ニ於テ人此條ヲ民事ト刑事トヲ分タス、總テノ裁判所、總テノ訴訟ニ擴充シタルハ其文章ノ一般ナル性質アルヨリシテ比附援引シタルニ過キサルナリ

（一） 訴訟法第千三十六條（裁判所ハ其受理シタル事件ニ關シ情狀ノ輕重ニ從ヒ職權ヲ以テ訟廷取締ノ言渡ヲ爲シ又ハ文書ヲ棄滅シ、之ヲ誹譏ナリト明言シ及ヒ其裁判ノ印刷幷ヒニ掲示ヲ命スルヿヲ得ヘシ）

被刑者ノ權利ニ及フノ刑

人ノ身分及ヒ法律上ノ能力ニ關スル權利ニ及フノ刑

（一五五一） 追放（ル、バンニッスマン）（一）、刑法第三十二條及ヒ第卅三條ニ因テ制規セラル、所ノ刑ナリ（二）」 人或ル此刑ハ殆ント被刑者ノ身体ニ及フノ刑ト其權利ニ及フノ刑トノ中間ヲ成スト云フモ未タ必シモ不當ト云フ可ラス、何トナレハ此刑ニハ時トシテハ身体ニ及フノ或ル執行アリ即チ追放セラレタル者ヲ公力ヲ以テ國境マテ送致スルノ執行アレハナリ、然レトモ此刑ノ眞性ハ被刑者ヲ內地ヨリ除クニアリトス、辞ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ、此內地居住、及ビ內地經過ノ權利ノ失墜ナリ」 固ヨリ之ニ違背スルヿハ被刑者ノ爲メニ甚タ容易ナルニ由リテ追放ハ之ニ代ル他ノ一刑ニ因テ補助セラルノ要用アル刑ノ部類ニ屬ス、即チ之ヲ遁レントスル者ヲ恐嚇スルニ足ル所ノ他ノ刑ニ因テ補助セラル、ヲ要スルノ刑ナリ、而シテ我刑法ニ從ヘハ此代刑ハ第三十三條ニ因テ定メラレタル限界中ニ在テ施ス所ノ禁錮ノ刑ナリ、我輩カ既ニ流刑ニ就テ辨シタリシカ如ク（前數一五二四參看）被刑者ハ其同一人ナルノ證アルノミニシテ此禁獄ヲ受クルモノトス（第三十三條）、然ラハ則チ此同一人

ナルノ認識ハ重罪裁判所ニ於テ之ヲ爲サヽル可ラス（治罪法第五百十八條及次條）而シテ此訴訟ハ被刑者ノ現在ヲ要ス、若シ現在セサル片ハ此裁判ハ無効ニ屬ス

（一）刑法中追放ノ刑適用ノ場合ハ乃チ左ノ如シ、第五十六條、第八十四條、第八十五條、第百二條（此第百二條ハ千八百三十二年ニ廢止セラレタリ）第百十條、第百十五條、第百二十四條」第百五十五條、第百五十六條、第百五十八條、第百六十條（此四箇條ハ千八百六十三年ニ廢除セラレタリ）」第二百二條、第二百四條、第二百八條、第二百二十九條、第四百六十三條

（二）刑法第三十二條（追放ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ政府ノ命ヲ以テ歐洲大陸ノ佛良西領地外ニ遷徙ス可シ

追放ノ期限ハ五年以上十年以下ト爲ス）

第三十三條（追放ノ刑ニ處セラレタル者其刑期ノ未タ終ラサル中ニ若シ歐洲大陸ノ佛良西領地內ニ歸リ來ルヿアルトキハ其同一人ニ相違ナキノ證ヲ得ルノミニ於テ定マリタル期限間禁獄ノ刑ヲ受ケシム可シ但シ其期限ハ犯人歸來ノ日ヨリ追放ノ刑滿期ノ日ニ至ル迄ノ時間ヨリ少ナキヿナク又其二倍ヨリ多キヿナカル可シ）

古代、中世ノ會社及ヒ歐洲古代ノ刑事裁判ハ其最終ノ時ニ至ルマテ大ニ追放ノ刑ヲ使用シタリ、本來バンニツスマン（追放）ノ字源タルバンハ日耳曼語ヨリ來リタル所ニシテ公告ナリ、即チ嗽叭又ハ皷ヲ鳴ラシテ以テ公衆ニ爲ス所ノ布告ナリ、而シテ此公告ノ意義ニ就テハ我邦ニ左ノ熟語殘リタリ、結婚ノバン、又バンヲ爲ス爲メニ鼓ヲ打ツトイフ類是ナリ、」偖テ古代ニアリテ其歸來スルヿヲ禁シテ人ヲ內地ヨリ驅逐スル片ハ先ツ之ヲ公布シテ執行セシナリ、是ヨリシテ遂ニ此追放ノ刑ヲバンニツスマン又此刑ヲ受ケタル者ヲバンニート呼フニ至リタルナリ」此追放ノ刑ハ刑ノ須カラク有ス可キ如何ナル性質ヲモ有スルヿナク、却テ流刑固有ノ瑕瑾タル不同等ト責罰點欠乏トノ二ツノ瑕瑾ヲ有シテ而シテ其利益ハ之ヲ有セサルナリ、又之ニ加フルニ如何ナル權利ヨリシテ人其現在スルヿヲ恐ル、所ノ者ヲ鄰國ニ驅逐スルヿヲ得ルヤ、若シ常事犯ニ關シテ諸國相互ニ追放スルヿヲ得ルモノトセハ是レ畢竟相互ニ惡人ヲ交換運輸スルニ過キス、其國事犯ニ係ルトキハ此駁議及ヒ此弊害ハ多少減セサルニ非スト雖モ決シテ全ク存在セストハ云フ可ラサルナリ、今諸國ノ風ヲ一ニスルノ事業次第ニ進ミ生活ノ方法終ニ同一ニ歸スルニ至ルヿヲ得バ此ニ刑ノ名義ヲ以テ裁判上使用スル所ノ此痛苦ハ日一日ヨリ之ヲ舊時ノ記念中ニ放擲スルニ至ラントス

千七百九十一年ノ刑法ハ追放ノ刑ヲ棄絕シタリシガ千八百十年ノ刑法ハ之ヲ再設シタリ、此千八百十年ノ刑法實施ノ當時ノ初期及ヒ特ニ王政復古政府ノ下ニ在リテハ多少此刑ノ適

用ヲ爲シタリ、然レ𪜈爾來之カ適用大ニ減少シテ、茲ニ我統計表ニ擧クル所ノ表圖ヲ見レハ乃チ左ノ如シ

	追放ノ刑處斷ノ數	一年平均ノ數
從千八百十一年至千八百十四年	一三	三
從千八百十五年至千八百三十年	一五五	一〇
從千八百三十一年至千八百五十年	五	一（四年毎ニ）
從千八百五十一年至千八百六十年	五	一（二年毎ニ）
從千八百六十一年至千八百六十五年	一	一（五年毎ニ）

且ツ此刑ハ既ニ實際ニ於テハ刑法ノ制規シタル所ニ從テ之ヲ受ケシメスシテ乃チ王政復古政府ノ布達ニ從ヒ屢々之ヲ禁獄ニ換ヘテ執行セリ（一）

（一）禁獄ノ中央獄舍行政規則ニ關スル千八百十七年四月二日ノ布達（第四條　追放ノ刑ニ處セラレタル者（刑法第三十二條）ハピエル、シヤーテールノ獄舍ニ送致セラレ其外國ニ行クヿヲ得ルノ能力アルニ非サレハ其追放ノ期限間同獄舍ニ居住セシム、若シ外國ニ行クヿヲ得ルノ場合ニ於テハ國境マテ護送セラル可シ、又乘船スルノ能力アリテ之ヲ請求スル者ハ內部卿ノ命令ヲ以テ乘船港マデ護送セラル可シ）」今日ニ至テハピエル、シヤーテールノ獄舍ヲ右ノ禁獄ニ使用スルヿヲ廢止シタリ但シ追放ノ刑適用ハ益々稀ナルニ至リタルヨリシテ此點ニ關スル論ノ利益ヲ見ス

（一五五二）民事上ノ死（モール、シヴヒール）ハ舊時ヨリ已ニ排斥セラレタリシカ既ニ千八百五十年六月八日ノ法ニ因テソノ流刑ニ附加スル點ニ就テ廢止セラレ、遂ニ千八百五十四年五月三十一日ノ法ニ因テ全廢セラレタリ（一）故ニ今日ニアリテ此刑ニ就テ起ル所ノ問題ハ廢止後ノ結果ニ係ル問題ニシテ刑法ヨリハ寧ロ民法ニ屬スルモノトス」千八百五十四年ノ法ニ因テ此刑ノ廢セラレタルハ唯リ將來ノ處罰ニ關シテ廢セラレタルノミナラス尙ホ既往ノ處斷ニ就テモ廢セラレタルナリ、故ニ此法ノ實施アルヤ他人ノ既得權利ヲ

除クノ外ニ於テハ(同法第五條)此刑ノ結果ハ直チニ盡ク止マサル可ラサルナリ」元來此法ノ最終ノ一箇條(第六條)ノ文章ハ疑點ヲ生シ得サルニ非サレ𪜈我輩ハ此廢止ハ一般ノ廢止ニシテ既往ノ處罰ニ係ルモ將來ノ處斷ニ關スルモ如何ナル刑ニ附加スルモ如何ナル事件ヨリ出タルモ此法ノ實施以來ハ我邦ニ於テ如何ナル民事上ノ死モアラス又アルヿヲ得サルヿヲ確信シテ疑ハサルナリ(二)、我輩ハ此點ニ關シ奇怪ナル一訴訟ヲ目擊シタリ、即チ被刑者自ラ辨論シテ千八百五十四年ノ法ハ既往ノ處斷ノ結果ヲ消滅スルヿヲ得スト主張シ自分ハ此法頒布以前處刑ヲ受ケタルカ故ニ常ニ民事上死シタル人ナリト抗辯シタルヿ是ナリ、而シテ個ハ債主ノ督責ヲ免カレンカ爲メナリキ、然レ𪜈裁判所ハ法律ノ處分ノ一般ニ及フヿヲ認メ此旨ヲ明言スルニ躊躇セサリシナリ(三)

(一) 民事上ノ死廢止ニ係ル千八百五十四年五月三十一日、六月三日ノ法

《第一條 民事上ノ死ハ廢止セラル

《第二條 施体ノ無期刑處罰ハ刑法第二十八條第二十九條及ヒ第三十一條ニ記載シタル剝奪公權及ヒ禁治産ヲ附加ス

《第三條 施体ノ無期刑ニ處セラレタル者ハ生者間贈與又ハ遺囑ニ因リ其財産ノ全部又ハ一部ヲ處分スルヿヲ得ス又生活ヲ助クルノ爲ニ非サレハ此名義ヲ以テ他人ヨリ受クルヿヲ得ス

此被刑者ニ因テ爲サレタル總テノ遺囑ハ其對審裁判確定前ニ係ル者ト雖𪜈無効トス

本條ハ欠席裁判ノ被刑者ニ對シテハ掲示(エフヒシー)ニ因テ執行シタル後チ五年ヲ經過スルニ非サレハ之ヲ適用スルヿヲ得ス

《第四條 政府ハ施体ノ無期刑ニ處セラレタル者ニ對シ前條ニ記載シタル不能力ノ全部又ハ幾分ヲ免スルヿヲ得

又政府ハ此被刑者ニ對シ其禁治産ノ地位ヨリ剝奪セラレタル所ノ權利又ハ此權利ノ一二ヲ刑ノ執行ノ地ニ於テ行フヿヲ許可スルヿヲ得

刑ノ執行ノ地ニ於テ被刑者ノ爲シタル約束ハ其處刑ノ日ニ有セシ財産又ハ此期以來無償ノ名義ヲ以テ入リ來リタル財産ニ關係ヲ及ホスヿヲ得ス

《第五條 民事上ノ死ノ結果ハ現ニ此刑ヲ受クル所ノ被刑者ニ對シ將來ニ向テ消滅ス可シ但シ他人ノ得タル既得ノ權利ハ此限ニアラス

此被刑者ノ身分ハ前數條ノ制規ニ因テ支配セラル可シ

《第六條 此法律ハ頒布以前ニ犯サレタル重罪ニ因テノ流刑處罰ニ之ヲ適用セス》

(二) 第六條ノ制限ハ寛大ノ意義ヲ以テ被刑者ノ利益ノ爲メニ制規セラレタル所ナリ

即チ千八百五十四年ノ法頒布以前ニ犯シタル重罪ニ因リ頒布以後ニ處斷ス可キ者ニ對シ此法ノ制定シタル贈與遺囑ヲ爲シ又ハ之ヲ受クル權利ノ剝奪ヲ適用スルヲ妨クルカ爲メナリ即チ右ノ犯人ニハ此剝奪ヲ科セサル所ノ千八百五十年ノ流刑ニ關スル法ヲ適用セシムルカ爲メナリ、故ニ此條ヲ解釋スルニ當リ個ハ千八百五十年ノ法頒布以前ニ流刑ニ處セラレ從テ民事ノ死ヲ受ケタル者ヲシテ新法第五條ニ從ヒ將來ニ向テ民事上ノ死ノ結果消滅ノ寛典ヲ受ケシムルヲ妨クルカ爲メニ制定セラレタリト解スルハ是レ大ナル誤解ナリトス而シテ其果シテ然ルヲ知ルニハ此法ノ編纂ニ係ル書類ヲ取リ左ノ文書ヲ比較スルノ足ル所トス、即チ第一　此點ニ關シ政府ヨリ提出シタル草按

第二　調査委員ノ發議シタル處分　第三　チジョン、バロー氏ノ意見ヲ聞キタル後チ投票セラレタル此第六條是ナリ、勿論此條ハ大ニ一般ニ及フノ体裁ヲ以テ記セラレタルカ故ニ有益ナルヨリハ寧ロ有害ナル法條トナリタリ蓋シ左ノ常ニ存在スル所ノ二元則ニ任シテ故サラニ此條ヲ制定セサルノ優サリシニ如カサルナリ　第一　新法ヨリ出タル刑ノ加重ハ頒布以前ニ係ル事件ニ及ホスヿヲ得ス　第二　之ニ反シテ刑ノ寛ナル點ハ之ヲ適用セサル可ラスト（前數五七二及ヒ次數、又四八六及ヒ次數參看）

（三）　國事犯ヲ以テ千八百四十九年四月二十七日流刑ニ處セラレ千八百五十四年特赦ヲ受ケ千八百六十一年十一月債主ニ因テ訴ヘラレタルチヤンチー氏ノ事件ニシテ千八百六十二年三月十五日セーヌノ民事裁判所ノ判決セシ所ノモノナリ（千八百六十二年四月十二日印行ドロワー法律新聞ニアリ）

千八百五十四年五月三十一日ノ法ハ民事上ノ死ヲ廢止シテ、之ニ換フルニ權利ノ失墜又ハ剝奪ノ甚タ重大ナル一箇ノ集合刑ヲ以テセリ、而シテ其種々ノ元素ハ我輩カ之ヲ別離シテ各箇ニ與フル所ノ解說中ニ自ラ現ハレ來ル可キナリ

（一五五三）　生者間贈與又ハ遺囑ニ因リ其財產ノ全部又ハ一部ヲ處分スル權利ノ剝奪、又生活ヲ助クル爲ニ非スシテ贈與或ハ遺囑ノ名義ヲ以テ他人ヨリ受クル權利ノ剝奪」　這ハ民事上ノ死ノ舊時ノ結果ノ一ニシテ（民法第廿六條第三項）千八百五十四年ノ法ノ新タニ規定セサル可ラスト信シ（同法第三條）遂ニ此法ノ規定ニ因テ一箇ノ特別ノ失墜トナリタル所ノ者ナリ、此失墜ハ白耳義及ヒ阿蘭陀ノ法律ニ因テ維持セラレサリキ、偖テ茲ニ此刑ヲ以テ罰セラレタル者ハ唯リ右ニ所謂ル權利ノ施行ヲ奪ハル、ノミナラス尙ホ權利ノ所有即チ其根本ヨリシテ奪ハル、ヿニ注目ス可シ、故ニ此被刑者ノ爲シタル遺囑ハ其爲シタル時ノ前後ヲ論セス其處刑ノ結果ニ因テ盡ク無効ニ歸ス、從テ財產相續ニ關シテハ其自ラ遺ス者ニ於ケルモ其人ヨリ受ケントスル者ニ於ケルモ此被刑ノ者ノ爲ニハ遺囑ナキ相續（アブ、アン

デスター）即チ法律自ラ制規スル所ノ相續ノ外ニハ他ノ相續決シテ之ナキナリ」　千八百五十四年ノ法ハ制限ノ條件ナク政府ニ許スニ被刑者ニ對シ此ニ所謂ル恩惠ノ名義ヲ以テ財産ヲ處分シ又ハ受クルニ關スル不能力ノ全部又ハ幾分ヲ免スルヿヲ得ルノ權ヲ以テセリ（同法第四條）」然レ𪜈ヌーベル、カレドニーニ發遣スル被流者ノ地位ニ關スル千八百七十三年三月二十五日ノ法ハ尚ホ一層寛大ナリトス、即チ單準ナル流刑ニ處セラレタル者ニハ其流地ニ於テ法律上ヨリシテ民事上ノ權利ノ施行ヲ許セリ、又之ニ加フルニ政府ニ與フルニ被刑者ニ對シ其財産ノ全部又ハ幾分ヲ下附スルヿヲ得ルノ權ヲ以テセリ（一）

（一）　千八百七十三年三月二十五日ノ法第十六條（千八百五十四年五月三十一日ノ法ノ處分ハ流刑ニ處セラレタル者ニ關スル點ニ就テハ繼續シテ執行セラル可シ、然レ𪜈單流刑ニ處セラレタル者ハ流刑ノ地ニ於テ別ニ許可ヲ用ヒス民事上ノ權利ノ施行ヲ有ス可シ、又此被刑者ニハ政府ノ允准ヲ以テ其財産ノ全部又ハ幾分ヲ下附スルヿヲ得ヘシ、此下附ノ効果ヲ除クノ外流地ニ於テ被刑者ノ爲シタル約束ハ其處刑ノ日ニ有セシ財産又ハ此期以來無償ノ原因ヨリ入リ來リタル財産ニ關係ヲ及ホスヿヲ得ス」政府ハ其他ニ流地支配官ノ意見ヲ聞キ被流者ニ對シ刑法第三十四條ニ因テ剝奪セラレタル所ノ其權利ノ全部又ハ幾分ヲ殖民地ニ於テ施行スルヿヲ許可スルヿヲ得ヘシ）

（一五五四）　剝奪公權（デクラダシヨン、シヴィツク）此刑ノ効果ハ刑法第三十四條ニ記載セラレタリ（一）」民事上ノ死ノ廢止以來、我處罰方法中ニ於テ刑ノ一種ヲ搆成スル爲メニ同一箇ノ稱呼ノ下ニ多數ノ權利ノ剝奪又ハ失墜ヲ集合シタルハ乃チ此刑ナリトス」又或ル他ノ不能力即チ前項ニ擧ケタル所ノ不能力ト我輩カ次項ニ於テ話說セント欲スル所ノ不能力ト相伴ヒテ總テ千八百五十四年ノ法ヲ以テ民事上ノ死ヲ廢シタル場所ニ於テ之ニ代ル者ハ乃チ此刑ナリトス」此刑ノ影響ヲ及ホス所ノ權利ハ私權ニアラスシテ左ノ權ノ剝奪失墜ナリ

第一、　政事上ノ權利（ドロワー、ポリチツク）ノ全失墜、　第二　多數ノ公權（ドロワー、ヒブリユツク）ノ剝奪、而シテ此公權トハ憲法又ハ政事上ノ機關ノ活動ニ直接ニ關與スル所ノ者ニ非スシテ、或ハ軍隊、又ハ昔日ニアリテハ護國兵ニアリテ國家ノ集合公力ノ施行ニ關スル權、或ハ公ケノ官職任用ニ在リテ國家ノ支配ニ關與スル權、或ハ公ケノ官職任用ノ性質ヲ有セスト雖𪜈、裁判ノ施布、文書ノ公正、裁判上ノ事件ノ證明ニ係リ從テ信用ヲ置クニ足ル可キ人ヲ要スル所ノ或ル職務ニ關スル權或ハ教師ノ職ニシテ他日ノ社會ヲ搆成ス可キ後生ノ爲メニ其心ト其精神トヲ養成スルニ因リ其執行ハ恰モ社會ノ成立其物ノ基本ニ密着スル所ノ職業ニ關スル權、是ナリ」　第三　親屬ニ係ル或ル權利（ドロワー、ド、ファミーユ）ノ剝

奪、而シテ此權利トハ社會ヨリ其自ラ自己ノ利益ヲ防護スル能ハサル所ノ人ニ與ヘサル可ラサル保護ニ關スル所ノ者ニシテ純粹ノ私權ト認ムル能ハサル所ノ權利是ナリ

（一）刑法第三十四條（剝奪公權ノ刑ハ左數件ヲ以テ其攝成ヲ爲スモノトス

第一　總テ公然ノ官職任用ヲ剝奪シ且ツ其官職ニ補任スルヲ禁スル事

第二　投票ヲ爲スノ權、議員ヲ撰擧スルノ權、議員ニ撰擧セラル、ノ權及ヒ其他總テ公權、政權、勳章ヲ佩用スルノ權ヲ剝奪スル事

第三　陪審又ハ監定人トナル事、證書類ノ證人トナルヿ、裁判所ニ於テ事實ヲ陳述スルノ外證人トナルヿヲ禁スル事

第四　親屬會議ノ列ニ入ル可カラサルヿ及ヒ己レノ子ノ爲メト雖モ親屬ノ許諾ヲ得ルニ非サレハ其後見人又ハ後見人ノ監察者トナリ或ハ財産管理人及ヒ裁判所ヨリ任スル補佐人トナル可カラサル事

第五　兵器ヲ所有スルノ權、護國兵トナルノ權、佛蘭西ノ兵籍ニ入ルノ權、學校ヲ開クノ權、教師校監ノ名義ヲ以テ學校ニ於テ教授ヲ爲シ或ハ任用ヲ得ルノ權ヲ剝奪スル事」

刑法ハ其第四十二條ニ於テ此種ノ權利ヲ公權（ドロワー、シヴィック）民權（ドロワー、シヴィール）及ヒ親屬ノ權（ドロワー、ド、ファミーユ）ト名ツケタリ、而シテ此稱呼ハ我裁判例ニ於テ法律語トナリタリト雖モ希望ス可キ正確緻密ノ意義ヲ表セサルヤ明カナリ

立法者ハ此諸權利ノ禁止ニ就テ總テ皆ナ同一ノ緊要程度ニ在リトハ思考セサリキ、我輩ハ他日此刑ヲ受ケタル者カ或ル場合ニ於テ如何ナル方法ニ因リ此禁止ヲ政府ヨリ解カレ得ルカヲ話說ス可シ、即チ刑法第三十四條第三項第四項ヨリ出ル所ノ禁、辞ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ裁判ノ施設、文書ノ公正、事件ノ證明ニ係ル職務ニ關スル權利ノ禁及ヒ親屬ニ關スル權利ノ禁ヲ如何カ解カレ得ルカ（徒刑ノ執行ニ關スル千八百五十四年五月三十日ノ法）、又或ハ剝奪公權ノ刑ノ來タス所ノ總テ不能力ヲモ如何カ免セラレ得ルカ（前數一五五三註記ニ引用シタル被流者ノ地位ニ關スル千八百七十三年三月廿五日ノ法第十六條）ヲ話說ス可キナリ

剝奪公權ハ舊時ノ裁判例ニ所謂ル權利ノ失墜（デシェアンス）ヨリ其本源ヲ酌メル者ニシテ千七百八十九年ノ立憲議院ハ之ニ含有スル所ノ名稱ヲ與ヘテ以テ特別ノ一刑ト爲シ當時慣用セラレタリシ儀式ヲ採用シテ此刑ニ付スル有形ノ執行ノ一種ヲ組織シタリ故ニ當時此刑ニ處セラレタル者ハ之ヲ處斷シタル所ノ裁判所ノ存在スル市街ノ中央ニ誘致セラレ同處ニ於テ裁判所ノ書記ハ被刑者ニ對シ高聲ヲ以テ左ノ言ヲ申告シタリキ、曰ク（汝ノ國ハ汝ヲ破廉恥ノ處爲ヲ行ヒタリト確信ス、因テ法律及ヒ裁判所ハ汝ヲ佛蘭西國公民ノ地位ヨリ降下セシム）ト（一）、現時ニアリテハ毫モ斯ノ如キ有形ノ執行ノ種類アルヿナシ、乃チ此刑ハ刑

法ノ命スル所ノ權利ノ失墜又ハ剝奪ニ過キサルナリ

（一）千七百九十一年ノ刑法第一編第一章第三十一條ト第二章第一條トヲ比較參看ス可シ

（一五五五）禁治產（アンテルディクシヨン、レガール）千七百九十一年ノ刑法（第一編第四章第二條及ヒ第六條）ヨリ出タル所ノ處分ニシテ現時ノ刑法第二十九條（一）ニ於テ規定セラル、所ノ刑ナリ、此失墜ハ被刑者ヲ其民事上ノ私權ニ就テ罰シテ權利ノ享有ヲ剝奪セス止、タ權利ノ施行ヲ奪フモノトス、千七百九十一年ノ刑法ハ被刑者ノ爲メニ財產管理人ヲ命ス可シト言ヘリ、這ハ此當時ニアリテハ人未タ羅馬法ト我舊時ノ民事裁判例トノ傳來ノ慣習下ニアリテ瘋癲又ハ他ノ原因ヨリ治產ヲ禁セラレタル者ノ爲メニ後見人（テユトユール）ヲ命セスシテ財產管理人（キユラトユール）ヲ命セシカ故ナリ、千八百十年ノ刑法制定ノ時ニ當リテハ之ニ反シテ既ニ治產ヲ禁セラレタル者ノ後見ニ關スル民法上ノ方法定マリテ此方法ト符合セシムル爲メニハ刑法ニ於テモ後見人ヲ命スト言ハサルヲ得ヘカラサリシヲ該刑法ハ誤テ財產管理人ノ語ヲ用ヒタリキ、然レ𪜈千八百三十二年ノ改正刑法ハ治產ヲ禁セラレタル者ノ爲メニ他ノ民法上ノ禁治產ニ使用スル方法ニ從ヒ後見人及ヒ副後見人ヲ命スルノ爲メノ規則ニ循ヒ後見キヿヲ定メテ右ノ撞着ヲ消滅セシメタリ

（一）刑法第二十九條（凡ソ有期徒刑、禁獄又ハ懲役ノ刑ニ處セラレタル者ハ尙ホ之ニ加フルニ其刑期間法律上禁治產ノ地位ニ在ル可シ、此被刑者ノ財產ヲ管理シ支配スル爲メニ民法被禁治產者ニ關スル後見人及ヒ副後見人ヲ命スルノ爲メノ規則ニ循ヒ後見人及ヒ副後見人ヲ命ス可シ）

第三十條（被刑者ノ財產ハ其刑期ノ終リタル後チ之ヲ其本人ニ還與ス可シ又後見人ハ被刑者ニ其支配中ノ計算ヲ爲ス可シ）

第三十一條（刑期間ハ被刑者ニ幾何クノ金額ヲモ如何ナル貯蓄ヲモ其入額ノ幾何クノ部分ヲモ附與スルヿヲ得ス）

茲ニ所謂ル禁治產ハ瘋癲病又ハ他ノ原因ヨリ出タル禁治產トハ異ニシテ毫モ保護ノ目的ヲ有スルコトナク却テ責罰ノ目的ヨリ出タルモノナリ、從テ智識上ノ不能力ニ基キタルモノニ非サルナリ、故ニ被刑者或ハ自己ノ利益ヲ計量スルニ甚タ巧ミナルヿアラン、然レ𪜈其財產支配ニハ如何ニ技能アルニモセヨ、法律ハ此支配ヲ禁止ス、然シテ此禁止ノ理由ハ此被刑者ヲシテ自ラ其財產ヲ支配セシメ自ラ其民事上ノ私權ヲ施行スルヿヲ得セシムルハ其受ケタル刑ノ期限間ニアル被刑者ノ地位ニ符合セサルカ故ナリ、又其刑ノ生ゼシメントスル効果ニ害アルカ故ナリ、被刑ノ地位ニ符合セサルトハ何ソヤ、拘禁ノ原因ヨリシテ此支配此施

行ノ爲メニ要スル所ノ外部トノ交通ヲ爲スヲ得サレハナリ、刑ノ効果ニ害アリトハ何ソヤ被刑者其自ラ支配スル所ノ財産ノ助ケニ因リ刑ノ執行ノ嚴ナル點ヲ遁レントシ或ハ又逃走ヲ豫備シ又ハ之ヲ實行スルヿヲ求メントスルノ恐レアレハナリ、我輩カ此禁止ノ甚タ嚴ナルヲ見ルモノハ即チ此等ノ理由ニ因テナリトス故ニ刑法ハ被刑者ノ財産ヲ管理シ支配セシムル爲メ後見人及ヒ副後見人ヲ命セシム（第二十九條）、又其刑期間被刑者ニ財産入額ノ如何ナル部分ヲモ附與スルヿヲ禁ス（第三十一條）

茲ニ所謂「治産ヲ禁セラレタル者」ノ爲シタル遺囑又ハ結婚ハ有効ナルヤ否ヤノ問題ハ法律學者ニ於テ未タ一定セサルノ問題ナリトス、然レ𪜈我輩ハ以下簡單ニ說ク所ノ理論ニ基キ有効ナリト云フニ猶豫セサル可シ」 此所爲ハ刑法第二十九條ニ話說スル所ノ財産ノ管理又ハ支配中ニ入ラス」 此所爲ハ代人ヲ以テ行ハシムル能ハサル所ノ權利ノ種類ニ屬ス故ニ被刑者ヨリ此權ノ施行ヲ剝奪スルハ間接ニ此權利ノ享有ヲ剝奪スルナリ」 遺囑ニ因テ財産ヲ處分スルヿヲ得サルノ不能力ハ千八百五十四年五月三十一日ノ新法ニ因テ昔者民事上ノ死ヲ來シタリシ最モ重大ナル場合ノ爲メニ制規セラレタリ、且ツ此不能力ノ此法ニ現ハル、ヤ民事上ノ死ニ代リタル所ノ剝奪公權ト禁治産トニ附增シタル一箇ノ增加刑トシテ法律ノ明確ナル正文ニ因テ現ハレ來リタリ」 最終ニ結婚ニ關シテハ這ハ一義務ノ完了タル可キアラン、又一過失ノ至急ノ賠償タルアラン、其結婚ノ式ヲ行フノ點ニ關シテハ實際監獄則ニ從フ可ク獄舍ヲ支配スル所ノ官ノ許可ニ服セサル可ラサルハ論ヲ待タスト雖𪜈結婚ヲ爲スヿヲ得ル法律上ノ能力ニ至テハ決シテ被刑者ヨリ剝奪セラレサルナリ

（一五五七） 此刑ニ關シテモ、前二刑ニ關シテノ如ク、法律ハ政府ニ許スニ或ル減免ヲ與フルヿヲ得ルノ權ヲ以テセリ、即チ禁治産ノ刑ヲ受ケタル者ハ或ル場合ニ於テ此禁ヨリ出タル結果ノ全部又ハ幾分ヲ解カル、ヿヲ得（徒刑ノ執行ニ關スル千八百五十四年五月三十日ノ法第十二條ト民事上ノ死ノ廢止ニ關スル千八百五十四年五月三十一日ノ法第四條ノ被流者ノ地位ニ關スル千八百七十三年三月二十三日ノ法第十六條ヲ參看ス可シ）

（一五五八） 輕罪裁判所ニ因テ宣告セラル、或ル公權、民權及ヒ親屬ノ權ノ施行ノ全部又ハ一部ノ禁止」 這ハ刑法第四十二條ニ因テ制規セラル、所ノ刑ナリ（一）」 此刑ヲ以テ施行ヲ禁セントスル所ノ權利ハ剝奪公權ノ刑ヲ以テ奪フ所ノ者ト同一ノ權利ナリトス、然レ𪜈此刑ハ彼ノ剝奪公權ニ於テ多數ノ權利ヲ一時ニ剝奪シテ以テ一刑ト爲スカ如キニ非ス、乃チ數多ノ權利ハ細密ニ種類ニ因テ別離シタル八個ノ番號ニ之ヲ區別シ裁判所ハ此號若クハ彼ノ號ヲ取リ之ニ含蓄シタル權利ノ禁ヲ宣告スルニアリ、而シテ之ヲ宣告スルニ當テハ號數ヲ多ク取ルアリ少ナク取ルアリ又時トシテハ全號數ヲ取ルアリト雖𪜈皆ナ法律ノ處分

ニ從フ、即チ茲ニ罰セントスル所ノ犯罰ニ適用ス可キ法律ノ處分ニ從フモノトス、此方法ハ權利ヲ集合シテ一時ニ剝奪スルノ方法ニ比スレハ遙ニ優レリ、其此刑使用ノ例ハ我輩カ註記ニ擧クル所ノ刑法ノ諸條中ニアリ(二)

(一) 刑法第四十二條《輕罪裁判所ハ或ル場合ニ於テ左ノ公權、民權及ヒ親屬ノ權ノ全部又ハ一部ノ施行ヲ禁スルヿヲ得ヘシ

第一 投票ヲ爲スノ權及ヒ議員ヲ撰擧スルノ權

第二 議員ニ選擧セラルヽノ權

第三 陪審又ハ他ノ公ケノ職務ノ任ヲ受ケ及ヒ此等ノ職務ヲ行フノ權

第四 兵器ヲ所有スルノ權

第五 親族會議ニ參シ發言スルノ權

第六 己レノ子ノ爲メト雖モ其親族ノ許ヲ得スシテ其後見人又管財人ト爲ルノ權

第七 鑑定人トナリ及ヒ證書類ノ證人ト爲ルノ權

第八 裁判所ニ於テ事實參考ノ爲メ陳述ヲ爲スヿヲ除クノ外證據人トナルノ權》

第四十三條《法律ノ特別ナル規則ヲ以テ前條ノ權ノ施行ヲ禁スルヿヲ允許シ又ハ命シタル時ニ非サレハ裁判所ハ前條ノ權ノ施行ノ禁ヲ言渡ス可ラス》

(二) 刑法中第四十二條ノ刑ヲ使用シタル場合ハ左ノ如シ、第八十六條、八十九條、九十一條、百九條、百十二條、百十三條、百二十三條、百七十一條、百七十五條、百八十五條、百八十七條、百九十七條、三百三十五條、三百八十八條、四百條、四百一條、四百五條、四百六條、四百七條、四百八條、四百十條、四百六十三條、

我輕罪裁判所ニ因テ宣告セラレタル此禁止刑ノ數ハ、我刑事統計表ニ從ヘバ、千八百二十六年ヨリ千八百四十八年ノ下季ニ至ルマテ次第ニ減少シタリシカ此期ニ至テ甚タ著明ナル增加ヲ來シタリ然レトモ又千八百六十年ヨリ急ニ減少ヲ始メタリ、茲ニ例ニ依リ四期ニ區別シタル表ハ乃チ左ノ如シ

	一年平均ノ數
從千八百二十六年 至千八百三十年	三六〇
從千八百三十一年 至千八百五十年	三六八
從千八百五十一年 至千八百六十年	六六二

從千八百六十一年
至千八百六十五年　三…五（一）

（一）此數ハ千八百六十八年ニハ二二〇ニ降リ千八百六十九年ニハ一九〇ニ降リタリ」之ヲ要スルニ此刑ハ是レ適用至テ稀レナルノ刑ナリトス

（一五五九）或ル特別法ヨリ出タル特種ノ不能力」此不能力ハ一般ノ法律ヨリハ寧ロ之ヲ制規シタル各制度又ハ各利益ニ關スル特別ノ法律ニ屬ス」我輩ハ此不能力ニ就テ最モ重モナル者トシテ特ニ左ノ不能力ヲ示ス可シ、教育ニ關スル不能力、陪審ノ職務ニ關スル不能力、及ヒ政事上ノ撰擧ニ於テ投票又ハ被撰擧ノ權ニ關スル不能力是ナリ」立法官ハ千八百四十八年ノ革命マテハ此種ノ特種不能力ヲ容易ニ制定セサリキ然レ𪜈此時期以來政權ノ施行ハ一般ニ擴メラレ無限投票ノ方法採用セラレタルヨリシテ法律上特例ノ處分ヨリ出ル不能力ハ大ニ增加シ來リタリ（一）、是レ則チ刑法第四十二條ノ緊要的減少シテ之カ適用ノ稀レナルニ至リタル原因ナリ

（一）我輩ハ茲ニ此不能力ノ例トシテ左ノ法律ヲ擧ク可シ」輸出入稅ニ關スル千八百十六年四月二十八日ノ法ハ其第五十三條ニ於テ稅間法違犯ニ付キ罰金ヲ連帶セシメ禁錮ヲ受ケシムル犯人ニ對シテ此不能力ヲ制規セリ、曰ク《此等ノ者ハ陛下ノ赦狀ヲ以テ其不能力ヲ免セラレサル以上ハ其時間株式取引所ニ出頭スルヿヲ得ス、株式中買、商品中買ノ職業ヲ營ムヿヲ得ス、商法裁判官撰擧ノ會議ニ於テ投票シ又ハ是等ノ職役ニ撰擧セラルヽヿヲ得ス》

徵兵ニ關スル千八百三十二年三月二十一日、二十三日ノ法第二十條第三項ニ徵兵代人ノ不能力アリ、其第二條第一項第二項ハ通常法ニ從ヒタルニ過キス」教育ニ關スル千八百五十年三月十五日、二十七日ノ法ハ其第二十六條及ヒ第六十五條ニ於テ《重罪又ハ廉潔若クハ風俗ニ反スル輕罪ニ因テ處斷ヲ受ケタル者及ヒ裁判ニ因テ刑法第四十二條ニ記載シタル權利ノ全部又ハ一部ヲ剝奪セラレタル者》ニ對シ公私立學校又ハ公私立小學教場ヲ起シ又ハ之ニ使用セラルヽノ不能力ヲ制定シタリ」國會議員撰擧ニ關スル千八百五十二年二月二日、二十一日ノ布達第十五條第十六條及ヒ第二十七條ハ其第十五條ニ於テ一號ヨリ十五號マテニ列記シタル或ハ重罪處斷或ハ輕罪處斷ノ理由ニ因リ投票撰擧及ヒ被撰擧權ノ數多ノ不能力ヲ定メタリ、而シテ此列記シタル重輕罪處斷ハ或ハ刑ノ重キニ因ルアリ或ハ犯罪ノ種類ニヨルアリトス、又第十五條ノ不能力ハ無期ニシテ第十六條ハ有期ナリ即チ《其刑ノ終リタルヨリ五年間》」製造及ヒ商品ノ印章記號ニ關スル千八百五十七年六月二十三日ノ法第十三條ニ因レハ犯人ハ主刑ノ外ニ

尙ホ十年ヲ過キサル時間商法裁判所幷ヒニ會議所、工業術幷ヒニ製作術會議所及ヒ商事中裁會議ノ撰擧ニ關與スルノ權ヲ剝奪セラル、ヿヲ得ヘシ」 陪審ニ關スル千八百七十二年十一月二十一日ノ法ハ其第二條第一項ヨリ第十一項マテニ記載シタル原由ニ因リ陪審トナル權ノ不能力ヲ制定シタリ、此不能力ハ國會撰擧法ニ於テノ如ク或ハ受ケタル刑ノ重キヨリ或ハ犯罪ノ性質ヨリ出タリ、右第十項マテニ記載シタル原由ヨリ出タル不能力ハ無期ニシテ其第十一項(三ケ月ヨリ短カキ懲治禁錮)ヨリ出タル者ハ有期ナリ即チ《其刑ノ終リタル日ヨリ五年間》 尙ホ此法ニ加フルニ治罪法第三百九十六條及ヒ第三百九十八條ニ照シ三回欠席シタル陪審官ニ對シ重罪裁判所ノ宣告スル所ノ陪審トナルノ不能力ヲ以テス可シ

(一五六〇) 將來ニ向テ或ル職業ヲ營ムノ不能力」 我輩ハ極メテ稀レニ此種ノ不能力ノ例ヲ見ルノミ、則チ之ヲ我特別法中ニ求ムルニ只タ一二アルノミ(一)

(一) 金銀物質及ヒ細工物ニ係ル監督ト其保證稅ノ徵收トニ關スル共和紀元第四年二月十九日ノ法第八十條ハ或ル違犯者ニ對シテ左ノ如ク制定セリ《違犯三回ニ及フトキハ罰金千「フランク」ニシテ且ツ金銀寶石飾物ノ商業ヲ禁止ス尙ホ背ク者ハ其商業ノ物件ヲ盡ク沒收ス》」 又同法第八十一條第九十九條及ヒ第百九條ハ他ノ違犯者ニ對シ同シク三回ニ及フトキハ總テ金銀物質ノ商業又ハ製造ヲ禁シ尙ホ背ク者ハ其商業ノ物件ヲ盡ク沒收スル旨ヲ記載シタリ」 我輩カ前註記ニ引用シタル輸出入稅ニ關スル千八百十六年四月二十八日ノ法第五十三條ニモ亦將來ニ向テ株式中買、商品中買ノ職業ヲ營ムノ不能力アリ

(一五六一) 刑事裁判所ニ依テ刑ノ名義ヲ以テ宣告セラル、或ル公職ノ禁止」 此禁止ノ例ハ公證人(ノテール)ニ關シテ一箇アリ(一)、株式仲買(アジヤン、ド、シヤンジユ)商品仲買人(クールディエー)ニ關スル例ニ付テハ議論一致セスト雖モ亦一例ナリト云フヿヲ得ヘシ

(二)、但シ此場合ニ於テハ行政權ヲ以テ言渡スヿヲ得ル禁止ト、法律ニ因テ認メラレタル違犯ノ理由ニ因リ刑ノ名義ヲ以テ刑事裁判所ニ於テ宣告スル所ノ禁止トハ各〻獨立ニシテ相拘ハズト言ハサル可ラス

(一) 公證事件ノ組織ニ關スル共和紀元第十一年六月二十五日ノ法第五十三條《公證人ニ對スル總テノ停止、禁止、罰金及ヒ損害賠償處罰ハ被害者告訴ニ因リ又ハ檢察ノ公訴ニ因リ職權ヲ以テ犯人ノ住所ノ民事裁判所ニ於テ之ヲ言渡ス可シ此裁判ニ對シテハ控訴ヲ爲スヿヲ得、但シ罰金ト賠償處斷ヲ除クノ外ハ假リニ執行ス可キモノトス》

尙ホ同法第六條、十二條、十三條、十六條、十七條、二十三條、二十六條、五十二條、五十七條ヲ參看スヽ可シ

(二) 商法第八十七條《前二條ニ記載シタル處分ニ違犯スルノ罪ハ職業ノ禁止ヲ來タシ猶ホ其犯人ハ輕罪裁判所ニ因テ宣告セラル、三千「フランク」ヨリ少ナカラサル罰金ヲ受クル可シ、但此罰金ハ被害者ノ請求ニヨリ科スル所ノ損害賠償ノ外ニアリトス》」尙ホ株式中買人又ハ商品仲買人ニ對スル禁令ヲ定メタル同法第八十五條及ヒ第八十七條幷ヒニ共和紀元第十年九月廿七日ノ議決ヲ比較參看スヽ可シ、此議決モ亦罰金ト職業禁止トノ制裁ヲ附シタル商法第八十五條第八十六條ト同シキ禁令アリ」疑ノ起ル點ハ此共和紀元第十年九月ノ議決ハ輕罪裁判所ヲメ職業禁止ヲ宣告セシムルヿヲ言ハス又商法第八十七條ハ之ヲ言フト雖モ甚タ曖昧トシテ明カナラス是ヨリシテ此職業禁止ハ行政權ノ管轄內ニアルヤ將タ司法權ニ屬スルヤヲ知ル能ハサルヿ是ナリ、然レモ我實際ノ裁判例ハ之ヲ特別ノ刑ナリトメ之ヲ宣告スルハ輕罪裁判所ノ管轄ナリト定メタリ

(一五六二) 監視(シュールヴェイヤンス、ドラ、ヲート、ポリス)」我輩ハ此ニ於テ又我一般ノ刑法ノ部分中ニ入レリ、監視ノ刑ハ刑ノ問題中ニ就テ學問上ニ於テモ實際上ニ於テモ最モ困難ニシテ且ツ今日ニ至ルマテ最モ不充分ニ決セラレタル問題中ニ屬ス、則チ放免セラレタル者ヲ監視スルニ係レハナリ(前數一四八八及ヒ次數參看)、純理ノ處罰方法ニ於テハ刑ハ固ヨリ其繼續スル間ハ常ニ之ヲ受クル者ノ心術改良ニ關シテハ活潑作用ヲ爲サヽル可ラス又其刑期ノ終リタル片ニ當リテハ被放免者ヲ助ケテ獄舍ヨリ平常ノ生活ニ移ラシメ社會ニ於テ善良ニ生活スルヿヲ得セシムル所ノ移轉間ノ處分ノ止ム可カラズ、然ルニ弊害多キ處罰方法ニ於テハ刑ハ固ヨリ被刑者ノ心ヲ改良スルノ性質ヲ有セス、却テ屢〻一層大ナル敗壞ヲ來タスノ機會ヲ與ヘ被放免者ノ再ヒ社會ニ現ハレ來ルヿハ一箇ノ危險トナラサルヲ得ス、從テ取ル所ノ處分ハ被放免者ヲ監視シ此監視ヲシテ十分ナラシメ有効ナラシムル爲メニ被免者ヲハ他ノ住民ノ有スル所ノ權利ヲ多少制限シタル此制限ニ從ハシムルニアリ」故ニ被刑者ノ改良ノ進歩ニ懸念シ各囚每ニ之ヲ注目シ刑期ノ終ルニ當テハ改良シタルカ如ク見ユル者ト否ラサル者トノ間ニ至當ノ區別ヲ爲スハ純理ノ處罰方法ノ固有ノ性質ナリ、弊害多キ處罰方法ハ之ニ反シ各囚ニ就テ區別ヲ爲スヿヲ爲サスシテ或ル刑ヲ受ケタル者、又ハ或ル罪ヲ犯シタル者ト唯一部類ヲ分ケテ處分ヲ施シ此部類ヨリ出タル者ハ之ヲ區別スルヿナク盡ク監視ニ付ス」然レモ若シ此監視ニ付セラレタル者ノ地位ニシテ人ノ擯斥ヲ受クルノ原因トナリ、勞力ニ食ミ再ヒ社會ニ入ル爲メニハ一箇ノ妨害タル片ハ人遂ニ策ノ出ル所ヲ知ラサルニ至ル可シ、若シ社會ニ於テ刑法ニ因リ一個人ニ對シ之カ自由ヲ奪フ片

ハ自ラ之ヲシテ生活セシムルヿノ義務負擔アルモノナリ然ルニ此人ヲ獄舍外ニ於テ其自活ニ任セシメ尙ホ之ヲシテ自ラ生活スルヿヲ得サラシムル所ノ制限ニ從ハシムル片ハ果シテ之ヲ何トカ言ハンヤ、是レ豈ニ犯罪ハ監視ヲ生シ監視ハ勞力ヲ爲スヿヲ得サルヲ來シ此勞力ヲ爲スヿヲ得サルヿハ復タ犯罪ヲ生スルモノニシテ恰モ常ニ一輪中ニ在リテ運轉スルカ如キモノニ非ズヤ、我輩ハ嘗テ之ヲ聞ク、監視ニ付セラレタル者一人巴里府ノ近傍ニ於テ漸ク職業ヲ營ムヿヲ得テ監視規則ニ違背シテ同處ニアリシカ警察官ノ之ヲ捕縛スル爲メニ來リタルヲ見テ短刀ヲ以テ自殺セリト(一)、然レモ又他ノ一方ヨリ見レハ若シ監視ニシテ甚タ緩ニ其名アルモ其實ナキカ如クナラシメハ、危險ニ對シテ如何カ社會ヲ保護スルヤ、是レ其監視方法ノ總テノ組織ニ於テ必ス遭遇スヘキ二個ノ困難ナリトス、實ニ解釋シ得ヘカラサル問題ニ非スヤ」 純理ノ處罰方法ハ寔トニ能ク被刑者ヲシテ改良セシムルニモセヨ必ヤ最終ニハ改良セサル者ノ殘リヲ餘サヽルヲ得ス、此點ニ關シテハ決シテ疑ヲ容ル可ラス、然レモ我輩ハ既ニ之ヲ豫見シ且ツ如何ニ之ヲ處分セサル可ラサルヤヲ辨シタリ(前數一四九五參看)然ラハ則チ監視ノ方法ニ就テ今講究ス可キノ點ハ成文法ニ於テ監視ニ關スル如何ナル制度カ代ル々々使用セラレタリシカ又今日ノ制度ハ如何ナルモノナルカヲ見ルニアリ

(一五六三) 千八百六十三年三月六日刊行裁判所新聞ドロワーニ此事ヲ載セタリ

(一) 或ル場所ニ住居スルノ禁ト云ヒ、又住所ノ指定ト云ヒ、此禁止指定ヲ破リタルカ爲メノ罰、又ハガレールノ刑、又時トシテハ殖民地ニ發遣スルヿ、次キニ此監視ノ稱呼等、此種々ノ元素ハ舊王政時代ノ布達及ヒ千八百十年ノ刑法前ノ法律又ハ布告ニ現ハレタリ

(一)而シテ千八百十年ノ刑法ハ法律上ヨリシテ此種々ノ元素ノ結果ヲ定メ且ツ相ヒ符合セシメ之ヲ特別ノ一刑トナシテ政府ノ上等警察ノ監視又ハ高等警察ノ特別ノ監視又政府ノ特別監視ト名ツケタリ(千八百十年ノ刑法第十一條、第四十四條及ヒ第四十六條ノ正文ヲ看ル可シ)

(一) 此布達又ハ法律ハ左ノ如シ」 我輩カ前數一二一〇註記第二ニ引用シタル布達」

共和紀元第十三年八月二十八日ノ法、此法第百三十一條ニ曰ク(若シ上等裁判所ニ於テ放免スル時ハ其放免セラレタル者ヲ時限ヲ定メテ政府ノ上等警察ノ監視及ヒ其處分ニ服セシムルヿヲ得ヘシ)」 放免セラレタル徒刑囚ノ住所ニ關スル共和紀元第十三年六月十九日ノ布達」 放免セラレタル徒刑囚ニ關スル千八百六年七月十七日ノ布達

(一五六四) 此監視ノ思考ヲ實行スル爲メニ我邦ニ於テ立法者ノ規定セル所ノ方法ハ左ノ如シ」 住居ノ地ノ指定、此指定アリタル片ハ被放免者ハ必ス此ニ住居セサルヲ得ス、又許

可ナクシテ之ヲ離ルヽヿヲ得ス故ニ容易ニ監視スルヿヲ得ルモノトス、然レ𪜈被放免者ハ容易ニ此ニ善良ニ生活スルノ方法ヲ得ルヿヲ得ルヤ、困難ノ點ハ則チ此ニアリトス」 又ハ或ル場所ニ住居スルノ禁、此禁ノ起ル所以ハ場所ニ從テ其住居ハ甚タ危險ナルカ故ナリ、故ニ此禁ヲ受ケタル者ハ總テノ他ノ場所ニ住居ヲ擇フヿヲ得、且ツ隨意ニ之ヲ變スルヿヲ得、但シ監視ヲ爲ス官署ニ之ヲ届出ツルノ任アリ、然レモ一方ヨリ見レハ此方法ヲ以テ能ク監視ニ附セラレタル者ト云フ身分ニ附着スル所ノ他人ノ擯斥ヲ避ケ得ルヤ、又他ノ一方ヨリ見レハ之ヲ以テ能ク社會ニ充分ノ保護ヲ與フルヿヲ得ルヤ」 又ハ善良ナル行狀ノ保證、英吉利ニ於テ或ル場合ニ使用スル治安保護ノ保證(デ、パッセ、テュエンダ)ト云フ者ニ同シ、」 此保證ハ保證金ヲ以テ之ヲ爲サシムルヿアリ、然レ𪜈幾何ノ金額ヲ要スルヤ、又金ヲ有セサル所ノ被放免者ハ如何カシテ此保證ヲ立ツルヿヲ得ルヤ、又被免者ノ心術ノ如何ニ由リテ充分ニ保證ヲ與フルヿアランモ何人カ能ク此保證ヲ爲スヤ又此保證ハ危險ニ對シテ充分ノ保護ヲ爲スニ足ルヤ」 疑ヒモナク保證ハ問題ヲ一般ニ解釋シ得ルノ方法ニ非ス止タ被放免者ノ一二ニ對シ施スヿヲ得ルノ方法ノミ」 或ハ又最終ニハ右種々ノ方法ヲ配合混同シタルノ制度是ナリ

(一五六五) 千八百十年ノ刑法ハ、住所ノ指定ト、或ル場所ニ住居スルノ禁ト、保證金トノ三方法配合シテ監視規則ヲ制定シタリ(舊第四十四條)、此保證ハ豫メ裁判所ニ因テ重罪輕罪處斷ノ宣告書ニ於テ定メラル、所ニシテ概ネ小金額ニシテ百「フランク」ニ過キサリキ、而シテ之ヲ差出ス者ハ最モ危險ニシテ最モ惡意アル被放免者ナリ、且ツ特ニセーヌ縣又ハ大都府ノ被放免者ニ多カリキ、故ニ此方法ハ實際ニ於テハ當初ヨリ直チニ之ヲ放棄シタリ(一)」 千八百三十二年ノ改正刑法ハ之ニ換フルニ單ニ或ル場所ニ住居スルノ禁ヲ以テシタリ、而シテ此禁ヲ受ケタル者ハ届書ダニ出セバ隨意ニ他ノ住居ノ場所ヲ擇フヿヲ得、且ツ監視ノ通行標ヲ受ケテ之ヲ遵奉スル限リハ隨意ニ住居ヲ變スルヿヲ得ルノ方法タリ(改正第四十四條)、然レ𪜈實驗上ニ於テハ日一日ヨリ憂フ可キ結果ヲ生シ特ニ被刑者被放免者及ヒ再犯者ノ數次第ニ增加シテ彌々危險トナリ、且ツ運輸ノ方法ノ變更ニ因リ內地一般ノ通運ノ地位ノ變リタルヨリシテ千八百三十二年ノ方法ノ効力ナクシテ且ツ弊害多キヿヲ認メサルヲ得ザルニ至リタリ、此際此方法ヲ人官許ノ浮浪ナリト名ツケタリシガ實ニ此稱呼ハ至當ナリキ、此ニ於テ千八百四十四年ニハ上院メ發議ニ因リ監視法ノ草按ヲ起シタリキ、此草按ニ於テハ殆ント千八百十年ノ制度ニ復セントシタリ、獄舍ニ關スル法律ノ草按ニ付キ殊ニ此點ニ關シ內務卿ハ縣令、縣會及ヒ控訴裁判所ニ對シ質問ヲ發シタリシカ意見區々ニシテ遂ニ定見ヲ得サリシナリ」 然シテ千八百五十一年ニ至リ其十二月ノ事變後直チニ同

月八日ノ布達ハ千八百三十二年ノ制度ニ換フルニ住所ノ指定ヲ以テシ且ツ巴里府及ヒ此府ノ近傍ノ住居ヲ一般ニ禁シタリ(布達第三條及ヒ第四條)而シテ此布達ハ爾後法律ノ効力アリト公布セラレタリ」然レ𪜈千八百五十一年ノ方法ハ既ニ統計表ニ於テ其効力ノ薄キヿヲ示セシガ終ニ又千八百七十年十月二十四日ノ布達ヲ以テ廢セラレタリ

(一) 千八百十二年八月四日ノ參事院ノ意見ハ左ノ件ヲ決定シタリ、保證ノ許可ハ被放免者ノ爲メニ一箇ノ權利ニアラス、之ニ允准スルト拒絶スルトノ權ハ政府ニ屬セリト

(一五六六) 現時監視ヲ制規スル所ノ法ハ千八百七十四年一月二十三日ノ法ニシテ(一)此法ハ千八百三十二年ノ改正法ノ方法ヲ採用シテ少シク之ヲ變更シタルナリ(刑法新第四十四條)、則チ或ル場所ニ住居スルヿヲ禁スルノ外被刑者ヲシテ自ラ其住居ノ場所ヲ擇ブヿヲ許セリ、然レ𪜈浮浪ノ惡弊ヲ豫防スルカ爲メニ此法ハ被刑者ヲシテ其放免ノ前少ナクモ十五日前ニ於テ自ラ住居セント欲スル所ノ地ヲ申立シム、若シ之ヲ爲サヽルトキハ政府ヨリ此地ヲ指定ス、又此法ハ特別ノ許可アリタル場合ヲ除クノ外六ケ月ノ住居ノ後及ヒ少ナクモ八日(舊法ハ三日ナリ)以前ニ其住居ノ地ノ戶長ニ告ケタルニ非サレハ被刑者ニ其地ヲ去ルヿヲ許サス(二)又其他ノ規則ハ盡ク之ヲ千八百三十二年ノ方法ヨリ取リタリ

(一) 監視ニ關スル千八百七十四年一月二十三日ノ法

(第一條 刑法第四十四條第四十六條第四十七條及ヒ第四十八條ヲ左ノ如ク改正ス

(第四十四條 監視送付ノ効果ハ政府ニ與フルニ被刑者其刑ヲ受ケタル後ヲ現ハルヽヿヲ禁スル所ノ或ル場所ヲ定ムルノ權ヲ以テスルニアリトス

被刑者ハ其放免ノ少ナクモ十五日以前ニ於テ住居セント欲スル所ノ地ヲ申立テサル可ラス、若シ此申立ヲ爲サヽルトキハ政府ハ自ラ之ヲ定ム可シ

監視ニ付セラレタル者ハ六ケ月ノ期限經過前ニ於テ其自ラ擇ヒタル住所若クハ其指定セラレタル住所ヲ去ルヿヲ得ス但シ內務卿ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

然レ𪜈縣令ハ左ノ場合ニ於テ右ノ許可ヲ與フルヿヲ得 第一 單ニ同縣ノ境界中ニ在テ住所ヲ變フルトキ 第二 至急ヲ要スルトキ但シ此場合ニ於テハ假轉住ノ名義ヲ以テ此許可ヲ與フ

六箇月ノ期限經過シタル後チ又ハ此期限前ト雖𪜈許可ヲ得タルトキハ被刑者ハ禁セラレサル總テノ地ニ移轉スルヿヲ得ヘシ但シ其移轉八日以前ニ戶長ニ申告スルノ任アリ

被刑者ハ其監視ニ付セラレタル期限中次第ニ擇ブ所ノ各住所ニ於テ六箇月ノ期限ヲ遵奉セサル可ラス但シ前段ニ記載シタル處分ニ從ヒ內務卿若クハ縣令ノ許可アリタルトキ

ハ此限ニ在ラス

凡ソ被刑者其住居ノ地ニ到ラントスル者ハ其通過セサル可ラサル路筋及ヒ經過ノ各地宿泊ノ期限ヲ定メタル通行票ヲ受ク可シ」

又其到着ノ地ニ於テハ二十四時間内ニ其住居ノ地ノ戸長役場ニ出頭ス可シ)

(第四十六條　如何ナル場合ニ於テモ監視ノ期限ハ二十年ヲ經過スルヿヲ得ス

有期徒刑、禁獄及ヒ懲役ノ刑ニ處セラレタル犯人ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其刑ノ終リタル後ヲ二十年間監視ニ付セラル可シ

然レ𪜈重罪輕罪裁判ハ監視ノ期限ヲ減縮スルヿヲ得ヘシ又被刑者ヲ監視ニ付セサル旨ヲモ宣告スルヿヲ得ヘシ

總テ無期刑ニ處セラレ刑ノ減等又ハ全免ヲ得タル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス二十年間監視ニ付セラル可シ但シ裁判宣告書ニ於テ別ニ制規シタル片ハ此限ニ在ラス)

(第四十七條　追放ノ刑ニ處セラレタル犯人ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其受ケタル刑ノ期限ニ等シキ期限間同一ノ監視ニ付セラル可シ、但重罪又ハ輕罪裁判ニ因テ別ニ規定セラレタル者ハ此限ニ在ラス

本條及ヒ前條第二項第三項ニ記載シタル場合ニ於テ若シ重罪若クハ輕罪裁判宣告ニ監視ノ全免又ハ減縮ヲ記載セサル片ハ之カ爲メニ評議ヲ爲シタルヿヲ記入ス可シ若シ此記入ナキ片ハ裁判ハ無効ニ屬ス可シ)

(第四十八條　監視ハ特赦ノ路ニ因テ全免セラレ又ハ減縮セラル、ヿヲ得ヘシ

又行政處分ニ因テ中止セラル、ヿヲ得ヘシ

刑ノ期滿免除ハ被刑者ヲシテ其受ケタル監視ヲ免カレシムルノ効ナシ

無期刑ノ期滿免除ノ場合ニ於テハ被刑者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス二十年間監視ニ付セラル可シ

監視ハ期滿免除ノ期限完了シタル日ヨリニ非サレハ其効果ヲ生セス)

(第二條　行政規則ハ監視施行ノ方法ヲ定ム可シ又試驗ノ爲メノ或ル時限ヲ經タル後ヲ監視ヲ中止スルヿヲ得ルニ關スル條件ヲ規定ス可シ

(二)　此件ニ就テ舊法ヨリ新法ニ移ルニ關シ最モ高尚ナル一問題ハ彼ノ被刑者ヲシテ自由ニ其住所ヲ擇ハシタル所ノ千八百三十二年ノ方法ノ下ニ處斷セラレタル者ニモ此新制度ヲ適用ス可キヤ否ヤヲ知ルヿ是ナリ、我輩ノ同僚タル識者ヲルノール氏ハ其千八百七十四年ノ法ニ關スル講究ト題シタル議論中ニ於テ(載セテ駁議評閲ト題スル雜誌第三卷五百六十七丁ニアリ)此新制度ヲ舊法ノ下ニ於テ處斷セラレタル者ニ適用ス